三重県桑名市

桑名城下町遺跡発掘調査報告書

外堀30地点

2004.3

桑名市教育委員会

例　　言

1　本書は桑名城下町遺跡（市遺跡№99）外堀30地点の発掘調査報告書である。調査地の所在は三重県桑名市外堀30番地である。

2　発掘調査はマンション建設に伴う事前緊急調査として、原因者負担を受けて行った。

3　現地調査は平成15年1月20日から5月30日にかけて実施した。室内での整理作業及び報告書作成は、現地調査終了後、平成16年3月31日にかけて実施した。

4　調査体制は以下のとおりである。（所在は調査参加時）

調査主体　　桑名市教育委員会

調査担当　　斎藤理（桑名市教育委員会）

調査参加者　宮島克明（愛知学院大学大学院学生）、吉井理恵、岩間昭道、奥田崇晃、岡本広子、大原夕佳、奥村萌子（以上愛知学院大学学生）、柴田涼子、水谷憲二、水谷吏江

なお、文化財保護法に基づく諸手続及び契約、調整事務等については水谷芳春（桑名市教育委員会）が担当し、現地調査及び報告書作成については平野亜紀（桑名市教育委員会）の協力を得た。

5　本書の執筆は斎藤、水谷芳春のほか、黒澤一男、新山雅広、植田弥生、藤根久（以上株式会社パレオ・ラボ）が行った。執筆分担は目次に記した。編集は平野、柴田、水谷吏江の協力を得て、斎藤が行った。

6　調査に際しては下記の機関、方々にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表す。三重県教育委員会、アイシン精機株式会社文化在プロジェクト、株式会社パレオ・ラボ、国際興業株式会社、山家建設株式会社、株式会社クイックス、藤澤良祐、尾野善裕、竹内弘光、長崎千明、加藤蓉子

7　本調査は、丸美産業株式会社の文化財に対する深いご理解のもと実施することができた。調査に対する格別のご協力、ご援助に対して厚く御礼申し上げる。

8　本調査に関する諸資料は、桑名市教育委員会で保管している。

目　　次

例言
第1章　遺跡の位置と周辺の環境 …… 斎藤　理　1
第2章　調査に至る経緯と経過
　第1節　調査に至る経緯 …… 水谷芳春　2
　第2節　調査の経過…… 斎藤　理　2
第3章　遺構…… 斎藤　理　4
　第1節　Ⅰ面…… 4
　第2節　Ⅱ面…… 5
　第3節　Ⅲ面…… 6
第4章　遺物…… 斎藤　理　9
　遺物一覧表…… 10
第5章　自然科学分析
　第1節　動物遺体の分類・同定…… 黒澤一男　27
　第2節　貝類の分類・同定…… 黒澤一男　42
　第3節　大型植物化石の同定…… 新山雅広　50
　第4節　木製品の樹種同定…… 植田弥生　53
　第5節　札状骨製品の元素マッピング分析 …… 藤根　久　55
第6章　まとめ …… 斎藤　理　57
　第1節　各遺構面の時期について…… 57
　第2節　中世から近世初頭にかけての遺物と土地利用について…… 57
　第3節　動物遺体と環境について …… 58
　第4節　鋳型について…… 59

図 版 目 次

図版1　調査地点位置図（1:10000）…… 63
図版2　調査地点位置図（1:2500）　…… 64
図版3　調査区南壁断面図…… 65
図版4　調査区西壁断面図…… 66
図版5　Ⅰ面平面図…… 67
図版6　Ⅰ面断面図…… 69
図版7　Ⅱ面平面図…… 71
図版8　Ⅱ面断面図…… 73
図版9　Ⅱ面断面図…… 74
図版10　Ⅲ面平面図 …… 75
図版11　Ⅲ面断面図 …… 77
図版12　Ⅲ面断面図 …… 78
図版13　Ⅲ面断面図 …… 79
図版14　Ⅲ面断面図 …… 80
図版15　遺物実測図 …… 81
図版16　遺物実測図 …… 82
図版17　遺物実測図 …… 83
図版18　遺物実測図 …… 84
図版19　遺物実測図 …… 85
図版20　遺物実測図 …… 86
図版21　遺物実測図 …… 87
図版22　遺物実測図 …… 88
図版23　遺物実測図 …… 89
図版24　遺物実測図 …… 90
図版25　遺物実測図 …… 91
図版26　遺物実測図 …… 92
図版27　遺物実測図 …… 93
図版28　遺物実測図 …… 94
図版29　遺物実測図 …… 95
図版30　遺物実測図 …… 96
図版31　遺物実測図 …… 97
図版32　遺物実測図 …… 98
図版33　遺物実測図 …… 99
図版34　遺物実測図 …… 100
図版35　遺物実測図 …… 101

写真図版目次

写真図版1　航空写真　桑名城下町絵図　102
写真図版2　遺構…… 103
写真図版3　遺構…… 104
写真図版4　遺構…… 105
写真図版5　遺構…… 106
写真図版6　遺構…… 107
写真図版7　遺物…… 108
写真図版8　遺物…… 109
写真図版9　遺物…… 110
写真図版10　遺物……111

第１章　遺跡の位置と周辺の環境

本調査地は、三重県桑名市外堀30番地に所在する。

三重県の北東部に位置する桑名氏市は、市域の北東部を揖斐川・長良川が流れ、伊勢湾に注いでいる。本調査地を内包する桑名城下町遺跡は、揖斐川・長良川の沖積作用によって形成された低地に発達した近世城下町である。桑名城下町が近世城下町としての体裁を整えたのは、本多忠勝によって行われた、いわゆる「慶長の町割り」の際であったとされる。

近世以降も商業施設や住宅、学校、公共施設等が立ち並ぶ市街地として利用されてきた桑名城下町であるが、埋蔵文化財包蔵地として認識されたのは、平成5、6年度にかけて行われた詳細分布調査終了後の平成7年以降である。詳細分布調査では絵図の検討や現地踏査等を行い、いわゆる総構え、すなわち外堀の内側を遺跡として地図・遺跡台帳等に登録した。

その後、主に住宅建設に伴う小規模な発掘調査が行われてきたが、掘削深度の制限等もあり、桑名城下町の実体は未だ不明確と言わざるを得ない。しかし、近年行われた発掘調査等では桑名城下町の成立・展開等がある程度解明されつつある。そのいくつかを紹介すると、平成9年度に行われた桑名条二之丸堀の調査では、桑名城創建時の可能性が高い石垣や胴木が確認されている。遺物は寛政9年の銘を有する鬼瓦等が出土している。また、平成11年度に行われた萱町93地点（法盛寺）の調査では、安政年間に建立された寺院本堂の基壇や、近世墓地等を確認している。また、桑名城下町成立以前の中世集落に伴うと考えらえる山茶碗や土師器等が、比較的まとまって出土した。

このような一部ではあるが、発掘調査により桑名城下町遺跡の詳細が次第に明らかになりつつある。

第２章　調査に至る経緯と経過

第1節　調査に至る経緯

平成 14 年 10 月 21 日、丸美産業株式会社（代表取締役嶺木昌行）から、三重県桑名市外堀 30 番地のマンション建設に際して、文化財の所在の有無及びその取り扱いを照会する文書が桑名市教育委員会に提出された。市教育委員会では遺跡地図との照合、絵図や古文書の検討、また、現地踏査を実施し、周知の遺跡である桑名城下町遺跡（市遺跡№.99）の範囲内であり、現状変更を行う場合は文化財保護法に基づく手続きが必要であること、遺構に影響する開発を行う場合は、事前に記録保存のための発掘調査が必要な旨を回答した。

その後協議を行うとともに、丸美産業株式会社より重機の提供を受けて、遺構の有無及び残存状況を確認するための試掘調査も行った。試掘調査では、戦災復興等によって攪乱を受けていた部分もあったものの、遺構及び、遺物包含層が良好に残存する部分が確認された。

試掘結果をもとに再度協議を行ったが、マンション建設の工法上、現状保存が困難と考えられる部分に関しては、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

平成 14 年 12 月 27 日、丸美産業株式会社より文化財保護法第 57 条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出を受けた市教育委員会では、三重県教育委員会に届出を行い、文化課職員斎藤理を調査担当として、平成 15 年1月 20 日発掘調査に着手した。文化庁に対する埋蔵文化財発掘調査着手の報告は、文化財保護法第 58 条の2第1項に基づき、平成 15 年2月 10 日付教文第 259 の2号にて行った。

第2節　調査の経過

近年の盛土及び、試掘調査によって確認されていた昭和 20 年の桑名空襲の際の焼土層を重機によって除去した後、遺構面の検出を行った。遺構面は3面確認でき、検出順にⅠ～Ⅲ面とした。

Ⅰ面は桑名空襲等で激しく攪乱されていたが、幕末頃の遺物が相当量出土することから、一部に近世の遺構が残存するものと思われた。よって、遺構面と認識し精査を行ったところ、幕末まで遡る可能性のある遺構としては埋甕や土坑等が確認できた。

Ⅱ面は性格は不明であるが溝、土坑等が検出された。出土遺物等から江戸時代後半頃の遺構面と考えられたため、実測、写真撮影を行っている。

Ⅲ面からは多数の土坑、溝等が検出されている。これらは貝混じりの盛土の上につくられたものもあり、埋土に焼土、炭粒等が混じるものが多かった。江戸時代中頃の遺構面と考えられるが、中世の遺物も多く出土している。これらについても実測、写真撮影を行い、すべての現地調査は9月 30 日に終了した。

なお、排水用としてⅢ面に掘削した溝より中世に属する遺物が若干出土しているが、さらに下層については開発が及ばないため調査を行っていない。

水洗洗浄、接合等の整理作業は現地調査終了後ただちに開始し、遺物の実測、写真撮影等、また木製品や貝・魚骨の分析、レイアウト及び印刷等の報告書作成業務についてはアイシン精機株式会社に委託した。

第3章　遺　　構

前章で述べたように遺構面は3面確認され、検出順にそれぞれⅠ～Ⅲ面とした。いずれも盛土等の小規模な改修が多く施されている。

以下に各遺構面の詳細を記す。

第1節　Ⅰ面

遺構は発掘区の東半分で戦災復興による攪乱が顕著であった。全体としても残存状況はさほど良好ではない。発掘区のほぼ中央部に小規模な焼土面が広がるが性格は不明である。また、東側では瀬戸美濃産の小型の壷（図版22№422）が遺構面の直上で検出された。内容物にはモズの骨が大量に含まれているが、意図・性格等は不明である。建物跡となるような柱穴も確認されず、性格不明な土坑が多数検出されたのみである。

以下に主な遺構の詳細を記す。

土坑1

調査区の北西隅で検出された。常滑産赤物の大甕（図版25№479）が肩部まで埋設されている。内容物は有機質な土壌であったが、近代陶磁器片等も出土している。

土坑2

調査区の北西隅で検出された。長辺30cm、短辺20cmを測る木箱が埋設されている。

土坑1と2の周囲には直径5cm程度の木杭が7カ所に設置されるが、土坑との関係は不明である。

土坑3

隅丸方形の土坑。埋土には炭や灰、焼土が大量に含まれている。

土坑4、5、6

土坑4は土坑5を掘り込んでいるが、埋土の状況から一連のものである可能性が高い。土坑4の埋土には橙灰色を呈する土間状の土倉（2層）が検出された。

土坑10

埋土には焼土や炭が混じる。

土坑12

埋土の暗灰褐色土層には炭と破砕貝がわずかに混じる。上面に拳大の礫が検出されたが、礎石等ではなく埋土に含まれるものと判断された。

土坑13

隅丸方形の土坑。埋土は炭混じりの暗褐色土で魚骨、獣骨等が検出された。

土坑14、15

発掘区の中央やや東寄りで検出された南北に長い土坑。埋土は灰褐色土で破砕貝が混じる。

土坑17

発掘区の南東隅で検出された。検出面に桟瓦を中心とした遺物が検出された。

第2節　Ⅱ面

遺構は西側で多数検出された。東側では自然流路の可能性が高い溝が2条検出されたのが目立つのみである。建物跡となるような柱穴等は確認されず、性格不明の土坑が多く検出された。

主な遺構について以下に詳細を記す。

溝1、2

発掘区の東側で検出された南北に走る溝である。埋土等から自然流路である可能性が高い。

溝3

発掘区の南西隅で検出された東西に走る溝である。流下方向は西から東であるが、埋土等から自然流路である可能性が高い。溝の周囲等に直径5cm程度の木杭が11カ所打ち込まれる。溝の肩部を保護する意図と考えられるが、詳細な性格は不明である。

土坑1

発掘区北東隅で検出された。瓦や陶磁器類が埋土中に大量に含まれるため、廃棄土坑と考えられる。

土坑2

埋土は灰色を呈する粘質土である。土坑1と同様に瓦や陶磁器類が埋土中に大量に含まれるため、廃棄土坑と考えられる。

土坑6

土坑2の東側で検出された。埋土は灰色を呈する粘質土である。最下部に人頭大の礫が配置されるが意図は不明である。

土坑9

発掘区の中央やや南寄りで検出された。埋土は灰褐色土で、炭を多量に含む。

土坑10

土坑9の西側で検出された。埋土は多量の炭が混じる有機質なもので、貝、魚骨等の動物遺体が含まれる。

土坑11

発掘区の西壁中央やや南寄りで検出された。西側は発掘区外となるため、全形は知り得ない。埋土は灰褐色を呈する粘質のもので炭がわずかに混じる。

土坑12

土坑11の東側で検出された。東側を試掘トレンチに切られるため、全形は知り得ない。埋土は土坑

11とほぼ同様に灰褐色を呈し、炭がわずかに混じる。埋土中に土間に使用したと思われる橙灰色土のブロックが混じる。

土坑13

土坑12の北東で検出された。上面で拳大の礫が5個検出された。埋土は灰褐色を呈し、炭がわずかに混じるものである。

土坑14

発掘区の中央やや南西から検出された不整形な土坑。数度にわたり掘り込まれた形跡があるが、性格は不明である。埋土に炭が混じるものもある。

土坑18、19

発掘区の東側で検出されたいずれも掘り込みは浅く、平坦面を確保するために落ち込みを埋めたものと思われる。土坑19の埋土には破砕貝が充填されている。

杭6、7、9、12

発掘区の中央やや西寄りにおおむね1.2 ～ 1.4mの間隔で木杭が配置される。杭7より北には杭4、5もしくは杭2、3へ続くものと思われる。

第3節　Ⅲ面

発掘区の東側及び、北西部、南西部等は混貝土層を盛土することによって平坦面が確保されている。これらの盛土にはそれぞれ小規模なトレンチを掘削して、構築状況等を確認している。その他は橙オリーブ色の砂質土の上面が遺構面となっている。

遺構は発掘区のほぼ全面に展開する。木杭の痕跡の残るものも多いが、大半は性格不明の土坑である。建物跡となるような柱穴は検出されなかった。

主な遺構、盛土等について以下に詳細を記す。

溝1～4

発掘区の北東隅で検出された南北に走る溝である。数度にわたり掘られたようで各々切り合い関係にある。流下方向は北から南で、排水用の溝であったと考えられる。溝1の肩部には木杭（杭3）が打ち込まれるが、詳細な性格は不明である。

土坑2

盛土に掘り込まれた不整形な土坑。埋土はいずれも炭の混じる有機質なものである。

土坑3

灰褐色粘質土が埋土である。炭が混じる有機質なもので、魚骨等が出土している。

土坑4

暗灰褐色砂質土が埋土である。破砕貝が多量に混じる。

土坑5

暗灰褐色砂質土が埋土である。完形のハマグリが出土している。

土坑15

埋土の2層目となる暗茶褐色土層の上面より鉄製品（578）が打ち込まれている。意図は不明である。

土坑16

埋土は暗灰褐色土を呈する砂質土である。動物遺体が出土したことから、半裁後の埋土を精査したところ、ネズミ類、小型の鳥類が検出された。

土坑17

埋土は暗灰褐色土で破砕貝が少量混じる。スッポンの甲板が検出された。

土坑18

埋土は暗灰褐色土で破砕貝や魚骨、獣骨等が少量混じる。

土坑25

埋土にマガキ、ハマグリ、シジミ等の破砕貝を多量に含む土層が検出された。

土坑28

わずかに遺構面を掘りくぼめ、常滑産赤物甕（図版24№468）を設置している。

土坑56

発掘区のほぼ中央部で検出された。埋土に破砕貝を大量に含む。

土坑57

発掘区の東端で検出された。盛土2を掘り込んでおり、埋土に破砕貝を大量に含む。

杭14 ～ 23

発掘区の南西隅で検出された。直径5cm程度の木杭が遺構面にまとまって打ち込まれている。性格は判然としない。

盛土1

発掘区の南東隅で確認された。盛土3にさらに炭が多量に混じった暗黄褐色を呈する土が盛土される。

盛土2

発掘区の南東隅で確認された。盛土3にさらに炭が多量に混じった暗褐色を呈する土が盛土される。

盛土3

発掘区の南東隅で確認された。破砕貝が多量に混じった茶褐色を呈する土が盛土される。

盛土4

発掘区の南東隅で確認された。破砕貝が多量に混じった茶褐色を呈する土が盛土される。

盛土5

発掘の南東隅で確認された。盛土3にさらに炭が多量に混じった暗褐色を呈する土が盛土される。

盛土6

発掘区の南東隅で確認された。破砕貝が多量に混じった茶褐色を呈する土が盛土される。

盛土7

発掘区の北西部の盛土である。不定形の落ち込みに暗褐色砂質土を盛土して平坦面を確保している。

第4章　遺　　物

遺物は土師器、土錘、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、古瀬戸、瀬戸・美濃産陶磁器、肥前産陶磁器、常滑産陶器、京・信楽系陶器、瓦、金属製品、石製品、骨製品、木製品等が出土した。遺構に伴うものはさほど多くなく、多くは各遺構面の遺物包含層から出土したものである。包含層の遺物取上げは、調査区を南東、南西、北東、北西と4分割したグリッドによって行っている。法量、調整等は遺物一覧表に詳細を記載したので参照されたい。

なお、遺物実測図の墨塗りは油煙、網掛けは煤の付着範囲を表している。

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
1	Ⅱ面　土坑13	土師器	—	(2.5)	—			
2	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器 台付甕カ	—	5.9	—	外面ハケ目、全体に摩耗激しい		
3	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器S字甕	—	—	—	外面体部ハケ目		
4	Ⅲ面　包含層	土師器　甕	—	—	—			
5	Ⅰ面　土坑17・18	土師器　皿	(15.4)	(10.1)	2.2			
6	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(13.7)	(10.2)	—			
7	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(11.8)	(8.0)	—			
8	Ⅲ面　土坑6	土師器　皿	(11.8)	(7.7)	2.0	外面体部煤		
9	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(11.6)	(7.8)	1.5			
10	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(11.5)	—	—			
11	Ⅲ面　包含層（盛土3）	土師器　皿	(11.3)	(6.3)	2.0			
12	Ⅲ面　包含層（盛土3）	土師器　皿	(11.2)	(7.4)	1.6			
13	Ⅲ面　包含層（盛土3）	土師器　皿	(11.1)	(7.5)	—	内面底部と外面煤		
14	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	(10.9)	(7.2)	1.8			
15	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　皿	(10.8)	(7.8)	1.4			
16	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	土師器　皿	(10.7)	(7.5)	1.1			
17	Ⅲ面　トレンチ2	土師器　皿	(10.2)	—	—			
18	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	(10.1)	(7.0)	1.8	全面に煤、口縁部に油煙		
19	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	土師器　皿	(10.0)	(6.4)	1.3			
20	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(8.9)	—	—			
21	排土	土師器　皿	(9.9)	—	—			
22	Ⅲ面　トレンチ3	土師器　皿	(9.7)	(6.1)	—	内面底部、内外面口縁部、外面底部に油煙		
23	Ⅲ面　包含層（盛土3）	土師器　皿	(9.3)	(4.2)	1.8			
24	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	土師器　皿	(9.2)	(6.1)	1.5	内外面煤		
25	Ⅱ面　土坑2	土師器　皿	(9.1)	—	—	口縁部欠けた部分に油煙		
26	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　皿	(9.0)	(5.7)	1.3			
27	Ⅱ面　土坑20	土師器　皿	(9.0)	(5.3)	1.7			
28	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(9.0)	—	—	内面口縁部煤付着		
29	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	土師器　皿	(8.9)	(5.4)	—			
30	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　皿	(8.9)	(4.2)	9.0			
31	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　皿	(8.9)	(4.0)	2.4			
32	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	(8.9)	(5.2)	1.4			
33	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	8.8	6.3	1.5	内外面口縁部油煙		
34	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　皿	(8.8)	—	—			
35	Ⅰ面　包含層	土師器　皿	(8.8)	—	—			
36	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(8.7)	(4.8)	1.8			
37	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(8.5)	—	—	外面煤		
38	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(8.4)	(6.0)	1.5			
39	Ⅲ面　土坑28	土師器　皿	(8.4)	—	—			
40	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	(8.4)	(5.1)	2.0	内面口縁部油煙		
41	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　皿	8.3	4.3	1.8			
42	Ⅲ面　土坑27	土師器　皿	(8.3)	—	—			
43	Ⅱ面　土坑13	土師器　皿	8.1	4.5	1.9	内面口縁部油煙		

遺物一覧表（1）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
44	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	土師器 皿	(8.1)	—	—			
45	Ⅱ面 包含層	土師器 皿	7.8	4.0	1.7	内外面口縁部油煙		
46	Ⅱ面 包含層	土師器 皿	(7.6)	—	—	内外面口縁部油煙		
47	Ⅲ面 包含層	土師器 皿	(7.4)	(4.6)	1.7			
48	Ⅲ面 包含層	土師器 皿	7.4	4.3	1.3			
49	Ⅱ面 土坑16	土師器 皿	(7.4)	—	—			
50	Ⅱ面 包含層	土師器 皿	(7.1)	(4.0)	—			
51	Ⅱ面 土坑20	土師器 皿	(7.1)	(3.8)	1.2			
52	Ⅲ面 土坑19	土師器 皿	(7.1)	(3.0)	1.4			
53	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	土師器 皿	(7.0)	—	1.6			
54	Ⅰ面 包含層	土師器 皿	(7.0)	—	()			
55	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	土師器 皿	(6.8)	(3.4)	1.3			
56	Ⅰ面 包含層	土師器 皿	6.6	3.2	1.6			
57	Ⅲ面 溝1	土師器 皿	(6.6)	(2.8)	1.5			
58	Ⅲ面 土坑27	土師器 皿	(6.5)	—	—			
59	Ⅰ面 土坑1	土師器 皿	(6.4)	(4.0)	1.3			
60	Ⅱ面 土坑20	土師器 皿	6.3	1.8	1.4	内面口縁部から外面体部にかけて油煙		
61	Ⅰ・Ⅱ面 包含層	土師器 皿	6.1	3.5	1.1	内外面口縁部油煙		
62	Ⅲ面 包含層（盛土3）	土師器 皿	5.9	3.6	1.2			
63	Ⅱ面 包含層	土師器 皿	5.9	2.5	1.2			
64	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	土師器 皿	(5.9)	(2.5)	1.2	内面から外面体部にかけて油煙		
65	Ⅱ面 包含層	土師器 皿	(5.8)	(2.8)	0.9			
66	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	土師器 皿	—	—	—			
67	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	土師器 皿	—	—	—	ての次口縁	16世紀	
68	Ⅱ面 包含層	土師器 皿	—	—	—			
69	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	土師器 皿	—	—	—			
70	Ⅱ面 包含層	土師器 皿	—	—	—			
71	Ⅱ面 包含層	土師器 皿	—	—	—			
72	Ⅲ面 包含層（盛土2）	土師器 皿	—	—	—			
73	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	土師器 皿	—	—	—			
74	Ⅱ面 土坑14	土師器 皿	—	—	—			
75	Ⅰ面 包含層	土師器 皿	—	—	—			
76	Ⅱ面 土坑14	土師器 皿	—	—	—			
77	Ⅲ面 包含層（盛土2）	土師器 皿	—	—	—			
78	Ⅰ面 包含層	土師器 皿	—	—	—			
79	Ⅰ面 包含層	土師器 皿	—	—	—			
80	排土	土師器 皿	—	—	—			
81	Ⅱ面 包含層	土師器 皿	—	—	—	内面から外面体部にかけてヨコナデ		
82	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	土師器 皿	—	—	—			
83	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	土師器 皿	—	—	—			
84	Ⅲ面 土坑2	土師器 皿	—	—	—	内外面口縁部油煙		
85	Ⅰ面 土坑17・18	土師器 皿	—	—	—			
86	Ⅲ面 土坑52	土師器 皿	—	—	—	内外面口縁部油煙		

遺物一覧表（2）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
87	Ⅱ面　土坑10	土師器　皿	－	－	－	煤、油煙		
88	Ⅲ面　包含層（盛土3）	土師器　皿	－	－	－	外面煤		
89	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　皿	－	－	－	内外面口縁部油煙		
90	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	－	－	－			
91	Ⅰ・Ⅱ面　包含層	土師器　皿	－	－	－	内外面口縁部油煙		
92	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　皿	－	－	－			
93	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	－	－	－	内外面口縁部油煙、内外面とも摩耗激しい		
94	Ⅰ面　包含層	土師器　皿	－	－	－			
95	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	土師器　皿	－	－	－			
96	Ⅲ面　土坑35	土師器　皿	－	－	－			
97	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　皿	－	－	－			
98	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　皿	－	－	－			
99	Ⅲ面　土坑35	土師器　皿	－	－	－			
100	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　皿	－	－	－			
101	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	－	－	－			
102	Ⅲ面　土坑36	土師器　皿	－	－	－	ロクロ成形、非常によく焼け締まる		
103	Ⅱ面　土坑4	土師器　皿	－	－	－			
104	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	－	－	－			
105	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	土師器　皿	－	－	－			
106	Ⅱ面　土坑14	土師器　皿	－	－	－			
107	排土	土師器　皿	－	－	－	内外面口縁部油煙		
108	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	土師器　皿	－	－	－			
109	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　皿	－	－	－			
110	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	－	－	－			
111	Ⅲ面　溝1	土師器　皿	－	－	－			
112	Ⅲ面　土坑35	土師器　皿	－	－	－			
113	Ⅲ面　土坑35	土師器　皿	－	－	－			
114	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	－	－	－	内外面口縁部油煙		
115	Ⅲ面　包含層（盛土3）	土師器　皿	－	－	－			
116	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　皿	－	－	－			
117	Ⅱ面　土坑12	土師器　皿	(12.1)	(10.3)	1.6	ロクロ成形		
118	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	－	(5.6)	－	ロクロ成形、糸切り痕		
119	Ⅱ面　包含層	土師器　皿	(6.4)	(4.9)	1.1	ロクロ成形		
120	排土	土師器　皿	(7.9)	(2.8)	1.0	ロクロ成形、糸切り痕		
121	Ⅲ面　包含層	土師器　皿	(6.5)	(3.9)	1.5	ロクロ成形、糸切り痕		
122	Ⅰ面　包含層	土師器　皿	－	－	－	ロクロ成形		
123	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　鍋	－	－	－	伊勢型、外面煤	14世紀	
124	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　鍋	－	－	－	伊勢型、外面頸部・内面口縁部煤	14～15世紀	
125	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　鍋	－	－	－	伊勢型、外面煤	14～15世紀	
126	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　鍋	－	－	－	伊勢型、外面煤	14～15世紀	
127	Ⅲ面　トレンチ3	土師器　鍋	－	－	－	伊勢型	14～15世紀	
128	Ⅱ面　包含層	土師器　鍋	－	－	－	伊勢型、内面口縁部から外面にかけて煤	14～15世紀	
129	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　鍋	－	－	－	伊勢型、外面煤	14～15世紀	

遺物一覧表（3）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
130	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　鍋	—	—	—	伊勢型、外面煤	14 ～ 15世紀	
131	Ⅲ面　包含層	土師器　鍋	—	—	—	伊勢型	14 ～ 15世紀	
132	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　鍋	—	—	—	伊勢型、外面煤	16 ～ 17世紀	
133	Ⅲ面　トレンチ3	土師器　鍋	(32.0)	—	—	伊勢型、外面体部煤	16 ～ 17世紀	
134	Ⅲ面　土坑25	土師器　茶釜	(12.7)	—	—	内面体部指オサエ、内外面ヨコナデ	16世紀カ	
135	Ⅲ面　溝1	土師器　茶釜	—	—	—			
136	排土	土師器　茶釜	—	—	—			
137	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　茶釜	—	—	—		16世紀カ	
138	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　鍋	—	—	—	耳部の一部残存		
139	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	土師器　羽釜	(25.3)	—	—	内外面煤付着、直径0.9cmの焼成前穿孔、外面鍔から内面口縁端部にかけて摩耗		
140	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　羽釜	(21.6)	—	—	外面鍔下煤		
141	Ⅰ面　土坑11	土師器　羽釜	(31.9)	—	—	焼成前穿孔（直径0.8）、外面鍔下煤、内面体部煤	17世紀	
142	Ⅲ面　包含層	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔下煤、焼成穿孔（直径0.9）	15 ～ 16世紀カ	
143	Ⅲ面　包含層	土師器　羽釜	—	—	—	焼成前穿孔（直径0.4）、外面鍔下煤、内面穿孔部剥離摩耗	14 ～ 16世紀カ	
144	Ⅲ面　包含層	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔下煤	16世紀カ	
145	Ⅲ面　包含層	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔より下煤、口縁部焼成前穿孔（直径0.3）		
146	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔より下煤、内面口縁部煤	15世紀頃カ	
147	Ⅲ面　包含層（盛土2）	土師器　羽釜	—	—	—	口縁部焼成前穿孔（直径0.5）	15世紀頃カ	
148	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔より下煤		
149	Ⅱ面　土坑15	土師器　羽釜	—	—	—	鍔端部にのみ煤		
150	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔より下煤	16～17世紀カ	
151	Ⅲ面　包含層(南東Gr.・南西Gr.)	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔より下煤		
152	Ⅱ面　包含層	土師器　羽釜	—	—	—			
153	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔より下煤		
154	Ⅰ面　包含層	土師器　羽釜	—	—	—		19世紀	
155	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　羽釜	—	—	—			
156	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	土師器　鍋	—	—	—			
157	Ⅲ面　土坑58	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔より下煤、内面底部煤		
158	Ⅲ面　土坑25	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔の下から体部にかけて煤		
159	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　羽釜	—	—	—	外面口縁部と鍔下端から体部にかけて煤		
160	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　羽釜	—	—	—	外面鍔より下煤		
161	Ⅲ面下包含層(南西Gr.砂層)	土師器　焙烙	—	—	—		16～17世紀	
162	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　焙烙	—	—	—	外面煤付着、内面耳あり	16～18世紀	
163	Ⅲ面　包含層	土師器　焙烙	—	—	—	内耳、外面体部に煤、胎土に繊細な雲母含む	19世紀前半	
164	Ⅲ面　包含層	土師器　焙烙	—	—	—	焙烙カ、外面煤	17世紀	
165	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	土師器　焙烙	—	—	—		18世紀	
166	Ⅲ面　土坑51	土師器　焙烙	—	—	—	外面煤	17世紀	
167	Ⅲ面　土坑35	土師器　焙烙	—	—	—	外面煤、内面煤		
168	Ⅲ面　土坑35	土師器　焙烙	—	—	—	外面煤、内面煤	18世紀	
169	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	土師器　焙烙	—	—	—	外面煤	18世紀	
170	Ⅲ面　土坑35	土師器　焙烙	—	—	—	外面煤	18世紀	
171	Ⅱ面　土坑14	土師器　焙烙	—	—	—	外面煤、胎土に雲母含む	16～17世紀	

遺物一覧表（4）

番号	層位/遺構	器種	法量(cm)			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径(高台径)	器高			
172	Ⅲ面 包含層	土師器 焙烙	—	—	—	外面煤、内面体部煤	18世紀	
173	Ⅲ面 包含層(南西Gr.)	土師器 焙烙	—	—	—	外面体部煤	18世紀	
174	Ⅱ面 包含層	土師器 焙烙	—	—	—	胎土に雲母(少量)含む	18世紀	
175	Ⅱ面 包含層(北東Gr.)	土師器 焙烙	—	—	—	外面煤、胎土に雲母含む	18世紀後半～19世紀前半	
176	Ⅱ面 包含層	土師器 焙烙	—	—	—	外面煤	18世紀	
177	Ⅱ面 包含層(北東Gr.・南東Gr.)	土師器 焙烙	—	—	—	外面煤		
178	表土層	土師器 焙烙	—	—	—	外面煤、内面体部煤、胎土に雲母含む	19世紀後半	
179	Ⅱ面 包含層	土師器 焙烙	—	—	—	外面煤、内面体部煤、胎土に雲母含む	19世紀後半	
180	Ⅲ面 トレンチ3	土師器 鍋	(25.0)	—	—	外面煤	16世紀後半～17世紀前半	
181	Ⅲ面 包含層(南東Gr.)	土師器 鍋	(25.0)	—	—	内耳鍋、内面縦方向に工具痕、ヨコナデ、外面指オサエ、ナデ、外面煤	16世紀後半～17世紀前半	
182	Ⅲ面 トレンチ1	土師器 鍋	(26.3)	—	—	内耳鍋、外面煤		
183	Ⅰ面 包含層	土師器 鍋	—	—	—	内耳鍋、外面煤		
184	Ⅲ面 包含層(北西Gr.)	土錘	長さ4.9、直径4.5、穴の直径2.3					
185	Ⅲ面 包含層(南西Gr.)	土錘	残存長6.3、直径2.5、穴の直径1.4					
186	Ⅲ面 溝3	土錘	残存長6.3、直径2.1、穴の直径1.0					
187	Ⅲ面 包含層	土錘	長さ6.1、直径2.5、穴の直径0.8					
188	Ⅲ面 包含層(南西Gr.)	土錘	長さ6.1、直径3.1、穴径1.6			胎土練り込み状		
189	Ⅲ面 包含層(北西Gr.)	土錘	長さ4.1、直径1.5、穴の直径0.6					
190	Ⅲ面 包含層(北西Gr.)	土錘	長さ5.0					
191	排土	須恵器 椀	—	(3.8)	—	全面摩耗激しい		
192	Ⅲ面 包含層(盛土3)	須恵器 椀	—	(4.5)	—	糸切り痕、内面煤カ	8世紀以降	
193	Ⅲ面 包含層(南東Gr.)	須恵器 ハソウか	—	—	—	沈線2条、摩耗激しい		
194	Ⅲ面 包含層(北東Gr.)	灰釉陶器 椀	—	—	—	内外面灰釉	8世紀末～9世紀	猿投
195	Ⅲ面 包含層(南東Gr.)	灰釉陶器 椀	—	(6.6)	—	糸切り痕	10世紀後半	猿投
196	Ⅲ面 包含層(北西Gr.・南西Gr.)	灰釉陶器 椀	—	(7.2)	—	糸切り痕	9世紀中葉～10世紀	猿投
197	Ⅲ面 溝1	灰釉陶器 皿	—	(5.9)	—	糸切り痕、重ね焼き痕	9世紀末～10世紀前半	猿投
198	Ⅱ面 包含層	山茶碗 椀	—	(8.6)	—	糸切り痕、指圧痕	12世紀中葉	尾張
199	Ⅰ面 包含層	山茶碗 椀	—	(7.2)	—	糸切り痕、指圧痕	12世紀前葉	尾張
200	Ⅲ面 包含層(北西Gr.)	山茶碗 椀	—	(7.5)	—	内外面使用痕	13世紀前葉	尾張
201	Ⅲ面 包含層(北西Gr.)	山茶碗 椀	—	(7.1)	—	内外面使用痕	12世紀後葉	尾張
202	Ⅲ面 トレンチ3	山茶碗 椀	—	(6.5)	—	モミガラ痕	12世紀前葉	尾張
203	Ⅱ面 土坑14	山茶碗 椀	—		—	糸切り痕、内面使用痕	12世紀後葉	尾張
204	Ⅲ面 包含層(北西Gr.)	山茶碗 椀	—	—	—		13世紀前葉	尾張
205	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	(13.4)	—	—	内外面煤	13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
206	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	(11.4)	—	—	指圧痕、内面体部降灰、付高台欠	13世紀中葉	尾張

遺物一覧表 (5)

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
207	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗　椀	—	—	—		14世紀前半	尾張
208	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	山茶碗　椀	—	—	—		12世紀後葉～13世紀前葉	尾張
209	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	山茶碗　椀	—	—	—	内外面口縁端部使用痕	13世紀前葉	尾張
210	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	山茶碗　椀	—	—	—		14世紀前葉	尾張
211	Ⅲ面下包含層	山茶碗　椀	—	—	—	内外面煤、内面体部摩耗	13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
212	Ⅲ面　土坑40	山茶碗　椀	—	—	—		14世紀前葉	尾張
213	Ⅲ面　包含層	山茶碗　椀	—	—	—		13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
214	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗　椀	(13.0)	—	—	内面から外面口縁部にかけて煤、内面摩耗、外面のみ降灰	13世紀中葉～後葉	尾張
215	Ⅲ面　包含層	山茶碗　椀	—	—	—	内面体部下半と内外面口縁部摩耗	14世紀前葉	尾張
216	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	山茶碗　椀	—	(6.0)	—	指圧痕、モミガラ痕、内面煤、内面使用痕	13世紀前葉	尾張
217	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	山茶碗　椀	—	6.9	—		13世紀前葉	尾張
218	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	山茶碗　椀	—	(5.5)	—	指圧痕	13世紀前葉	尾張
219	Ⅲ面下包含層	山茶碗　椀	—	(7.3)	—	指圧痕、モミガラ痕、内面・高台摩耗	13世紀前葉	尾張
220	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗　椀	—		—	糸切り痕、指圧痕、モミガラ痕、内面底部摩耗	13世紀中葉	尾張
221	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗　椀	—	(6.5)	—	指圧痕、モミガラ痕、内面底部煤	12世紀後葉	尾張
222	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	山茶碗　椀	—	(6.3)	—	糸切り痕、内面底部使用痕	13世紀前葉	尾張
223	Ⅱ面　包含層	山茶碗　椀	—	(6.0)	—	糸切り痕、付高台の痕跡あり	13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
224	Ⅲ面　土坑17	山茶碗　椀	—	—	—		13世紀中葉	尾張
225	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	山茶碗　椀	—	—	—		13世紀中葉	尾張
226	Ⅲ面　土坑2	山茶碗　椀	—	—	—		13世紀前葉	尾張
227	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗　椀	—	—	—	内面底部と高台摩耗	12世紀後葉	尾張
228	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	山茶碗　椀	(11.8)	(5.3)	5.0	内外面煤	14世紀中葉	尾張
229	Ⅲ面　包含層	山茶碗　椀	(12.7)	(5.2)	5.2	内面体部と内外面口縁部煤	14世紀前葉	尾張
230	Ⅲ面　包含層	山茶碗　椀	(13.4)	—	—		14世紀前葉	尾張
231	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	山茶碗　椀	(14.3)	—	—	内面煤、内面使用痕	13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
232	Ⅱ面　包含層	山茶碗　椀	—	—	—	内面体部から外面口縁部にかけて摩耗	14世紀前葉	尾張
233	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗　椀	—	—	—		14世紀前葉	尾張
234	Ⅲ面　包含層	山茶碗　椀	—	(8.6)	—	糸切り痕、指圧痕	14世紀前葉	尾張
235	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	山茶碗　椀	—	(5.6)	—		14世紀中葉	尾張
236	排土	山茶碗　椀	—	(7.1)	—	糸切り痕	14世紀前葉	尾張

遺物一覧表（6）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
237	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	山茶碗 椀	－	（7.2）	－	指圧痕、糸切り痕、外面底部に繊維の痕跡（わら?）、内面底部使用痕	14世紀前半	尾張
238	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	－	（5.9）	－	糸切り痕、指圧痕	13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
239	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗 椀	－	（5.4）	－	糸切り痕、指圧痕	13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
240	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	－	（6.3）	－	糸切り痕	13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
241	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	－	（5.1）	－		14世紀前葉	尾張
242	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	山茶碗 椀	－	－	－		14世紀前葉	尾張
243	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗 椀	－	－	－	内面口縁部煤	14世紀前葉	尾張
244	Ⅲ面 土坑35	山茶碗 椀	－	－	－		14世紀中葉	尾張
245	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	－	5.4	－	糸切り痕、板目痕、指圧痕	14世紀中葉	尾張
246	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗 椀	－	（5.3）	－	糸切り痕、指圧痕	14世紀前半	尾張
247	Ⅲ面 土坑18	山茶碗 椀	－	（5.9）	－		13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
248	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	－	（6.0）	－	糸切り痕、板目痕、指圧痕、内面使用痕	14世紀前葉	尾張
249	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	山茶碗 椀	－	（5.4）	－	指圧痕、糸切り痕	14世紀中葉	尾張
250	Ⅲ面下包含層	山茶碗 椀	－	（5.4）	－	糸切り痕、指圧痕	14世紀中葉～後葉	尾張
251	Ⅱ面 溝3	山茶碗 椀	－	－	－	糸切り痕、内面使用痕	13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
252	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	－	－	－	糸切り痕、指圧痕	13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
253	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	山茶碗 椀	（13.4）	－	－	口縁部使用痕	14世紀前葉	尾張
254	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	－	（7.8）	－	糸切り痕	14世紀後半	尾張
255	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	山茶碗 椀	－	（5.1）	－		14世紀中葉	尾張
256	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	山茶碗 椀	－	（5.1）	－	指圧痕、糸切り痕	14世紀中葉	尾張
257	排土	山茶碗 椀	－	（5.2）	－	糸切り痕、内面底部煤	14世紀中葉	尾張
258	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	山茶碗 椀	－	（5.1）	－	指圧痕、糸切り痕、内面底部使用痕	14世紀中葉	尾張
259	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗 椀	（12.2）	－	－	内外面口縁部摩耗	14世紀中葉	尾張
260	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	山茶碗 椀	－	－	－	内面煤	14世紀前半	尾張
261	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	山茶碗 椀	－	－	－	内外面口縁部摩耗	14世紀前半	尾張
262	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	山茶碗 椀	－	－	－		14世紀前半	尾張
263	Ⅲ面 包含層	山茶碗 椀	－	－	－		14世紀中葉	尾張
264	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	山茶碗 椀	－	－	－		13世紀後葉～14世紀前葉	美濃
265	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	山茶碗 椀	－	（4.2）	－	指圧痕、モミガラ痕	14世紀前葉	美濃

遺物一覧表（7）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
266	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	山茶碗 小皿	（7.4）	（5.2）	1.6		13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
267	Ⅱ面 包含層	山茶碗 小皿	（7.1）	—	—		13世紀後葉～14世紀前葉	尾張
268	Ⅲ面 包含層	山茶碗 鉢	—	—	—		13世紀後葉	尾張
269	Ⅲ面 包含層（盛土2）	山茶碗 鉢	—	—	—		13世紀前葉	尾張
270	Ⅲ面 土坑36	山茶碗 鉢	—	10.5	—		14世紀中葉	瀬戸
271	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	陶器 天目茶碗	（11.4）	—	—	鉄釉	17世紀前葉	瀬戸美濃
272	Ⅲ面 包含層	陶器 天目茶碗	（16.3）	—	—	灰釉、古瀬戸	14世紀前葉	瀬戸美濃
273	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 縁釉皿	（11.5）	—	—	鉄釉、古瀬戸	15世紀前半	瀬戸美濃
274	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	陶器 縁釉皿	（11.7）	—	—	内面から外面口縁部にかけて灰釉、古瀬戸	14世紀後葉	瀬戸美濃
275	Ⅱ面 包含層	陶器 縁釉皿	（12.2）	—	—	内面から外面口縁部にかけて灰釉、古瀬戸	14世紀後葉	瀬戸美濃
276	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 縁釉皿	（12.4）	—	—	灰釉、古瀬戸	14世紀後葉	瀬戸美濃
277	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 縁釉皿	（10.6）	（5.1）	2.9	糸切り痕、内外面口縁部鉄釉、古瀬戸	15世紀前半	瀬戸美濃
278	Ⅲ面 包含層	陶器 丸皿	—	（3.9）	—	糸切り痕、内面灰釉、古瀬戸	13世紀末～14世紀中葉	瀬戸美濃
279	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 縁釉皿	—	—	—	鉄釉、古瀬戸	15世紀前半	瀬戸美濃
280	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 縁釉皿	—	—	—	灰釉、古瀬戸	14世紀後葉～15世紀前葉	瀬戸美濃
281	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 皿	—	—	—	内面から外面口縁部にかけて灰釉、古瀬戸	15世紀中葉	瀬戸美濃
282	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	陶器 皿	—	—	—	内面緑釉、外面煤	17世紀前葉	瀬戸美濃
283	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 折縁皿	（10.5）	—	—	内外面灰釉、内外面口縁部油煙、大窯製品	16世紀末	瀬戸美濃
284	Ⅲ面 包含層	陶器 卸皿	—	（9.8）	—	内面灰釉、古瀬戸	13世紀後葉	瀬戸美濃
285	Ⅲ面 包含層	陶器 折縁深皿	—	—	—	灰釉、古瀬戸	14世紀後葉～15世紀前葉	瀬戸美濃
286	Ⅲ面 トレンチ3	陶器 折縁深皿	—	—	—	内外面灰釉、古瀬戸	15世紀中葉	瀬戸美濃
287	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 折縁深皿	—	（15.9）	—	内面・外面体部灰釉、見込みに櫛目（5本）、古瀬戸	13世紀末～14世紀前葉	瀬戸美濃
288	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 梅瓶	—	—	—	内外面灰釉、沈線4条、古瀬戸	13世紀末～14世紀前葉	瀬戸美濃
289	Ⅲ面 トレンチ3	陶器 四耳蓋	—	—	—	外面体部灰釉、古瀬戸	12世紀後葉～13世紀後半	瀬戸美濃
290	Ⅲ面 包含層	陶器 香炉	（11.0）	（7.4）	4.5	糸切り痕、脚付き、内面から外面体部にかけて灰釉	17世紀前葉～中葉	瀬戸美濃
291	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	陶器 擂鉢	—	—	—	内外面錆釉、古瀬戸	15世紀後葉	瀬戸美濃
292	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 擂鉢	—	—	—	内外面錆釉、大窯製品	15世紀後葉～16世紀前葉	瀬戸美濃
293	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	陶器 擂鉢	—	—	—	内外面錆釉、古瀬戸	15世紀後葉	瀬戸美濃
294	Ⅱ面 包含層	陶器 擂鉢	—	—	—	内外面錆釉、大窯製品	16世紀後半	瀬戸美濃
295	—	陶器 擂鉢	—	—	—	内外面錆釉、大窯製品	16世紀中葉～後葉	瀬戸美濃

遺物一覧表（8）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
296	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	陶器　玉縁口縁壷	—	—	—		15世紀後半カ	常滑
297	Ⅲ面　包含層	陶器　壷	—	—	—	降灰	13世紀第4四半期～14世紀前半	常滑
298	Ⅱ面　包含層	陶器　壷	—	—	—	降灰	13世紀第2四半期～第3四半期	常滑
299	Ⅱ面　包含層	陶器　天目茶碗	(10.9)	4.6	7.4	内面から外面体部にかけて鉄釉、口縁端部摩耗	17世紀前葉	瀬戸美濃
300	Ⅱ面　包含層	陶器　天目茶碗	—	—	—	内外面鉄釉	17世紀前葉	美濃
301	Ⅲ面　包含層	陶器　碗	(9.6)	(3.6)	5.8	内外面灰釉	18世紀中葉	瀬戸
302	Ⅱ面　包含層	陶器　碗	11.4	4.7	5.8	内面から外面体部にかけて長石釉、内外面煤、大窯製品	16世紀末	瀬戸美濃
303	Ⅰ面　包含層	陶器　碗	(11.9)	(5.1)	7.2	内面から外面体部にかけて鉄釉、口縁部灰釉流し	18世紀前半	瀬戸美濃
304	排土	陶器　碗	(12.6)	—	—	内外面鉄釉、口縁部灰釉流し	17世紀中葉	美濃
305	Ⅱ面　土坑16	陶器　碗	(11.8)	(3.9)	8.5	内面から外面体部にかけて灰釉	17世紀後葉～18世紀前葉	美濃
306	Ⅰ面　包含層	陶器　碗	—	—	—	内外面灰釉、外面体部下半煤	18世紀後半～19世紀	瀬戸美濃
307	Ⅱ面　溝2	陶器　碗	—	—	—	内外面灰釉	17世紀前葉	瀬戸美濃
308	Ⅲ面　包含層	陶器　碗	—	(3.8)	—	内面・外面灰釉、高台端部摩耗	18世紀後半～19世紀前葉	美濃
309	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	陶器　碗	—	(6.2)	—	向付カ、内面・外面長石釉、高台端部摩耗	17世紀前葉	瀬戸
310	Ⅲ面　溝1	陶器　碗	—	(5.6)	—	腰錆、内面・外面口縁部灰釉、外面体部下半・高台内鉄釉	17世紀後葉	瀬戸
311	Ⅲ面　包含層	陶器　碗	(10.0)	—	—	内外面灰釉	18世紀中葉	美濃
312	Ⅰ面　包含層	陶器　碗	(9.3)	—	—	内面・外面体部鉄釉・灰釉掛け分け	18世紀後半	瀬戸美濃
313	Ⅱ面　包含層	陶器　皿カ	(11.3)	—	—	内外面灰釉	18世紀後葉～19世紀前葉	瀬戸
314	Ⅰ面　土坑5	陶器　餌鉢	—	—	—	内面から外面体部にかけて鉄釉	18世紀後葉	美濃
315	Ⅱ面　土坑14	陶器　小碗	7.2	3.7	3.7	内面から外面体部にかけて灰志野	18世紀	瀬戸美濃
316	Ⅱ面　包含層	陶器　小碗	(6.9)	(3.6)	4.4	内面から外面体部にかけて灰釉		瀬戸美濃
317	Ⅰ面　包含層	陶器　小碗	(5.4)	(2.9)	4.0	内面から外面にかけて灰釉、内面底部にトチ目あり	18～19世紀	瀬戸美濃
318	Ⅱ面　包含層	陶器　小碗	(6.1)	(3.0)	3.4	内面から外面体部にかけて灰釉	18～19世紀	瀬戸美濃
319	Ⅱ面　包含層	陶器　小碗	(7.9)	(3.4)	3.3	内外面灰釉	18～19世紀	瀬戸美濃
320	Ⅱ面　土坑10	陶器　小碗	—	—	—	内外面灰釉	18世紀前葉～中葉	美濃
321	Ⅰ面　包含層	陶器　碗	(10.0)	(3.9)	5.2	内面から外面体部にかけて灰釉		京・信楽系
322	Ⅰ面　包含層	陶器　碗	(9.4)	—	—	内外面灰釉		京・信楽系
323	Ⅰ面　包含層	陶器　碗	—	(4.4)	—	内面・外面体部灰釉、高台内に印「清水」		京焼系
324	Ⅱ面　土坑10	陶器　碗	(9.5)	—	—	軟質施釉陶器、低火度釉、内面黒釉、外面白化粧に透明釉、緑色の上絵、被熱、一部に煤	17世紀前半	
325	Ⅱ面　包含層	陶器　碗	—	—	—	軟質施釉陶器、低火度釉、内面褐色釉、外面白化粧に透明釉、緑色の松の上絵、口縁部のみ黄緑色の釉		
326	Ⅲ面　包含層	陶器　碗	—	—	—	内外面灰釉、外面に鉄絵	17世紀カ	肥前
327	Ⅰ面　土坑15	陶器　碗	—	(3.0)	—	内面・外面体部灰釉		京・信楽系
328	Ⅱ面　包含層	陶器　碗	—	(5.0)	—	内面・外面灰釉、御器手		肥前

遺物一覧表（9）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
329	Ⅱ面 包含層	陶器 碗	—	(4.7)	—	内面・外面灰釉、御器手		肥前
330	Ⅱ面 包含層	陶器 碗か	—	(3.3)	—	低火度焼成、型成形カ、内面底部菊文、内面上絵（透明釉、白、緑釉）		
331	Ⅲ面 溝2	陶器 碗	—	—	—	内面・外面体部釉		不明
332	Ⅰ面 包含層	不明 広東茶碗	—	(6.0)	—	青磁か		不明
333	Ⅰ面 包含層	陶器 皿	(7.8)	(3.4)	1.7	内面から外面口縁部にかけて灰釉	18～19世紀	瀬戸美濃
334	Ⅲ面 土坑25	陶器 皿	10.6	6.2	2.3	内面から外面体部にかけて長石釉、内面底部にトチ目3カ所	17世紀初頭	瀬戸美濃
335	Ⅱ面 土坑14	陶器 皿	10.9	6.2	2.2	内面面長石釉、外面底部にトチ目3カ所、内外面煤	17世紀	瀬戸美濃
336	Ⅱ面 包含層	陶器 皿	(11.8)	(6.8)	2.3	内・外面長石釉、内面底部トチ目1カ所	17世紀前葉	瀬戸美濃
337	Ⅱ面 包含層	陶器 皿	(12.3)	(6.0)	2.9	内面から外面体部にかけて灰釉、内面底部重ね焼き痕	17世紀後葉	美濃
338	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	陶器 皿	(12.0)	—	—	内外面長石釉	17世紀前葉	瀬戸美濃
339	Ⅱ面 包含層	陶器 皿	—	(6.4)	—	内面体部丸ノミ彫り、内面・外面体部灰釉	17～18世紀カ	瀬戸美濃
340	Ⅱ面 溝2	陶器 皿か	—	(5.6)	—	内面・外面灰釉	17世紀前葉	瀬戸美濃
341	Ⅱ面 包含層	陶器 皿	—	(8.4)	—	内面・外面体部長石釉、外面底部煤、内面底部トチ目3カ所、高台内トチ目2カ所	17世紀前葉	瀬戸美濃
342	Ⅰ面 包含層	陶器 皿	—	(5.5)	—	輪禿皿、内面・外面体部灰釉	17世紀後半	瀬戸美濃
343	Ⅲ面 土坑4	陶器 皿	—	(7.2)	—	内面・外面長石釉、高台端部摩耗、（破断面も）被熱、大窯製品	16世紀末	瀬戸美濃
344	Ⅱ面 溝2	陶器 皿	—	—	—	内面・外面灰釉、内面体部丸ノミ彫り	17～18世紀カ	瀬戸美濃
345	Ⅱ面 土坑10	陶器 皿	—	—	—	内外面長石釉	17世紀前葉	瀬戸美濃
346	Ⅲ面 包含層	陶器 皿	—	—	—	灰釉	17世紀前葉	瀬戸美濃
347	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	陶器 皿	—	—	—	灰釉	17世紀前葉	瀬戸美濃
348	Ⅱ面 土坑9	陶器 蓋	—	—	—	内面・外面体部鉄釉、外面底部糸切り痕	18世紀後葉～19世紀	瀬戸美濃
349	Ⅲ面 包含層（盛土2）	陶器 皿	—	—	—	内面から外面口縁部にかけて銅緑釉、内外面口縁部油煙	17世紀前葉	美濃
350	Ⅲ面 包含層	陶器 変形皿	長13.6、短9.7	4.7	3.1	型成形、内面から外面体部にかけて灰釉	17世紀中葉	瀬戸美濃
351	Ⅱ面 土坑14	陶器 皿	(11.3)	3.2	3.9	内面から外面体部にかけて灰釉	17世紀前半	肥前
352	Ⅱ面 土坑14	陶器 皿	(10.7)	(3.5)	3.6	内面から外面体部にかけて灰釉、内面底部トチ目	17世紀前半	肥前
353	Ⅱ面 包含層	陶器 皿	(11.1)	(4.5)	2.6	内面から外面口縁部にかけて灰釉、口縁端部油煙カ		不明
354	Ⅰ面 土坑1	陶器 灯明皿	6.7	2.9	1.3	内面から外面口縁部にかけて灰釉、油皿、内面底部トチ目3カ所、外面口縁部油煙		不明
355	カクラン	陶器 灯明皿	6.9	2.9	1.5	内面から外面口縁部にかけて灰釉、外面口縁部に煤	19世紀以降カ	瀬戸美濃
356	Ⅰ面 包含層	陶器 灯明皿	(10.1)	(4.7)	—	受皿、鉄釉	19世紀	瀬戸美濃
357	Ⅰ面 包含層	陶器 片口鉢	(18.1)	(7.9)	10.4	内面から外面体部にかけて灰釉、内面底部にトチ目5カ所	17世紀第4四半期以降	瀬戸美濃
358	Ⅲ面 包含層	陶器 片口鉢	—	—	—	内外面灰釉	18世紀後葉～19世紀前葉	美濃
359	Ⅱ面 包含層	陶器 半胴か甕	—	(11.0)	—	内面・外面体部鉄釉、内面底部トチ目3カ所	18世紀後葉～19世紀中葉	瀬戸

遺物一覧表（10）

番号	層位/遺構	器種	法量(cm)			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径(高台径)	器高			
360	Ⅱ面　溝3	陶器　香炉カ	―	(6.7)	―	外面体部鉄釉、外面底部煤	19世紀前半カ	瀬戸美濃
361	Ⅰ面　包含層	陶器　鉢	(17.2)	―	―	胎土はややにぶい橙色で緻密、内外面白化粧、透明釉		肥前か
362	Ⅱ面　包含層	陶器　皿	―	(7.4)	―	内面・外面体部灰釉	16世紀末～17世紀前半	肥前
363	三面　包含層(北西Gr.)	陶器　皿	―	―	―	内外面灰釉、内面底部・外面口縁部鉄絵、四方向付か	17世紀	肥前
364	Ⅱ面　土坑10	陶器　皿	―	―	―	内面・外面灰釉、鉄絵	16世紀末～17世紀初カ	肥前
365	Ⅱ面　土坑14	陶器　小坏	―	―	―	灰釉		不明
366	Ⅰ面　包含層	陶器　蓋物	(10.6)	(8.5)	6.3	糸切り痕、内面から外面体部にかけて灰釉(口縁端部は釉ぬぐいとり)	18世紀頃	瀬戸美濃か
367	Ⅲ面　包含層(北東Gr.)	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面鉄釉	19世紀前半	瀬戸
368	Ⅲ面　包含層	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面錆(鉄)釉	17世紀頃	瀬戸美濃
369	Ⅲ面下包含層(南東Gr.)	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面錆釉	17世紀後葉	瀬戸美濃
370	Ⅱ面　包含層	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面鉄釉、櫛目17本、388と接合可	18世紀前葉	瀬戸
371	Ⅱ面　包含層	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面錆釉、櫛目20本	17世紀前葉	美濃か
372	Ⅲ面　土坑27	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面錆釉	17世紀前葉	瀬戸
373	Ⅲ面　包含層(北西Gr.・南西Gr.)	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面錆(鉄)釉	17世紀中頃	瀬戸美濃
374	Ⅲ面　包含層(南西Gr.)	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面錆釉	17世紀前葉	瀬戸美濃
375	Ⅲ面　土坑25	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面鉄釉、口縁端部被熱	17世紀	瀬戸美濃か
376	Ⅲ面　包含層	陶器　擂鉢	(31.5)	―	―	内外面鉄釉、櫛目13本	18世紀後葉	瀬戸美濃
377	Ⅱ面　溝2	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面鉄釉	18世紀前半	瀬戸美濃
378	Ⅱ面　包含層	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面鉄釉	18世紀後葉	瀬戸美濃
379	Ⅲ面　包含層(北東Gr.)	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面鉄釉	18世紀中葉	瀬戸
380	Ⅱ面　溝3	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面鉄釉	19世紀前葉	瀬戸美濃
381	Ⅰ面　包含層	陶器　擂鉢	―	―	―	内外面鉄釉、櫛目17本	19世紀前半	瀬戸美濃
382	Ⅰ面　土坑9	陶器　擂鉢	(35.6)	―	―	内外面鉄釉	19世紀中葉	瀬戸美濃
383	Ⅰ面　包含層	陶器　擂鉢	―	(14.0)	―	内面・外面鉄釉、櫛目16本		瀬戸美濃
384	Ⅱ面　包含層	陶器　擂鉢	―	(13.1)	―	内面・外面鉄釉、櫛目18本、内面・外面底部摩耗	17世紀前葉	瀬戸美濃
385	Ⅲ面　溝1	陶器　擂鉢	―	(13.1)	―	内面鉄釉薬、櫛目16本	18世紀後葉～19世紀中葉	瀬戸美濃
386	Ⅰ面　包含層	陶器　擂鉢	―	(14.9)	―	内面・外面鉄釉、櫛目19本、内面・外面底部摩耗	17世紀以降	瀬戸美濃
387	Ⅰ面　土坑1	陶器　擂鉢	―	(11.2)	―	内面・外面鉄釉、櫛目18本、内面・外面底部摩耗		瀬戸美濃
388	Ⅱ面　包含層	陶器　擂鉢	―	(8.6)	―	内面・外面鉄釉、櫛目、370と接合可	18世紀前葉	瀬戸
389	Ⅲ面　包含層	陶器　こね鉢	(28.0)	―	―			常滑
390	Ⅲ面　包含層(北東Gr.)	陶器　鉢	―	―	―			
391	Ⅲ面　包含層	陶器　鉢	―	―	―		14～16世紀	常滑
392	Ⅲ面　包含層(北西Gr.)	陶器　鉢	―	―	―			常滑
393	Ⅲ面　包含層(北東Gr.)	陶器　鉢	―	―	―	内面は中心から外へ(下から上へ)ナデ上げ調整		常滑
394	Ⅲ面　包含層(北西Gr.)	陶器　鉢	―	―	8.6	内面・外面底部使用痕		常滑
395	Ⅲ面　包含層(北西Gr.)	陶器　鉢	―	―	―			常滑
396	Ⅰ面　包含層	陶器　鉢	―	―	―			常滑
397	Ⅲ面　包含層	陶器　鉢	―	―	―	外面底部砂目、内面・外面底部使用痕		常滑

遺物一覧表（11）

番号	層位／遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
398	一面　土坑1	陶器　蓋	(13.1)	(3.5)	3.6	内外面灰釉、外面に沈線3条	19世紀後半カ	瀬戸美濃カ
399	一面　包含層	陶器　蓋	—	(3.5)	—	内面体部下半・外面体部・摘み内灰釉、外面に沈線4条、鍋の蓋		不明
400	Ⅰ・Ⅱ面　包含層	陶器　蓋	—	(3.4)	—	灰釉		京・信楽系カ
401	Ⅱ面　包含層	陶器　蓋	(15.8)	—	—	内外面灰釉、外面に沈線3条、鍋の蓋	19世紀後半カ	瀬戸美濃カ
402	表土層	陶器　蓋	(13.1)	—	—	内外面（口縁端部を除く）灰釉、外面に沈線3条、鍋の蓋		瀬戸美濃カ
403	Ⅱ面　包含層	陶器　蓋	—	—	—	内外面灰釉		瀬戸美濃カ
404	Ⅱ面　包含層	陶器　蓋	—	—	—	鍋の蓋、灰釉（口縁端部釉ぬぐいとり）、外面に沈線3条		不明
405	Ⅲ面下包含層	陶器　蓋	—	4.7	1.8	上面灰釉		美濃
406	Ⅱ面　包含層（北東Gr.）	陶器　蓋	—	—	—	蓋物の蓋、外面灰釉		瀬戸美濃カ
407	Ⅱ面　包含層	陶器　蓋	(5.9)	(1.9)	1.5	低火度焼成、上面透明釉、上絵（白、緑釉）		
408	一面　土坑4	陶器　蓋	(7.4)	—	—	外面灰釉、蓋物の蓋カ		瀬戸美濃カ
409	一面　包含層	陶器　蓋	(8.0)	(4.7)	2.0	上面灰釉		京・信楽系カ
410	Ⅲ面下包含層	陶器　急須	—	(5.8)	—	ロクロ成形、内面底部の一部灰釉カ		不明
411	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	陶器　急須	—	—	—	型成形、外面体部鮫肌		萬古カ
412	Ⅰ面　土坑6	陶器　不明	—	(4.7)	—	内面・外面体部白化粧・灰釉、注口または把手貼付痕カ、外面底部被熱煤、	近世以降	不明
413	Ⅰ面　包含層	陶器　急須	—	—	—	胎土は暗褐色で緻密、ロクロ成形、薄く降灰（施釉カ）		常滑か
414	Ⅰ面　包含層	陶器　瓶	—	4.3	—	徳利カ、外面体部灰釉	18世紀頃	瀬戸美濃
415	Ⅲ面　溝1	陶器　徳利	—	(8.5)	—	外面体部灰釉	19世紀前葉～中葉	美濃
416	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	陶器　徳利カ	—	(6.7)	—	灰釉	19世紀前葉～中葉	美濃
417	Ⅱ面　包含層	陶器　徳利	—	(6.9)	—	内面・外面体部灰釉	18～19世紀	瀬戸美濃
418	Ⅰ面　包含層	陶器　蓋	—	(8.1)	—	灰釉	18世紀カ	瀬戸美濃
419	Ⅰ面　包含層	陶器　徳利	—	(9.4)	—	外面体部－底部灰釉	18世紀	瀬戸美濃
420	Ⅱ面　包含層（北東Gr.）	陶器　蓋	—	—	—			常滑
421	Ⅰ面　包含層	陶器　蓋	—	(5.7)	—	内面・外面体部灰釉、№407と接合可		瀬戸美濃
422	Ⅰ面　包含層	陶器　蓋カ	—	(14.2)	—	糸切り痕、外面鉄釉		瀬戸美濃
423	Ⅱ面　土坑2	陶器　練鉢カ	—	(16.8)	—	灰釉に緑釉流しがけ、内面底部にトチ目5カ所	19世紀後半	瀬戸美濃
424	Ⅰ面　包含層	陶器　火入れ	(11.2)	(3.9)	7.3	香炉を転用、口縁部細かく欠損、内外面体部灰釉、脚切れてる	18世紀	瀬戸美濃
425	Ⅰ面　土坑5	陶器　不明	(9.5)	—	—	香炉か、軟質、無釉		不明
426	Ⅱ面　溝2	陶器　香炉カ	(5.9)	—	—	軟質、内面口縁部から外面にかけて（低下度釉）		京焼系カ
427	Ⅰ面　土坑16	陶器　片口鉢カ	—	—	—	内外面鉄釉	17～19世紀	瀬戸美濃
428	Ⅱ面　包含層10.5	陶器　餌鉢	(4.2)	(4.6)	2.8	内面から外面体部にかけて灰釉、糸切痕	19世紀前葉～中葉	瀬戸美濃
429	Ⅲ面　包含層	陶器　鬢盥	—	—	3.5	内面・外面体部灰釉	18世紀前葉	美濃
430	排土	陶器　花瓶	—	(5.0)	—	鉄釉、古瀬戸	15世紀後葉	瀬戸美濃
431	Ⅰ・Ⅱ面　包含層	陶器　不明	3.2	—	—	軟質施釉陶器、緑釉（低火度釉）		

遺物一覧表（12）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
432	Ⅱ面 包含層	陶器 不明	—	—	—	軟質施釉陶器、型成形、外面褐釉（低火度釉）、人形か	18世紀	
433	Ⅰ面 土坑16	焼塩壷 身	5.0	3.5	7.2	内面布目（粗い）		
434	Ⅲ面 包含層	焼塩壷 身	(5.1)	(3.7)	—	内面布目		
435	Ⅰ面 包含層	焼塩壷 身	(6.7)	(5.0)	6.5	内面布目		
436	排土	焼塩壷 身	(7.0)	—	—	内面布目		
437	Ⅲ面 包含層	焼塩壷 身	(6.3)	—	—	内面布目、印あり「泉湊・・」	18世紀中葉	
438	Ⅱ面 溝2	焼塩壷 身	(4.7)	—	—	内面布目		
439	Ⅱ面 溝2	焼塩壷 身カ	(6.4)	(4.5)	—	内面布目、体部上半欠損、断面平らに削られる		
440	Ⅲ面 包含層	陶器 鉢カ	—	—	—	内外面薄く剥離	13世紀カ	常滑
441	Ⅲ面 包含層	陶器 火鉢か	—	—	—	赤物		常滑
442	Ⅲ面 包含層	陶器 火鉢	—	—	—	赤物		常滑
443	カクラン	陶器 火鉢か	(28.0)	—	—	赤物		常滑
444	Ⅰ面 土坑1	陶器 不明	—	—	—	刻印あり「三河□□□□組合□□□□」、赤物	19世紀	常滑
445	Ⅰ面 土坑7・8	陶器 不明	—	—	—	内面底部煤		常滑カ
446	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	陶器 風炉	—	—	—	内面・外面口縁端部煤、赤物	17世紀以降	常滑
447	Ⅱ面 包含層	陶器 風炉カ	—	—	—	内面から外面口縁部にかけて煤、赤物	17世紀以降	常滑
448	Ⅲ面 包含層	陶器 風炉カ	—	—	—	赤物、内面煤	17世紀以降	常滑
449	Ⅲ面 土坑2	陶器 火鉢カ	(19.0)	(13.7)	7.8	脚付、赤物、内面煤	17世紀以降	常滑
450	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	瓦質土器 火入れ	長辺 13.8	長辺12.2 短辺8.3	4.6			
451	Ⅱ面 土坑1	陶器 焜炉	(23.2)	—	—	赤物カ、内面煤、釘で金具（とっ手か?）がつけられている	18～19世紀カ	常滑カ
452	Ⅰ面 土坑4	陶器 焜炉	厚さ1.1			赤物カ、上面被熱	18～19世紀	常滑カ
453	Ⅰ面 包含層	陶器 焜炉	厚さ1.2			赤物カ	18～19世紀	常滑カ
454	Ⅰ面 土坑1	陶器 羽釜	—	—	—			常滑
455	Ⅲ面 トレンチ3	瓦質土器鍋	—	—	—	外面鍔下煤		
456	Ⅱ面 包含層	陶器 蓋	—	—	—	赤物、型成形、外面体部砂目痕		常滑
457	Ⅰ面 土坑17・18	陶器 壷	(12.2)	—	—	赤物		常滑
458	Ⅰ面 土坑1	陶器 壷	16.4	19.4	26.6	赤物		常滑
459	Ⅲ面 包含層（南東Gr.・南西Gr.）	陶器 甕	(28.0)	—	—		13世紀後半	常滑
460	Ⅲ面 土坑27	陶器 甕	—	—	—		13世紀第3四半期	常滑
461	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	陶器 甕	—	—	—		13世紀後半	常滑
462	Ⅲ面 土坑13	陶器 甕	—	—	—		13世紀カ	常滑
463	Ⅲ面 包含層	陶器 甕	—	—	—		14～15世紀	常滑
464	Ⅱ面 包含層	陶器 甕	—	—	—		14～15世紀	常滑
465	Ⅲ面 トレンチ3	陶器 甕	—	—	—		14～15世紀	常滑
466	Ⅲ面 トレンチ3	陶器 甕	—	—	—		14～15世紀	常滑
467	Ⅲ面 包含層	陶器 甕	—	(13.7)	—	真焼、外面底部摩耗		常滑

遺物一覧表（13）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
468	Ⅲ面　包含層（北西Gr.・南西Gr.）	陶器　甕	—	(14.3)	—	外面底部スサ痕、外面煤		常滑
469	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	陶器　甕	(25.3)	—	—		16世紀	常滑
470	Ⅲ面　包含層（南東Gr.）	陶器　甕	—	—	—		16世紀	常滑
471	Ⅱ面　包含層	陶器　甕か	—	—	—		16～17世紀	常滑
472	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	陶器　甕	—	—	—		16～17世紀	常滑
473	Ⅱ面　包含層	陶器　甕	—	—	—	赤物	16～17世紀	常滑
474	Ⅱ面　土坑1	陶器　甕	(40.1)	—	—	赤物	18世紀	常滑
475	Ⅱ面　土坑4	陶器　甕	—	—	—	赤物	18～19世紀	常滑
476	Ⅰ面　包含層	陶器　甕	—	—	—	赤物	18～19世紀	常滑
477	Ⅲ面　包含層	陶器　甕	—	—	—	赤物	18～19世紀	常滑
478	Ⅲ面　包含層	陶器　甕	—	—	—		18～19世紀	常滑
479	Ⅰ面　土坑1	陶器　甕	50.8	—	—	赤物	18～19世紀	常滑
480	Ⅲ面　包含層（北東Gr.）	陶器　甕	—	—	—		18～19世紀	常滑
481	Ⅱ面　包含層	陶器　甕	—	—	—	赤物、内外面煤	19世紀前半	常滑
482	Ⅲ面　包含層	陶器　甕	—	—	—	外面底部砂目痕		常滑
483	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	陶器　甕	—	(16.4)	—			常滑
484	Ⅰ面　包含層	陶器　加工円盤	直径3.7、厚さ0.8			擂鉢を加工		瀬戸美濃
485	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	陶器　加工円盤	直径4.3、厚さ1.8			甕を加工か		常滑
486	Ⅲ面　包含層（南西Gr.）	陶器　加工円盤	直径2.6、厚さ0.6			焼き締め		不明
487	Ⅱ面　土坑14	陶器　加工円盤	直径3.9、厚さ1.5			瓦（平瓦カ）を加工		不明
488	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	磁器　碗	—	—	—	内面・外面体部青磁、高台内無釉、内面底部沈線、底径5cm弱	17世紀前半	中国・龍泉窯
489	Ⅰ面　包含層	磁器　碗	10.9	3.7	5.9	染付、内面底部こんにゃく判	17～18世紀	肥前
490	Ⅱ面　土坑14	磁器　碗	(13.9)	—	—	染付、胎土赤褐色		中国
491	Ⅲ面下包含層	磁器　碗	(10.6)	—	—	染付	17世紀中葉～後葉	肥前
492	Ⅲ面　包含層	磁器　碗	—	(5.1)	—	染付	17世紀後半カ	肥前
493	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	磁器　碗	—	(4.5)	—	染付	17世紀後半～18世紀前半カ	肥前
494	Ⅲ面　包含層（北西Gr.）	磁器　碗	(10.3)	(3.0)	5.4	染付	19世紀	瀬戸美濃
495	Ⅱ面　包含層	磁器　鉢	—	—	—	染付	18～19世紀	肥前
496	Ⅲ面　包含層	磁器　碗	—	—	—	染付	17～19世紀	肥前
497	Ⅱ面　包含層	磁器　碗	—	—	—	染付	17世紀	肥前
498	Ⅲ面　包含層	磁器　碗	—	(4.5)	—	外面青磁、染付	1760～1780年代カ	肥前
499	Ⅱ面　包含層	磁器　碗	—	(4.6)	—	染付、高台砂目	17世紀カ	肥前
500	Ⅰ面　包含層	磁器　碗	(7.2)	(2.9)	3.4	染付、外面体部に朱字「口（いカ）七五（せカ）」「本家」	18世紀	肥前カ
501	Ⅰ面　包含層	磁器　碗	(6.8)	(2.9)	3.5	染付、焼継、内面底部に朱で鳥（雀）の絵	17～18世紀	肥前
502	Ⅲ面　包含層	磁器　碗	(7.9)	(3.6)	5.1	染付	19世紀前葉～中葉	瀬戸
503	Ⅰ面　包含層	磁器　碗	(11.3)	(5.1)	6.0	染付、焼継、外面底部朱字	19世紀前葉	瀬戸
504	Ⅲ面　包含層	磁器　碗	(9.7)	—	—	内面口縁部釉拭い取り	1670～1680年代カ	不明

遺物一覧表（14）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
505	Ⅲ面 包含層	磁器 碗	(9.9)	—	—	染付	18世紀前半	不明
506	Ⅱ面 包含層	磁器 碗	—	—	—	染付	17～18世紀カ	肥前カ
507	Ⅱ面 包含層	磁器 碗	—	(4.5)	—	染付	19世紀	不明
508	Ⅲ面 土坑35	磁器 碗	—	(4.8)	—	胎土褐色に焼成		不明
509	Ⅰ面 包含層	磁器 碗	(9.5)	3.2	4.7	染付	19世紀以降	不明
510	Ⅰ面 包含層	磁器 碗	7.9	3.3	4.1	染付、外面体部の花文は印	19世紀中葉	瀬戸美濃
511	Ⅲ面 包含層	磁器 碗	—	(4.0)	—	染付	19世紀前半	瀬戸
512	Ⅰ面 包含層	磁器広東茶碗	—	(4.8)	—	染付	19世紀前半	瀬戸
513	Ⅱ面 土坑9	磁器広東茶碗	—	—	—	陶胎、染付、高台打ち欠いた後摩耗	19世紀前半	美濃
514	Ⅲ面 包含層	磁器 箱型湯呑	(6.8)	—	—	染付	18世紀後半	肥前
515	Ⅰ面 包含層	磁器 箱型湯呑	(7.4)	—	—	染付	19世紀前半	美濃
516	表土層	磁器 猪口	(7.6)	(6.1)	5.9	染付、焼継、高台内蛇の目の釉剥ぎ	19世紀	肥前
517	Ⅱ面 包含層	磁器 箱型湯呑	8.3	—	—		1640－1650年代以降	肥前
518	Ⅲ面 包含層	磁器 小坏	(7.2)	2.7	4.0	染付	1650～1660年代頃	肥前
519	Ⅱ面 包含層	磁器 小坏	—	(3.6)	—	染付	1680～1700年代	肥前
520	Ⅱ面 包含層	磁器 小坏	(5.3)	(2.9)	5.0	染付、高台砂目	17世紀～18世紀初	肥前
521	Ⅲ面 包含層	磁器 小坏	(6.6)	(2.4)	4.1	内外面青磁	17世紀後半	肥前
522	Ⅲ面 包含層	磁器 小坏	(6.7)	(2.7)	3.4	内外面青磁	17世紀後半	肥前
523	Ⅰ面 包含層	磁器 小坏	6.3	3.2	4.2	染付	19世紀	瀬戸美濃
524	Ⅲ面 包含層	磁器 小坏	(6.2)	2.3	3.5	上絵付で字あり	1780～1820年代	肥前
525	Ⅱ面 土坑13	磁器 小坏	(5.7)	(2.6)	1.6	染付		不明
526	Ⅲ面 包含層	磁器 皿	—	(5.9)	—	染付	16世紀	中国
527	Ⅱ面 土坑14	磁器 皿	(22.9)	—	—	内外面青磁	17世紀中葉	肥前
528	Ⅰ面 包含層	磁器 皿	—	—	—	内外面青磁	1660～1670年代	肥前
529	Ⅲ面 包含層	磁器 皿	—	(7.7)	—	外面青磁、染付、こんにゃく判	17世紀後葉～18世紀前半	肥前
530	Ⅰ・Ⅱ面 包含層	磁器 皿	—	(7.7)	—	染付	18世紀前半	肥前
531	Ⅱ面 包含層	磁器 皿	—	(7.3)	—	染付	17～18世紀	肥前
532	Ⅱ面 包含層	磁器 皿	16.0	8.5	2.6	染付、焼継		不明
533	Ⅰ面 土坑1	磁器 皿	13.9	8.1	3.9	染付	19世紀	不明
534	Ⅱ面 包含層	磁器 変形皿	長19.1、短15.0	長17.3、短13.1	1.8	染付、型成形、外面底部無釉、外面底部押印「春山」、朱で字あり「□(加)(川又は州)」「佐渡や」、焼継	江戸	不明
535	Ⅱ面 包含層	磁器 皿	(8.4)	(4.7)	2.0	型成形		肥前カ
536	Ⅱ面 包含層	磁器 皿	(9.5)	(5.8)	2.1	染付	19世紀後半	瀬戸美濃
537	Ⅱ面 土坑2	磁器 皿か	—	—	—	染付	19世紀	不明
538	Ⅱ面 包含層	磁器 紅皿	(6.7)	(3.2)	1.8	型成形、外面底部砂付着、高台端部摩耗	19世紀後半	肥前

遺物一覧表（15）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
539	Ⅱ面　土坑11	磁器　紅皿	(4.4)	—	—	型式形、外面体部無釉	18世紀	肥前
540	Ⅰ面　土坑5	磁器　紅皿	—	(1.6)	—	型式形、外面無釉	18世紀以降	肥前
541	Ⅱ面　土坑12	磁器　蓋	(9.7)	—	—	染付	19世紀以降カ	瀬戸美濃
542	Ⅱ面　包含層	磁器　蓋	(8.6)	(3.4)	—	染付	19世紀中葉	瀬戸美濃
543	表土層	磁器　鉢	(14.9)	—	—	色絵（赤・緑・金）、染付、口紅（金）	18～19世紀	肥前
544	Ⅱ面　包含層	磁器　鉢		(8.1)		染付、口縁部無釉	19世紀	肥前カ
545	Ⅱ面　包含層	磁器　猪口	—	—	—	染付		肥前カ
546	Ⅲ面　包含層	磁器　鉢	—	—	—	染付、内面口縁部・口縁端部無釉、口縁端部摩耗	18世紀以降	肥前
547	Ⅱ面　土坑8	磁器　猪口	—	—	—	染付	18世紀	肥前
548	Ⅰ面　包含層	磁器　香炉	(11.6)	(9.5)	7.9	染付、内面体部・底部無釉、高台内蛇の目剥ぎ、外面体部に耳あり	18世紀～19世紀	肥前
549	Ⅰ面　包含層	磁器　仏飯器	(5.6)	3.2	5.3	染付	18世紀以降	不明
550	Ⅱ面　包含層	磁器　仏飯器	—	—	—	染付	17世紀末～18世紀	肥前
551	Ⅱ面　包含層	磁器　瓶	—	—	—	外面瑠璃釉、上絵	17世紀カ	肥前
552	Ⅰ面　包含層	磁器　小瓶	—	(2.6)	—	染付、内面無釉	19世紀	肥前
553	Ⅲ面　包含層	磁器　小瓶	—	2.2	—	内面無釉		肥前
554	Ⅰ面　包含層	磁器　花生カ	(3.8)	—	—	染付		肥前
555	Ⅰ面　包含層	磁器　水滴	幅3.5			染付、一部型式形、内面・側面のうち1面のみ無釉、内面外面布目	17世紀以降	肥前
556	Ⅱ面　土坑2	磁器　水滴	—	—	2.5	染付	19世紀以降	瀬戸美濃
557	Ⅱ面　包含層	瓦　軒丸瓦	—	—	—			
558	Ⅲ面　包含層（南東Gr.・南西Gr.）	瓦　丸瓦	厚さ2.0			布目		
559	Ⅱ面　土坑2	瓦　丸瓦	厚さ2.3			ヘラ書き		
560	Ⅲ面　包含層（盛土3）	瓦　軒平瓦	厚さ1.9					
561	Ⅱ面　土坑4	瓦　丸瓦	厚さ1.5					
562	Ⅲ面　包含層	瓦　軒平瓦	—	—	—		古代～中世	
563	Ⅱ面　土坑2	瓦　平瓦	厚さ1.7			刻印（六弁花）		
564	Ⅰ面　土坑17・18	瓦　平瓦	厚さ1.8			刻印（十六弁花カ）		
565	Ⅲ面　包含層	瓦　平瓦カ	厚さ2.0			刻印（丸）		
566	Ⅲ面　包含層	瓦　平瓦	厚さ2.0			刻印（丸に「一」）		
567	Ⅲ面　包含層	瓦　平瓦カ	厚さ1.9			刻印（丸に「一」）		
568	Ⅱ面　包含層	瓦　平瓦か	厚さ1.5			切込部に刻印（丸に「三」）		
569	Ⅱ面　土坑1	瓦　平瓦	厚さ1.5			刻印（丸に「三」）		
570	Ⅰ面　土坑4	煉瓦	縦23.5、横11.6、幅8.2					
571	Ⅰ面　土坑4	煉瓦	横11.4、幅8.1					
572	Ⅰ面　土坑4	煉瓦	横11.7、幅8.3					
573	Ⅲ面　土坑24	金属製品　銭	外径2.4、内径2.0、孔径0.7、厚さ0.1			元豊通寶		
574	Ⅲ面　包含層	金属製品　銭	外径2.2、内径1.9、孔径0.7、厚さ0.1			洪武通寶、模鋳銭カ		
575	Ⅰ面　包含層	金属製品　銭	外径2.5、内径2.0、孔径0.6、厚さ0.1			寛永通寶（古寛永）		
576	排土	金属製品	外径2.4、内径1.9、孔径0.6、厚さ0.15			寛永通寶（新寛永）		

遺物一覧表（16）

番号	層位/遺構	器種	法量（cm）			調整・技法の特徴等	推定年代	推定産地
			口径	底径（高台径）	器高			
577	表土層	金属製品 銭	外径2.3、内径1.8、孔径0.6、厚さ0.1			寛永通寶（新寛永）、背文「元」		
578	Ⅲ面 土坑15	金属製品 刀カ	残存長24.8、幅1.9、厚さ0.6			鉄製		
579	Ⅲ面 土坑25	金属製品 煙管	長さ4.1、孔径0.5、火皿口径1.5			雁首、火皿に穿孔（直径0.15）3カ所、羅宇残存		
580	Ⅲ面 包含層	金属製品 煙管	全長5.7、孔径1.2、火皿口径1.7			銅製品		
581	Ⅲ面 包含層	石製品 鋳型	縦10.5、横5.4、厚さ3.7					
582	Ⅰ面 包含層	石製品 鋳型	縦7.6、横4.3、厚さ1.3					
583	Ⅰ面 包含層	石製品 鋳型	横4.0、厚さ1.3					
584	Ⅲ面 包含層	石製品 砥石	最大幅1.3					
585	Ⅲ面 包含層	石製品 砥石	－	－	－			
586	Ⅲ面 包含層	石製品 砥石	－	－	－			
587	Ⅲ面 包含層（北西Gr.）	石製品 臼	－	－	6.5			
588	表土層	骨製品 不明	残存長14.7、最大幅0.7			表面に擦り傷多数		
589	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	骨製品 サイコロ	一辺1.0					
590	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	骨 札状製品	全長7.6、最大幅2.5、厚さ0.3			輪が多数刻まれている		
	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	骨 不明				加工品		
	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	骨						
	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	骨						
	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	骨						
	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	骨						
	Ⅲ面 包含層（南西Gr.）	骨						
	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	骨				加工痕		
	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	骨						
	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	骨						
	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	骨	－	－	－			
	Ⅲ面 包含層（南東Gr.）	骨	－	－	－			
	Ⅲ面 土坑18	骨						
	Ⅲ面 包含層（北東Gr.）	炭						
	Ⅲ面 土坑25	貝						
	Ⅲ面 包含層	木製品 椀				黒漆		

註 復元値は（）で、残存値は〈〉で示した。

遺物一覧表（17）

第５章　自然科学分析

第1節　動物遺体の分類・同定

1．はじめに

三重県桑名市の桑名城下町遺跡外堀30地点において多くの動物遺体が出土した。その多くは魚類であるが，その中に哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類も含まれている。これらの動物遺体について分類・同定を行なった。以下に魚類・両生類と爬虫類・鳥類・哺乳類について個別に説明する。

なお同定は国立歴史民俗博物館西本研究室に所蔵されている現生標本との比較を基本として行った。一部の試料については同博物館の西本豊弘教授に同定していただいた。また，同研究室の太田淳子氏と，日本学術振興会特別研究員の姉崎智子氏には同定に際しご助力いただいた。この場を借りて感謝の意を表する。

2．魚類

分析試料には，分類群ごとに形態差が認められる8部位（主上顎骨・前上顎骨・歯骨・角骨・方骨・前鰓蓋骨・主鰓蓋骨・椎骨）と特定の分類群に特徴的な部位を用いた。今回分析した試料は，計285点であり，その内容を表1に示した。今回分析した試料からは2mm弱の椎骨が多数検出されている。やや保存が悪いため分類群を特定するにいたらないものが多かったため，半数以上が魚類不明となるが，先にあげた主要な部位などにより，本遺跡からは19分類群が同定された。以下に各分類群について記載する。

エイ目

椎骨が4点のみ検出されている。椎体横径2～4mmと小型である。

ニシン科

主鰓蓋骨と尾部棒状骨が各1点，尾椎が2点，腹椎が6点，その他に椎骨が4点検出されている。椎体横径2.5mm前後と3.2mmのものがあり，前者は体長20 ～ 21cmの現生標本よりやや小さめであり，後者はやや大きめである。

コイ

主鰓蓋骨が2点のみ検出されている。その大きさは体長30cmの現生標本よりやや大きい。

コイ・フナ

棘（第2背鰭棘？）が3点のみ検出されている。

ウグイ属

咽頭骨が1点のみ検出されている。

遺構面			Ⅰ面	Ⅱ面			Ⅲ面						
地区名			土坑7・8	土坑10	土坑13	土坑16	Ⅲ面包含層	Ⅱ面包含層	土坑18	土坑25	土坑57		
層位				①層									
採集年月日			1999.1.30	1998.2.12	1999.2.5	1999.2.13	1999.2.23	1999.2.16	1999.4.8	1999.4.9	1999.4.16		
魚種名		部位							1999.4.15		1999.4.17		
エイ類		椎骨				1			2	1		4	4
ニシン科		主鰓蓋骨　左				1						1	
		腹椎				1			1	4		6	
		尾椎				1				1		2	
		椎骨								4		4	
		尾部棒状骨								1		1	14
コイ科	コイ	主鰓蓋骨　左				1						1	
		右				1						1	2
	コイ・フナ	棘				1				2		3	3
	ウグイ	咽頭骨　左								1		1	1
	(フナ?)	咽頭骨　左							1			1	1
サケ科		椎骨					1					1	1
タラ科		前上顎骨　左							1			1	
		主上顎骨　左	1			1						2	
		右				1						1	
		歯骨　右				2			1			3	
		角骨　左							1			1	
		腹椎				3			1			4	
		尾椎				5			4			9	21
ボラ科		前上顎骨　左				1						1	
		主上顎骨　左				1						1	
		涙骨　左				1						1	
		歯骨　右							1			1	
		方骨　右							1			1	
		前鰓蓋骨　左				2						2	
		主鰓蓋骨　右							1			1	
		左				1					1	2	
		第1腹椎							1			1	
		腹椎		1		4			4			9	19
フグ科		歯骨　右								1		1	1
スズキ属		前上顎骨　左							1			1	
		右				1						1	
		主上顎骨　右				1						1	
		歯骨　右								1		1	
		方骨　右							1			1	
		前鰓蓋骨　左				2			3			5	
		右				1				1		2	
		主鰓蓋骨　右								1		1	
		腹椎				1						1	14
アジ科	ブリ属	主上顎骨　右				1						1	
		尾椎							1			1	2
		腹椎				4						4	
	(マアジ)	尾椎				5				1		6	
		尾部棒状骨								1		1	11
タイ科	クロダイ属	歯骨　右							1			1	1
		歯骨　左							1			1	
		歯				1			4	2		7	
		角骨　右				1						1	
		前鰓蓋骨　左			1			1	1			3	
		腹椎							2			2	
		尾椎						1				1	15
サバ属		腹椎				5						5	
		尾椎				1			1			2	7
ヒラメ科		角骨　左				1						1	1
カレイ科		腹椎							1			1	
		尾椎				2			3			5	
		椎骨				5						5	11
フサカサゴ科		歯骨　右				2						2	
		角骨　左				1						1	3
魚種不明		前上顎骨　左				1						1	
		主上顎骨　右							1			1	
		歯骨　右							1			1	
						2						2	
		角骨　左							1			1	
		方骨				3						3	
		主鰓蓋骨　左							2			2	
		右							1	2		3	
		第1腹椎				1			1			2	
		腹椎				10			22			32	
		尾椎				31			32	7		70	
		椎骨				20			9			29	
		尾部棒状骨				3			3			6	153

表1　桑名城下町遺跡外堀30地点出土魚類集計表

フナ

咽頭骨が1点のみ検出されている。

サケ科

椎骨が1点のみ検出されている。椎体横径8mmとなる。

タラ科

主上顎骨と歯骨が各3点，前上顎骨と角骨が1点，腹椎が4点，尾椎が9点の計21点が検出されており，今回検出された分類群中，最も多く検出されている。椎骨の中には椎体横径7～14mmのものがあり，7mmのもので体長36cmの現生標本（マダラ）よりやや大きい。本科に含まれるマダラは日本海や北日本太平洋の沿岸に，スケトウダラは日本海や茨城以北の太平洋に生息している。

ボラ科

前上顎骨，主上顎骨，涙骨，歯骨，方骨と第1腹椎が各1点，前鰓蓋骨が2点，主鰓蓋骨が3点，腹椎が8点の計19点が検出されており，今回検出された分類群中，タラ科に次いで多く検出されている。腹椎の椎体横径は3mm前後のものと，9mmのものがある。

フグ科

歯骨が1点のみ検出されている。

スズキ属

主上顎骨と歯骨，方骨，主鰓蓋骨，腹椎が各1点，前上顎骨が2点，前鰓蓋骨が7点検出されている。

ブリ属

主上顎骨と尾椎が各1点のみ検出されている。椎体横径7.5mmで小型であり，おそらく体長30cm程度（ハマチ）と考えられる。

アジ科

腹椎が4点，尾椎が6点，尾部棒状骨が1点検出されている。椎体横径3～4mm程度で，体長28cmの現生標本（マアジ）と同じかやや小型である。

クロダイ属

歯骨が1点検出されている。体長34cmの現生標本とほぼ同じ大きさとである。

タイ科

歯骨，角骨と尾椎が各1点，前鰓蓋骨が3点，腹椎が2点と，歯が7点検出されている。これらも前記のクロダイ属のものと考えられるが，破片であることと歯のみであることから属や種の同定は困難である。また，椎骨については属レベルでの同定は不可能である。椎体横径は11.5mmであり，体長33cmのクロダイの倍ぐらいの大きさである。

サバ属

腹椎が4点と尾椎が2点検出されている。椎体横径5mm前後であり，体長33cmの現生標本とほぼ同じ大きさである。

表2　桑名城下町遺跡外堀30地点出土両生類・爬虫類一覧表

遺構面	地区名	層位	採集年月日	種名	部位	左右	備考
出土地不明			平成15年度	カメ類(クサガメ)	肋骨板		
Ⅱ面包含層			2003.2.5	スッポン	脛骨	左	
Ⅱ面	土坑10	2層目	2003.2.5	カメ類(クサガメ)	腹骨板		
		①層	2003.2.13	カエル類	脛腓骨	左	
	土坑16		2003.2.14	カエル類	椎骨		4個
					腸骨	左	
					脛腓骨	右	
					上腕骨	右	
Ⅲ面	南西G	Ⅲ面包含層	2003.3.11	カメ類(クサガメ)	甲板		2個
	土坑17		2003.4.17	スッポン	甲板		
	土坑18		2003.4.10	カエル類	上腕骨	左	
			2003.4.16	カエル類	橈尺骨	右	
					脛腓骨	左	
					椎骨		4個
					距骨		2個
	土坑25	④層	2003.4.10	カメ類(クサガメ)	肋骨板		2個
				スッポン	肋骨板		
	土坑57		2003.4.17	カエル類?			

ヒラメ科

角骨が1点のみ検出されている。

カレイ科

腹椎1点，尾椎が4点とそのほかに椎骨が5点検出されている。カレイ科には多くの種が属し，それらは非常に似た椎骨をもつことから種の同定は困難である。1点の椎体横径は6mmとなり，体長22cmの現生標本（マガレイ）の倍程度の大きさであり，多くの椎体横径は3mm前後もしくはそれ以下となり，。

フサカサゴ科

歯骨2点と，角骨が1点検出されている。

3. 両生類・爬虫類

今回分析した両生類および爬虫類は，27点であり，その内容を表2に示した。本遺跡からは3分類群が同定された。以下にそれぞれの分類群の出土状況について説明する。

カエル類

カエル類は18点出土している。大型の個体ではないため，周辺に生息していたものが入り込んだものと考えられる。

カメ類

カメ類は6点出土している。これらはクサガメのものと考えられる。

スッポン

スッポンは3点出土している。出土している脛骨は，15cm程度の現生標本より倍以上に大きく，かなり大型のスッポンであると考えられる。

4. 鳥類

今回分析した鳥類は，単体試料12点と，Ⅰ面土坑1の1試料であり，その内容を表3に示した。Ⅰ面の遺構面直上で出土した遺物NO.422の壷埋土試料からは多量の骨が検出され，それらはモズのものであった。それ以外の単体試料からはガン・カモ類，キジが見られた。ガン・カモ類は，国立民俗歴史博物館の西本研究室の現生標本との比較から以下の7タイプに分け，ここではヒシクイより小さいガン中型，カルガモよりやや小さいカモ中小型と，コガモと同サイズのカモ小型が見られた。以下にそれぞれの分類群の出土状況について説明する。

ガン・カモ類

ガン・カモ類は4点出土し，ガン中型，カモ小型が各1点，カモ中小型が2点出土している。

キジ

キジは1点出土している。

モズ

モズは，Ⅰ面の遺構面直上で出土した遺物NO.422の壷埋土試料からほぼすべての骨が検出された。それぞれの部位から13羽程度がまとまって検出された。

5. 哺乳類

哺乳類は31点であり，その内容を表4に示した。本遺跡からは6分類群が同定された。以下にそれぞれの分類群の出土状況について説明する。

ウマ

ウマは3点出土している。2点が四肢骨の遠位部であることから，骨を利用したあとの残りの可能性が考えられる。

シカ

シカは2点出土している。2点とも角であり，きれいに切断された痕が認められる。おそらく鹿角を用いて製品を作成した際の残りと考えられる。

イヌ

イヌは4点出土している。

モグラ類

モグラ類は1点のみ出土している。

ネズミ類

ネズミ類は8点出土している。これらは食材として廃棄されたものではなく，その場で自然死したものと考えられる。

ヒト

ヒトは4点出土している。南西GのⅢ面包含層から出土した大腿骨の遠位部には噛み痕がみられることから，イヌなどが墓などから持ち込んだ可能性が考えられる。

6. 骨製品

棒状骨製品が2点（土坑25，Ⅲ面包含層）出土しており，それらは陸獣の骨を利用したものと考えられる。

7. おわりに

桑名城下町遺跡外堀30地点から出土した動物遺体を検討した結果，魚類がその大半を占めることと，別に貝殻が多量に出土していることから食材として利用したものを廃棄したと考えられる。しかし，シカの角や馬の骨など骨利用の残骸と考えられるものも一部出土した。

Ⅰ面の遺構面直上で出土した遺物NO.422の壷に見られるモズの複数埋葬という特異な状況も確認された。モズを食材としていたとは考えずらく，なぜ複数個体が同一の壷の中に埋葬されていたのか

遺構面	地区名	遺構・層位	採集年月日	種名	部位	左右	残存度	備考
Ⅰ面	表土層1調査区西端		2003.1.21	小型鳥類	大腿骨	左	骨幹部	
Ⅰ面	遺構面直上出土遺物 NO.422の壷埋土		2003.1.31	モズ	椎骨			174個
					鎖骨		癒合部有	6個
							癒合部無	10個
					胸椎			10個
					仙骨			9個
							破片	3個
					下顎骨		完存	2個
							先端部	9個
							破片	14個
					頭骨			11個
					肩甲骨	左	完存	5個
							近位部－骨幹部	5個
						右	完存	2個
							近位部－骨幹部	8個
					鳥口骨	左	完存	7個
							近位部－骨幹部	3個
							骨幹部－遠位部	2個
						右	完存	10個
							近位部－骨幹部	2個
							骨幹部－遠位部	2個
					上腕骨	左	完存	9個
							近位部－骨幹部	1個
							骨幹部－遠位部	2個
						右	完存	9個
							近位部－骨幹部	1個
					尺骨	左	完存	3個
							近位部－骨幹部	7個
						右	完存	3個
							近位部－骨幹部	6個
							骨幹部－遠位部	1個
					橈骨	左	完存	2個
							近位部－骨幹部	1個
							骨幹部－遠位部	1個
						右	完存	2個
							近位部－骨幹部	5個
							骨幹部－遠位部	3個
					大腿骨	左	完存	7個
							近位部－骨幹部	2個
							骨幹部－遠位部	2個
						右	完存	9個
							近位部－骨幹部	4個
							骨幹部－遠位部	1個
					脛骨	左	完存	5個
							近位部－骨幹部	6個
							骨幹部－遠位部	6個
						右	完存	6個
							近位部－骨幹部	3個
							骨幹部－遠位部	6個
					中足骨	左	完存	8個
							近位部－骨幹部	1個
							骨幹部－遠位部	4個
						右	完存	8個
							近位部－骨幹部	5個
							骨幹部－遠位部	4個
					肋骨			多数
					距骨			多数
Ⅱ面	土坑16	半裁後サンプル	2003.2.14	小型鳥類	胸椎		破片	
		Ⅱ面包含層	2003.2.17	キジ	肩甲骨	右	近位部－骨幹部	
				小型鳥類	中足骨	右？	骨幹部	
					腸骨？		破片	
	南東G	Ⅲ面包含層	2003.3.19	ガン中型	上腕骨	左	骨幹部－遠位部	
				カモ小型	中足骨		近位部－骨幹部	
				小型鳥類	鳥口骨		近位部	
Ⅲ面		Ⅲ面包含層	2003.3.24	カモ中小型	橈骨	右	完存	
	土坑17	半裁後サンプル	2003.4.17	小型鳥類？			骨片	
	土坑25	①・③層	2003.4.10	キジ	大腿骨	右	近位部－骨幹部	
	土坑25	④層	2003.4.10	カモ中小型	中手骨	左	完存	
				小型鳥類？			骨片	

表3　桑名城下町遺跡外堀30地点出土鳥類一覧表

表4　桑名城下町遺跡外堀30地点出土哺乳類一覧表

遺構面	地区名	遺構・層位	採集年月日	種名	部位	左右	残存度	備考
Ⅰ面	土坑7・8		1999.1.30	モグラ類	大腿骨	右		
Ⅱ面	土坑16		1999.2.13	ネズミ類	上腕骨	右	骨幹部－遠位部	
	土坑10	①層	1999.2.12	ネズミ類	切歯			
	南東G	Ⅲ面包含層	1999.3.18	小型陸獣	頸椎（第2頸椎?）			
				陸獣	大腿骨	左	骨幹部	
	北東G	Ⅲ面包含層	1999.3.19	イヌ	寛骨	左	骨幹部	
		Ⅲ面包含層	1999.3.23	ネズミ類	切歯			
	北東G	Ⅲ面包含層	1999.3.25	ヒト	腓骨	左	骨幹部	
				ウマ	中足骨	右	遠位部	
				ウマ	中手骨		遠位部	
				陸獣			骨幹	
	南西G	Ⅲ面包含層	1999.4.10	シカ	角		骨体	切断痕あり
	南西G	Ⅲ面直上層	1999.3.30	ヒト	大腿骨	左	骨幹部	遠位部よりに噛跡あり
				イヌ	大腿骨		骨幹部	
				イヌ	脛骨		近位部－骨幹部	
	南東G	Ⅲ面包含層	1999.3.12	シカ	角		骨体	切断痕あり
	北東G	Ⅲ面包含層	1999.3.10	ヒト	頭蓋骨		骨体	
			1999.3.18	陸獣?			骨幹部	
Ⅲ面		Ⅲ面包含層か?	1999.3.18	ヒト	側頭骨	左		
	南西G	Ⅲ面包含層	1999.3.19	ネズミ類	脛骨	右	完存	
	南東G	Ⅲ面包含層	1999.3.30	イヌ	中手骨		完存	
	北西G	Ⅲ面包含層	1999.4.2	陸獣?	四肢骨		骨幹部	
		トレンチ3⑦層	1999.4.9	ウマ	胸椎			
	土坑2		1999.4.6	陸獣	橈骨		骨幹部	
	土坑13		1999.4.8	ネズミ類	大腿骨	右	近位部－骨幹部	
	土坑17		1999.4.9	ネズミ類	大腿骨	左	近位部－骨幹部	
				ネズミ類	脛骨	左	骨幹部－遠位部	
				小型陸獣（ネズミ?）	肋骨		完存	
	土坑18		1999.4.15	陸獣			骨幹	
	土坑25	④層	1999.4.9	陸獣			骨幹	
	溝1		1999.4.16	ネズミ類	下顎骨	右		

現時点では不明である。これについては今後詳細について検討し,別の場面で報告させていただくことにする。

参考文献

益田　一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫（1988）「日本産魚大図鑑（第2版）」。
東海大学出版会,pp.498+pl.370。

獣骨図版

図版1　1，2，12，13，22．タラ科（1主上顎骨　右；2主上顎骨　左:12 腹椎；13 歯骨　右；22 尾椎）

4，5，11，14，16，18，31．ボラ科（4前鰓蓋骨　左；5主鰓蓋骨　左；11　腹椎；14 涙骨右；16 方骨；18 第1腹椎；31 歯骨右）　3．コイ　主鰓蓋骨　右

6，8～ 10．タイ科（6前鰓蓋骨　左；8,9歯；10 尾椎）　7．クロダイ属　歯骨　右

15，26，27，29．スズキ（15 方骨　右；26 腹椎；27 前鰓蓋骨；29 主上顎骨　右）

17．フグ科　歯骨　右　19．サバ　尾椎　20，21．カレイ科　尾椎　23．アジ科　尾椎

24．サケ科　椎骨　25，30．ブリ科（25 尾椎；30 主上顎骨　右）

28．カサゴ目　歯骨　右 32．コイ科（フナ ?）咽頭骨　左　33．ウグイ　咽頭骨左

34，35．エイ類　椎骨　36 ～ 40．ニシン科（36 尾椎；37 尾部棒状骨；38 ～ 40 腹椎）

41，42．コイ・フナ　棘

1～5，13，14，22，23，26 ～ 30: 土坑 16

6: 土坑 13

7，9，11，12，15，16，18 ～ 21，25，31，32，34，35: 土坑 18

8，17，33，36 ～ 42: 土坑 25 ④層

10: Ⅱ面包含層

24: Ⅲ面包含層

図版2　1～4．クサガメ（1腹甲板；2～4肋骨板）

5～7．スッポン（5脛骨　左；6,7甲板）

8～ 14．カエル類（8,9椎骨；10 上腕骨　左；11 上腕骨　右；12 腸骨　左；13 脛腓骨　左；14 脛腓骨　右）

2,3: 出土地不明　平成 15 年度

7: 土坑 17

8,9，11，12，14: 土坑 16

10，13: 土坑 18

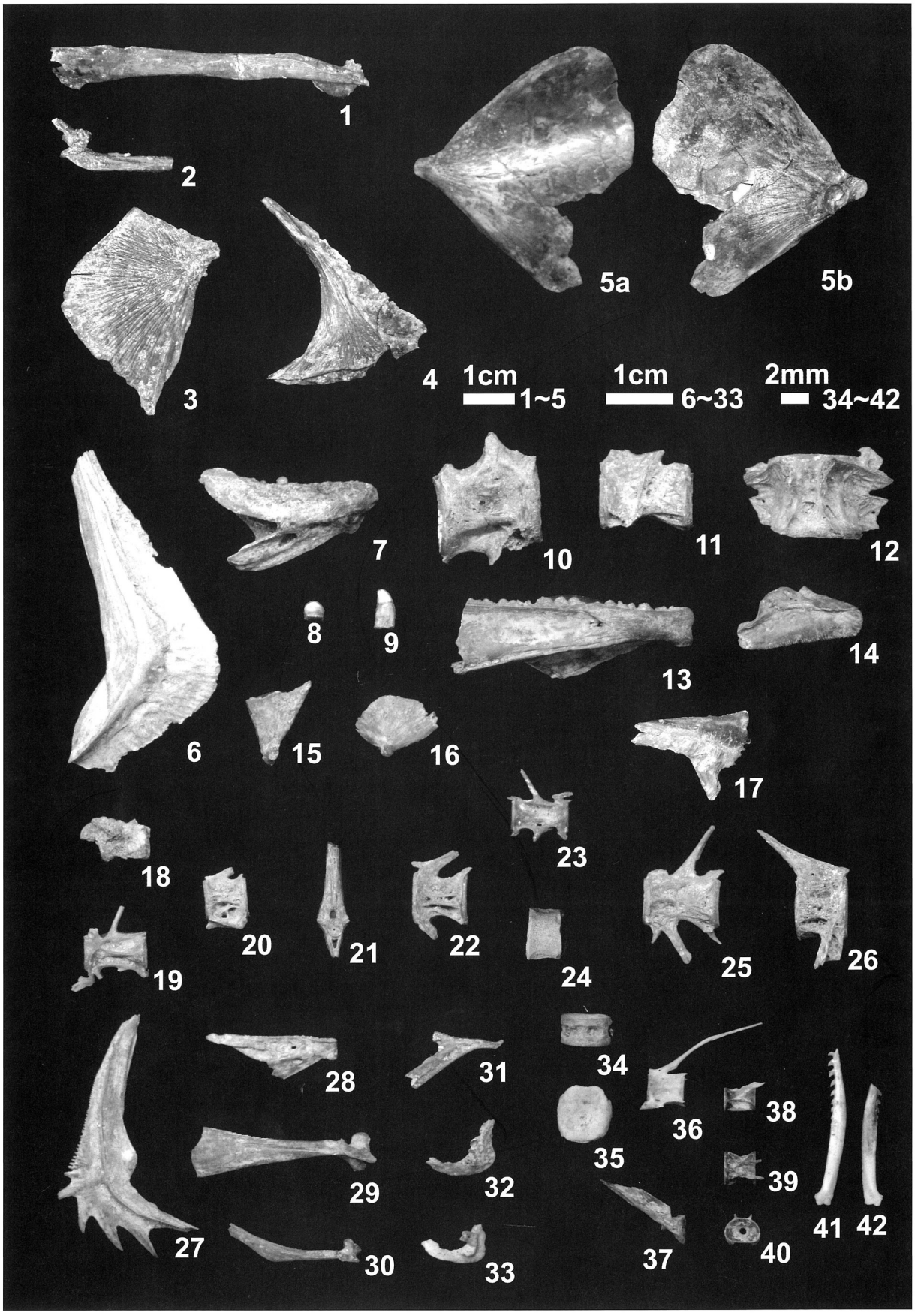
4,6: 土坑 25 ④層

1: 土坑 10　2層目

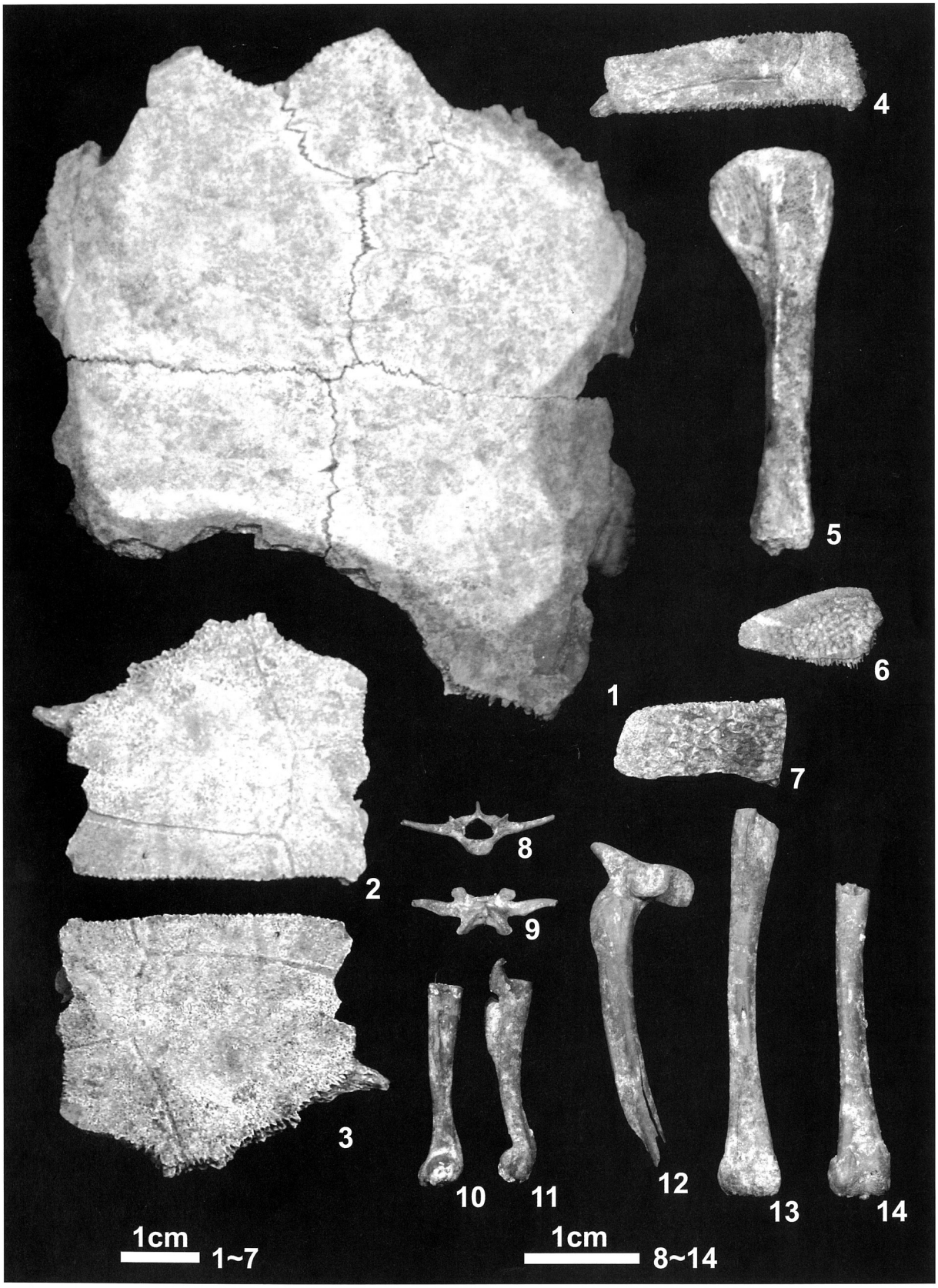
5: Ⅱ面包含層

図版3　1～14．モズ（1頭骨；2下顎骨；3鎖骨；4胸骨；5仙骨；6鳥口骨；7肩甲骨；
8上腕骨；9橈骨；10 尺骨；11 橈骨；12 脛骨；13 中足骨；14 椎骨；1は左，r は右）
15．ガン中型　上腕骨　右　　16，17．カモ中小型（16 中手骨　左；17 撓骨）
18．カモ小型　中足骨　右　　19，20．キジ（19 肩甲骨　右；20　大腿骨　右）
1～14: Ⅰ面遺構面直上出土遺物 NO．422 壷埋土
15，18: 南東 G Ⅲ面包含層
20: 土坑 25 ①・③層
16: 土坑 25 ④層
17: Ⅲ面包含層
19: Ⅱ面包含層

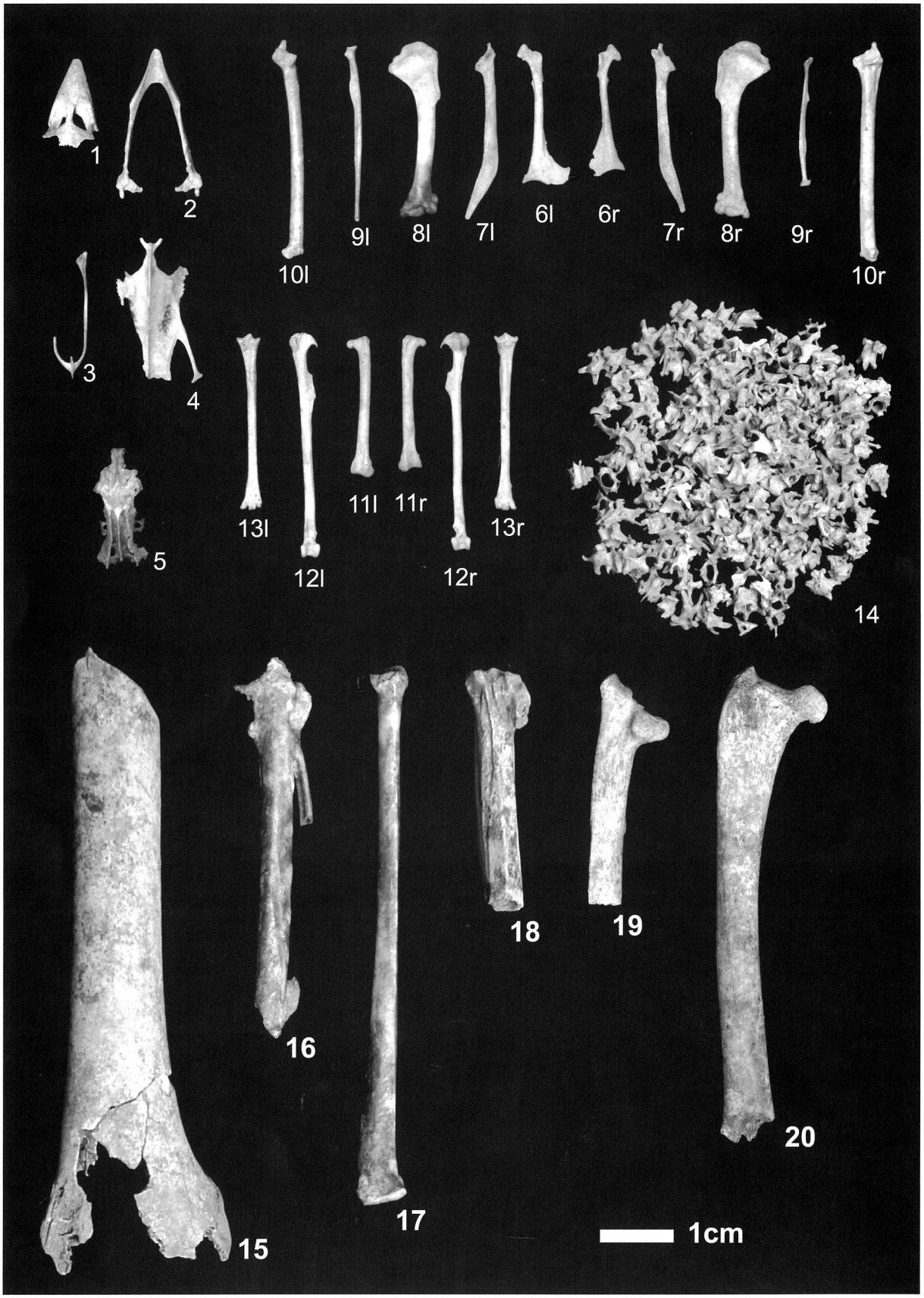
図版4　1～3．ヒト（1側頭骨　左；2頭蓋骨；3大腿骨　左）
4～7．イヌ（4脛骨；5大腿骨；6中手骨；7寛骨）　8，9．シカ　角　加工痕あり
11，12．棒状骨製品　　13．モグラ　大腿骨　右
14，15．ネズミ類（14 下顎骨　右；15 脛骨　右）
1: Ⅲ面包含層か？
2: 北東 G Ⅲ面包含層
3～5，4: 南西 G　Ⅲ面包含層
6: 南東 G　Ⅲ面包含層
7: 北東 G　Ⅲ面包含層
8:トレンチ3　⑦層
9: 南東 G　Ⅲ面包含層
10: 南西 G　Ⅲ面包含層
11: 土坑 25
12: Ⅲ面包含層
13: 土坑7・8
14: 溝1
15: 南西 G　Ⅲ面包含層


1
2
3
4
5a
5b
1cm
1~5
1cm
6~33
2mm
34~42
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42

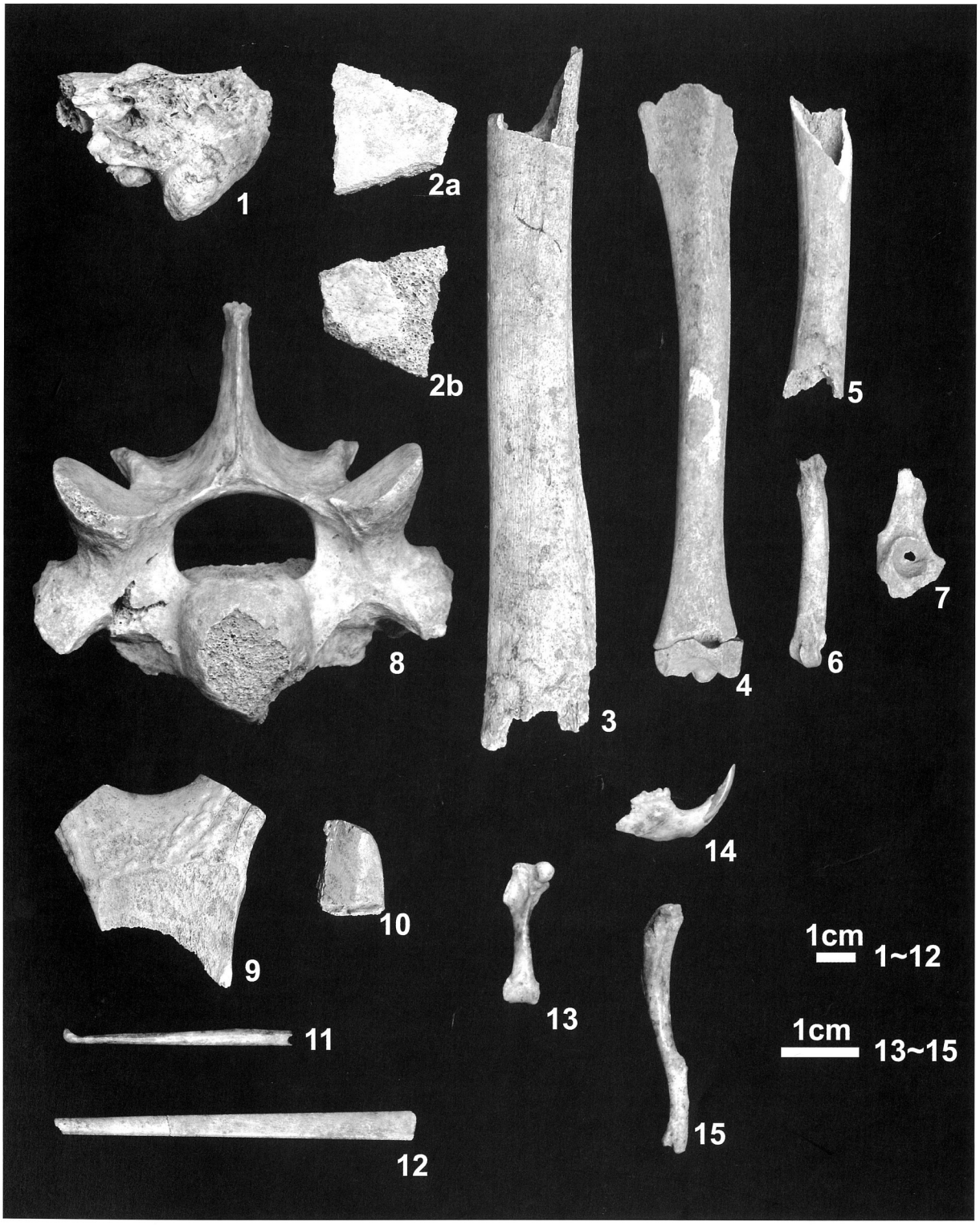
図版1



図版2


1
2
10l
9l
8l
7l
6l
6r
7r
8r
9r
10r
3
4
13l
11l
11r
13r
5
12l
12r
14
15
16
17
18
19
20
1cm

図版3



図版4

第2節　貝類の分類・同定

1. はじめに

三重県桑名市の桑名城下町遺跡外堀30地点発掘調査において多量の貝類が出土した。ここではこれらの貝類について分類・同定を行なった。以下に出土した貝類について種類別に説明する。

2. 同定結果

今回分析した貝類は6,639点であり,その地点別の内容を表1に示した。また別に発掘調査時に拾い上げられたものもあり,それらについては表2に示した。全体の傾向としては,ハマグリが最も多く出土し,シジミとマガキが出土する特徴を持つ。以下に主要な分類群について説明する。なお,殻長や殻高のデータは,それぞれの試料で任意に選び出し,計測した結果である。また,個体数については,二枚貝は殻頂の残存している個体,それに加え,ハマグリとシジミに関しては殻が半分以上残存している個体を,巻貝は芯が2巻以上残存する個体を計数した。なお,表記する割合は左右殻の最小数を用いた最小個体数より産出したものであり,その割合を図1に示した。

ハマグリ

ハマグリは本遺跡から出土した貝類の中でもっとも多く,全体の76%を占める。その殻長値は,小さいもので約20mm,大きいものでは60mmを超える。その中で40 ～ 50mm程度がもっとも多く出土している。

ハマグリは,日本周辺の沿岸域に広く分布し,潮間帯から水深20m前後の砂泥底に生息する。干潟などから容易に採取できることから多くの遺跡で比較的多く産出し,一般的な食用の貝類のひとつである。

シジミガイ科

シジミガイ科は17%を占める。中でも土坑25においてはハマグリより多く出土しており,75%を占めている。シジミガイ科の殻長値は,およそ10 ～ 30mm程度,18 ～ 25mm程度がもっとも多く出土している。

シジミ科は,日本全国の淡水域から汽水域に広く生息しており,種によってその生息域は異なる。淡水域に生息するマシジミ,汽水域に生息するヤマトシジミなどが存在するが,本遺跡から出土する個体はヤマトシジミと考えられる。このヤマトシジミは河口の汽水域の砂中に生息しており,採取が容易であることから,ハマグリと同様に一般的な食用貝類のひとつとされており,多くの遺跡でも検出されている。

マガキ

マガキは全体の5%を占める。その中でも土坑56においては全体の半分以上を占めている。マガキは貝類の性質上,破片化しやすいため,その多くは破片であり,縁辺部が欠けてしまうことが多い。そのため,殻高の計測が難しいが,おおむね10cm程度であり,大きいものでは12cmを超えるものが存在する。

マガキは,日本全国に分布し,潮間帯の岩礁に固着するか,砂礫底に密集してカキ礁をつくり生息している。

表1　桑名城下町遺跡外堀30地点検出貝類試料別出土量

遺構面		Ⅱ面		Ⅲ面							種類別合計（殻数）	
遺構名				土坑17	土坑18	土坑25		土坑30	土坑56	土坑57		
層位		Ⅲ面包含層	Ⅲ面包含層③層			①・③層	④層					
採集年月日		2003.3.24	2003.4.4	2003.4.17	2003.4.16	2003.4.10	2003.4.10	2003.4.16	2003.4.16	2003.4.17		
巻貝類												
サザエ	（蓋）	－	－	－	－	1	－	－	－	－		1
ヘナタリ		1	－	－	－	－	－	－	－	－		1
ツメタガイ		1	－	－	－	－	－	－	－	4		5
アカニシ		－	－	－	－	－	2	－	－	－		2
バイ		－	－	－	－	－	－	－	－	5		5
ムシロガイ		1	－	－	－	－	－	－	－	－		1
オオタニシ		－	－	2	－	－	－	－	－	－		2
キセルガイ類		2	－	－	－	－	－	－	－	1		3
二枚貝類												
サルボウガイ	*L*	1	－	－	－	－	－	－	－	4	5	
	R	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	6
マガキ	*L*	51	11	1	1	－	1	3	26	204	298	
	R	49	8	－	1	－	1	－	18	82	159	457
ハマグリ	*L*	486	121	54	9	2	10	34	19	1,669	2,404	
	R	509	111	31	10	2	14	26	8	1,804	2,515	4,919
カガミガイ	*L*	－	－	1	－	－	－	－	－	1	2	
	R	2	1	－	－	－	－	－	－	2	5	7
シオフキガイ	*L*	7	－	1	－	－	－	－	－	33	41	
	R	5	－	－	－	－	－	－	－	36	41	82
シジミガイ科	*L*	358	7	4	6	1	38	1	5	122	542	
	R	387	8	9	6	5	44	1	6	140	606	1,148
巻貝類（殻数）		5	－	2	－	1	2	－	－	10		13
二枚貝類（殻数）		1,855	267	101	33	10	108	65	82	4,098		6,619
合計（殻数）		1,860	267	103	33	11	110	65	82	4,108		6,639

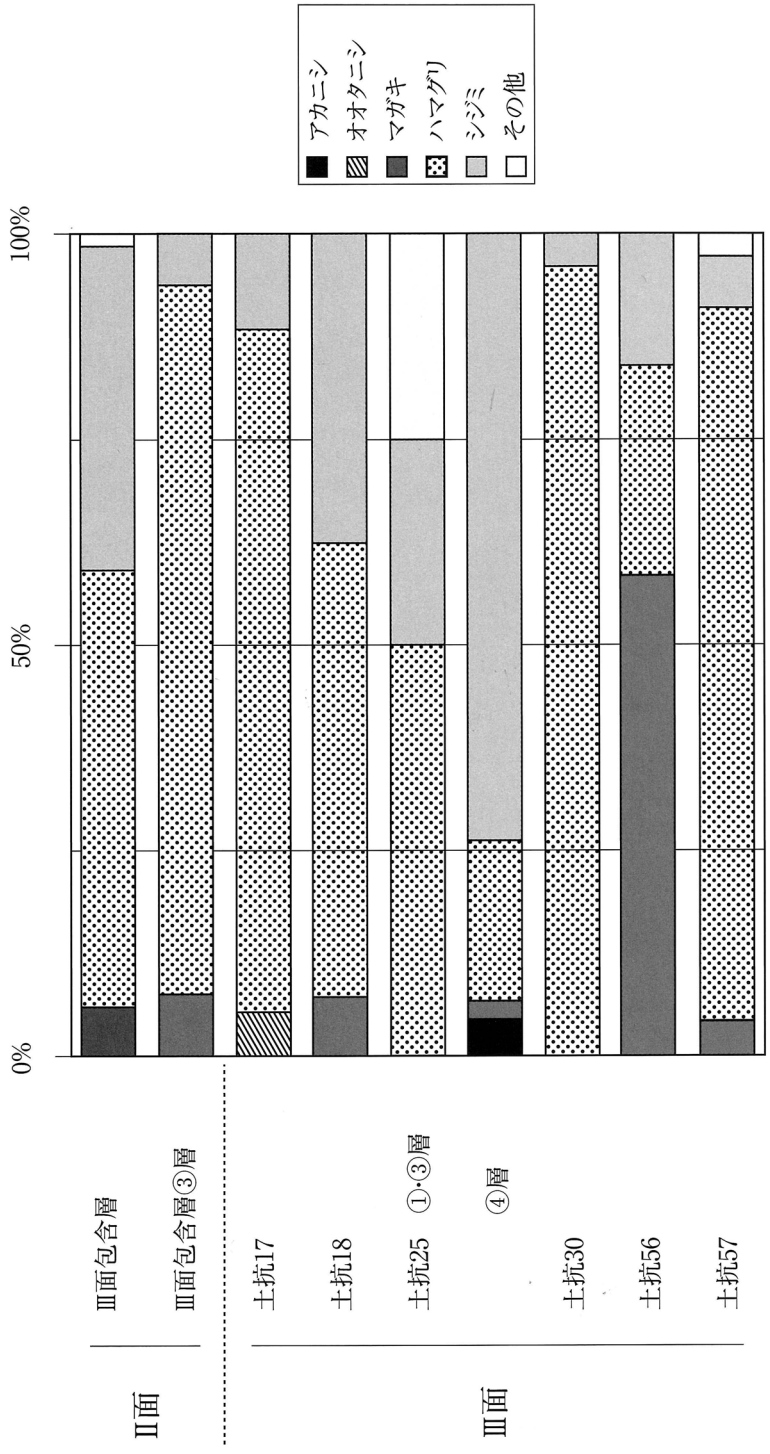


図1 桑名城下町遺跡外堀30地点検出貝類試料別出土率

シオフキガイ

シオフキガイは全体1.2%を占める。その殻高値は3～5cm前後である。

シオフキガイは，房総半島以南に分布し，潮間帯から水深20mの砂泥底に生息している。

カガミガイ

カガミガイは7点出土している。

カガミガイは，北海道南部から九州に分布し，水深10m以浅に生息している。

サルボウガイ

サルボウガイは6点出土している。

サルボウガイは，本州以南に分布し，水深10m以浅の砂泥～泥底に生息している。

アカニシ

アカニシは4個体（拾い上げ試料3個体含む）出土している。そのうち1個体は殻口の反対側に大きな穴があけられており，中の肉を取り出す際にあけられた跡と思われる。

アカニシは北海道以南の水深30m以浅の砂泥底に生息している。浅海域で採取される大型食用巻貝であり，サザエとともに多くの遺跡から出土している。

バイ

バイは6個体（拾い上げ試料1個体含む）出土している。その殻の殻高値は，55 ～ 70mm程度である。バイは北海道南部から九州の沿岸部に分布し，水深10mの砂底に生息している。

ツメタガイ

ツメタガイは5個体出土している。

ツメタガイは北海道南部以南に分布し，内湾の潮間帯から水深50mの砂底に生息している。

サザエ（蓋）

サザエはⅢ面土坑25①・③層で蓋が1個のみ出土している。

サザエはほぼ日本周辺の沿岸域に分布し，潮間帯から水深約40mの岩礁域に生息している。また，サザエの殻表にはトゲのある個体とトゲのない個体が存在し，波が強い外洋環境で生息すると前者，波の静かな内湾のような環境で育ったものが後者の形態を持つ。

オオタニシ

オオタニシは2個体がⅢ面土坑17より出土している。

オオタニシは本州から九州に分布し，おもに池，沼，川に生息している。

ヘナタリ

ヘナタリはⅢ面包含層から1個体のみ出土している。

ヘナタリは本州以南に分布し，干潟に生息している。

ムシロガイ

ムシロガイはⅢ面包含層から1個体のみ出土している。

ムシロガイは本州以南の10m以浅に生息している。

キセルガイ類

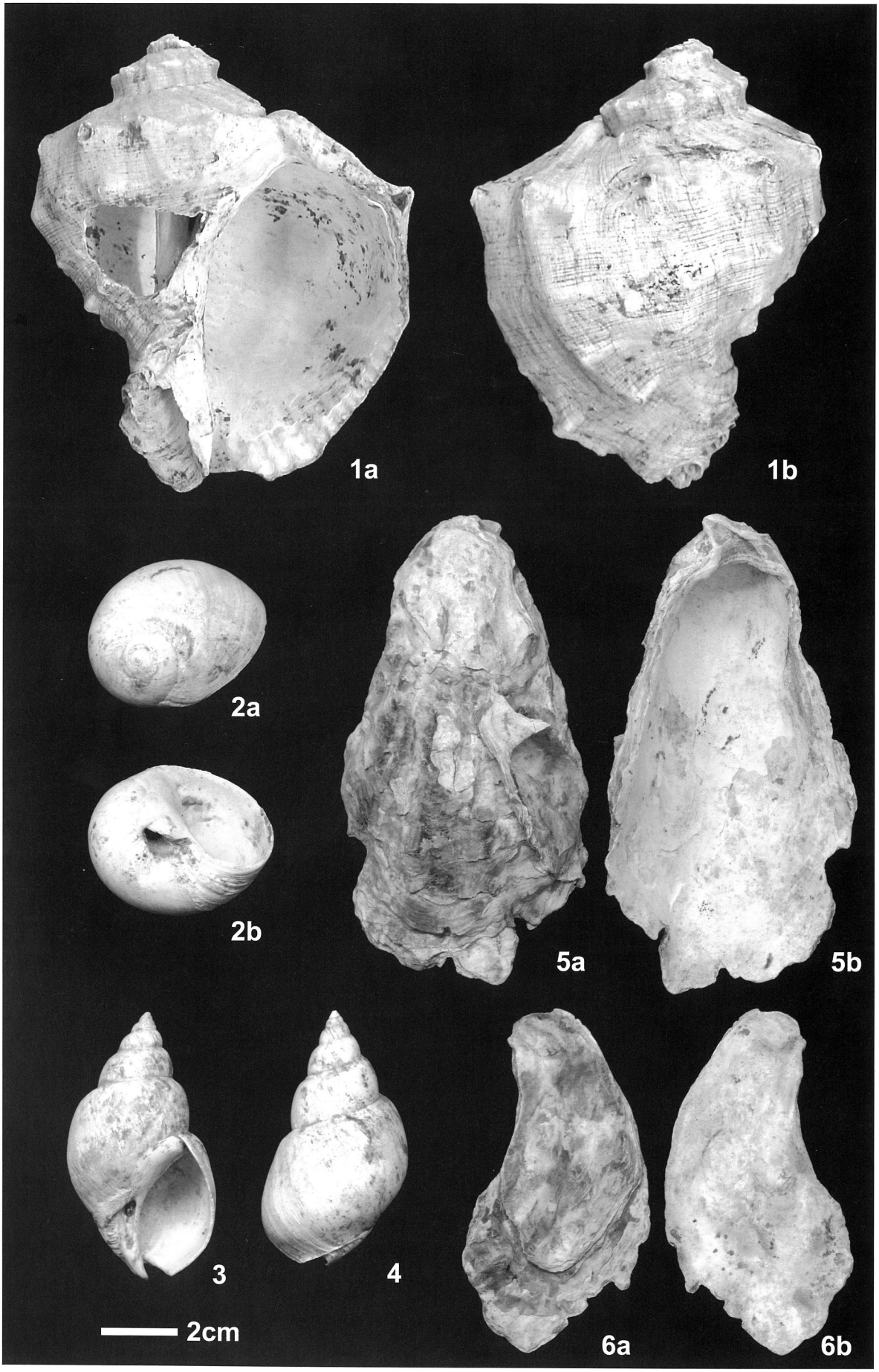
キセルガイ類は3個体のみ出土している。

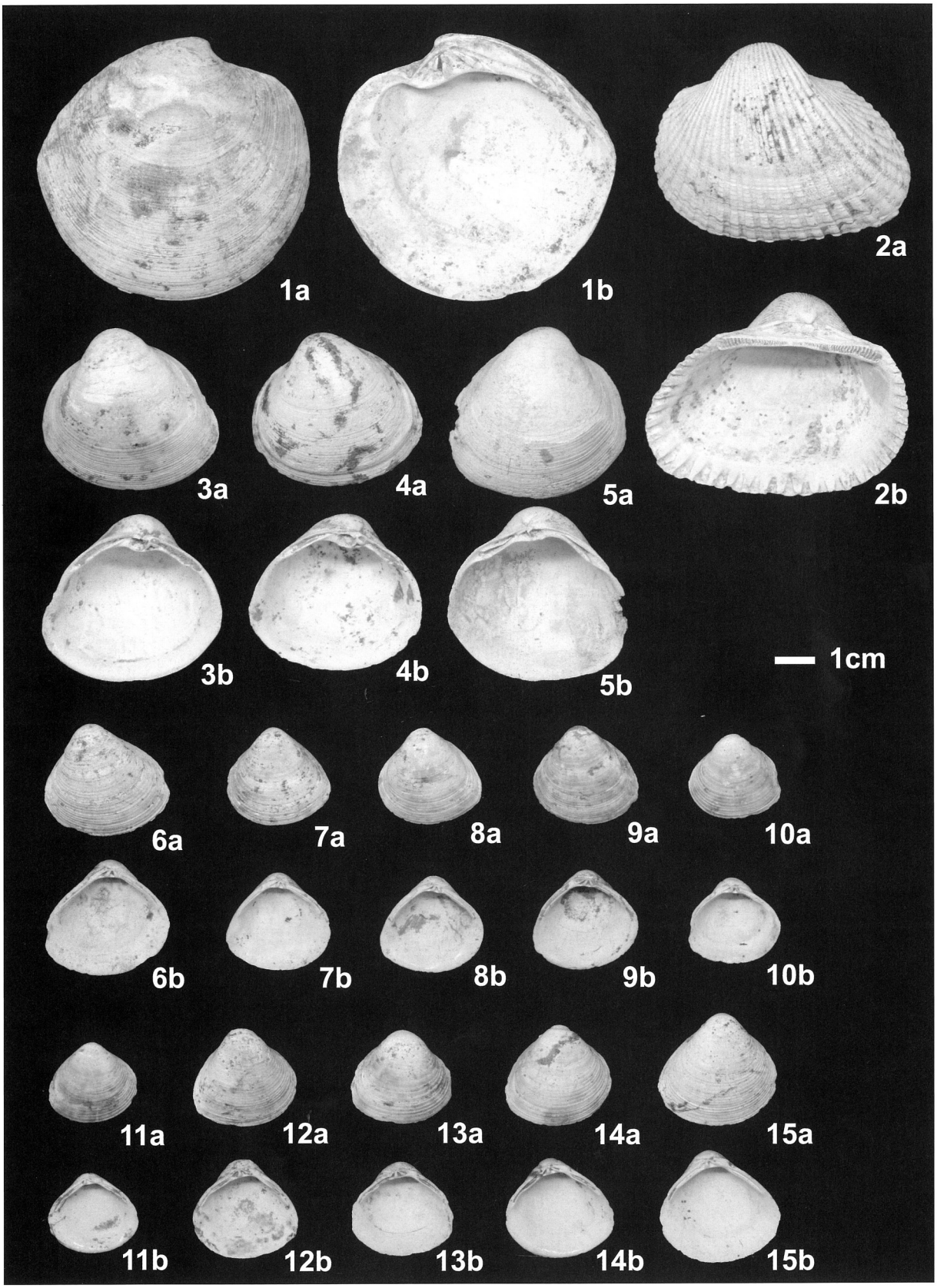
キセルガイ類は陸産巻貝であり，日本各地に分布している。生活様式は種により異なり，木に登る種と，落葉や石の間に棲む種とがある。

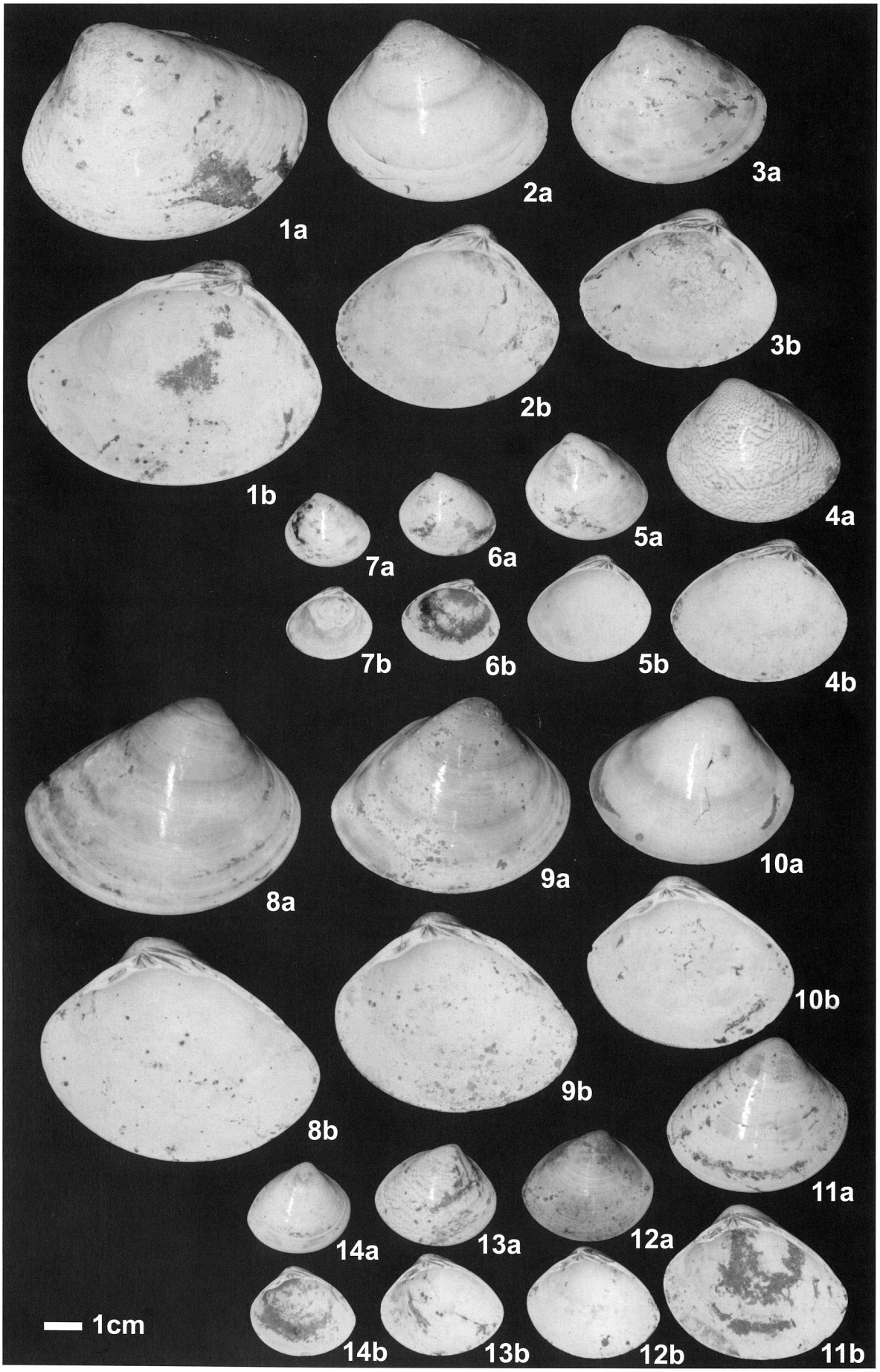
3．おわりに

桑名城下町遺跡外堀30地点より検出された貝類を同定した結果，その多くは一般的な食用貝類であるハマグリである。またそのほかの一般的な食用貝類であるシジミガイ科とマガキも比較的多く検出されており，それら3種類をあわせると貝類全体の98%を占める。その中のハマグリとシジミガイ科については遺構により比率はやや異なる。貝類の多産している3試料（Ⅲ面包含層，Ⅲ面包含層④層，土坑57）について見ると，Ⅲ面包含層においてはシジミガイ科がおよそ40%と多く産出するのに対し，それ以外の2試料ではハマグリが90%近く産出している。この違いが何を示しているかを検討するには，桑名城下町遺跡内での貝類の出土状況を平面的かつ時代的に把握し，それにあわせて建物などの人間の生活環境などの状況も把握・検討していくことで違いが把握できると考えられる。

参考文献
吉良哲明（1954）「原色日本貝類図鑑（増補改訂版）」。保育社，pp.240。
渡部忠重・奥谷　司（1954）「学研生物図鑑　貝Ⅱ」。学習研究社，pp.294。


1a
1b
2a
2b
5a
5b
3
4
2cm
6a
6b


1a
1b
2a
2b
3a
3b
4a
4b
5a
5b
1cm
6a
6b
7a
7b
8a
8b
9a
9b
10a
10b
11a
11b
12a
12b
13a
13b
14a
14b
15a
15b


1a
2a
3a
1b
2b
3b
4a
5a
6a
7a
4b
5b
6b
7b
8a
9a
10a
8b
9b
10b
11a
12a
13a
14a
11b
12b
13b
14b
1cm

第3節　大型植物化石の同定

1．試料と方法

大型植物化石の検討は、液浸保存された抽出（取り上げ）済みの9試料について行った。これら試料について肉眼および実体顕微鏡下で同定・計数を行った。

2．出土した大型植物化石

出土した大型植物化石の一覧を第1表に示した。同定されたのは、大本（2分類群）がマツ属複維管束亜属毬果、モモ核、草本（5分類群）がイネ炭化胚乳、オオムギ炭化胚乳、コムギ炭化胚乳、トウガン種子、オナモミ炭化果実であった。モモは、比較的多くの試料で得られ、土坑39でやや目立った。イネは、土坑25でやや多産した。オオムギは土坑25、コムギは土坑17で得られた。トウガンは、土坑57などで得られた。

3．考察

同定された分類群のうち、モモ、イネ、オオムギ、コムギ、トウガンは栽培植物と考えられる。イネ、オオムギ、コムギは炭化しており、生活の場で廃棄されたものが土坑内に流入したか直接投棄されたと予想される。モモ、トウガンは未炭化であり、付近に栽培地が存在していた可能性も考えられる。針葉樹のマツ属複維管束亜属は、土坑39付近に生息しており、オナモミは土坑25付近の乾いた場所に生育していたと予想される。

4．形態記載

マツ属複維管束亜属　*Pinus*　毬果

毬果鱗片の形態ではクロマツの可能性が考えられたが、風化が激しく破片であるため、同定は控えた。

モモ　*Prunus Persica* Batsch　炭化核

側面観は楕円形、上面観は両凸レンズ形。一方の側面に縫合線が発達する。表面には不規則な流れるような溝と穴がある。核の長さは、20 ～ 27.5mm程度でⅡ面掘り下げ／南東GやⅢ面／ミゾ1の核は小さい。

イネ　*Oryza sativa* Linn.　炭化胚乳

側面観・上面観共に楕円形。両面の表面には、縦方向の2本の筋が入り、3等分される。これの真ん中は隆起し、両端は一段下がる。Ⅲ面／土坑25/④層の1個体は、穎の一部が残って張り付いている。穎の表面には規則的な顆粒状突起が配列する。

オオムギ　*Hordeum vulgare* Linn.　炭化胚乳

長楕円形で上端・下端共にやや尖り気味。一方の面には、基部から頂部にかけて一本の溝が走る。

コムギ　*Triticum aestivum* Linn.　炭化胚乳

丸こく楕円形。一方の面には、基部から頂部にかけて一本の溝が走る。

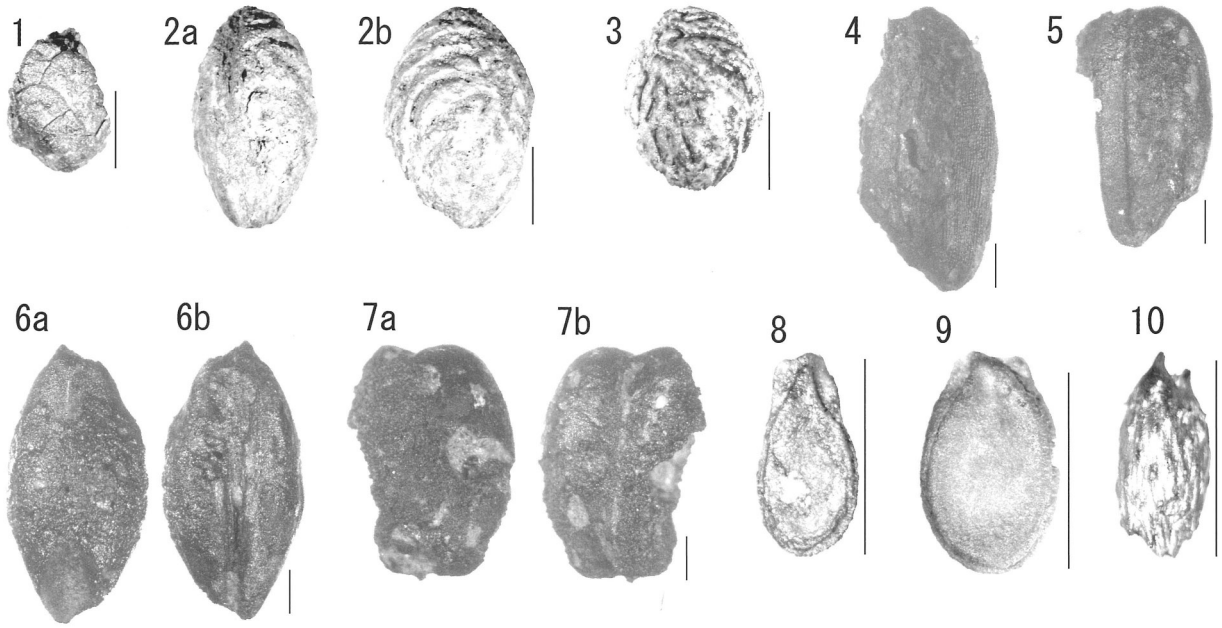
トウガン　*Benincasa hispida* Cogn.　種子

種子は扁平楕円形で上端で翼状に発達し、周縁部は肥厚する。

第1表　大型植物化石出土一覧表

分類群・部位 / 遺構面・遺構・層位等		外堀30	外堀30	外堀30	外堀30	外堀30	外堀30	外堀30	外堀30	外堀30
		Ⅲ面	Ⅲ面	Ⅲ面	Ⅲ面	Ⅲ面	Ⅲ面	Ⅲ面	Ⅲ面	
		包含層	土坑17	土坑25	土坑25	土坑39	土坑39	土坑57	溝1	
				①・③層	④層					
マツ属複維管束亜属	毬果									
モモ	核					(1)				
イネ	炭化胚乳	1		5(5)	5	1	2		1	
オオムギ	炭化胚乳			2(1)						
コムギ	炭化胚乳		5							
トウガン	種子							1		1(2)
オナモミ	炭化果実			1						

数字は個数、（ ）内は半分ないし破片の数を示す



1.マツ属複維管束亜属、毬果、外堀30/Ⅲ面/土坑39　2.モモ、核、外堀30/Ⅲ面/土坑39　3.モモ、核、外堀30/Ⅲ面/ミゾ1　4.イネ、炭化胚乳、外堀30/Ⅲ面/土坑25/④層/半裁後サンプル　5.イネ、炭化胚乳、外堀30/Ⅲ面/土坑25/①・③層/半裁後サンプル　6.オオムギ、炭化胚乳、外堀30/Ⅲ面/土坑25/①・③層/半裁後サンプル　7.コムギ、炭化胚乳、外堀30/Ⅲ面/土坑17/半裁後サンプル　8.トウガン、種子、外堀30?　9.トウガン、種子、外堀30/Ⅲ面/土坑57　10.オナモミ、炭化果実、外堀30/Ⅲ面/土坑25/①・③層/半裁後サンプル

図版1　出土した大型植物化石（スケールは1～3、8～10が1cm、4～7が1mm）

第4節　木製品の樹種同定

1．はじめに

ここでは、近世の木製品3点の樹種同定を実施した結果を報告する。なおこのうち一点は、非常に木材に似ていたが、骨格類から作成されたもののようであった。

2．方法

材の3方向（横断面・接線断面・放射断面）から剃刀を用いて薄片を作成し、スライドガラスに並べ、ガムクロラールで封入し、永久プレパラート（材組織標本）を作成した。この材組織標本を、光学顕微鏡で40 ～ 400倍に拡大し観察した。

なお、試料882は保存が悪く軟質であったため、針葉樹材の同定に重要な放射断面のみを採取した。

材組織標本は、パレオ・ラボに保管されている。

3．結果

同定結果の一覧を表に示し、代表的樹種の材組織の光学顕微鏡写真を提示する。

表1　桑名城下町遺跡外堀30地点出土木製品樹種同定結果

地区名	遺構・層位	遺物No.	製品	樹種
南東G	Ⅲ面包含層	871	札?	骨格製品
北東G	Ⅲ面包含層	872	漆器椀	トチノキ
	Ⅲ面・土坑 35	882	有孔板	ヒノキ科

樹種記載

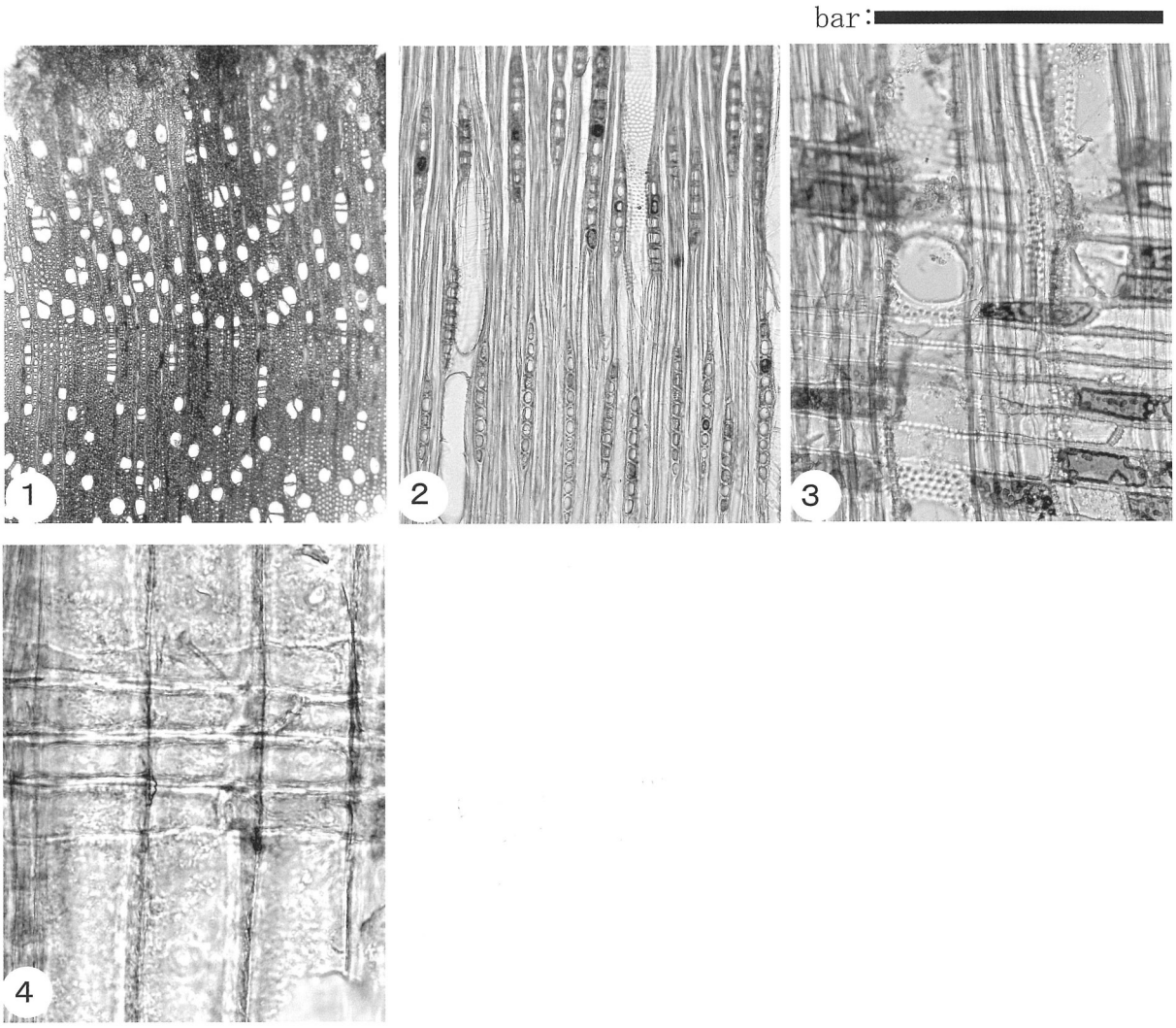
トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　トチノキ科　図版1　1－3（No.872）

小型の管孔が単独または2～数個が複合して分布する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状に配列し、道管と放射組織の壁孔は交互状に密在する。

トチノキは北海道以南の温帯の谷間に生育する落葉高木である。材は軽軟で緻密で加工し易く、材面は絹系光沢がある。木理は不規則で耐久性は低く狂いがでやすいが、自然乾燥させて漆器木胎に利用されている。

ヒノキ科　Cuperssaceae　図版1　4（No.882）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少ない。保存が悪く分野壁孔は不明瞭であるが、ヒノキ型が観察され、1分野の壁孔数は少ないようであった。



1－3:トチノキ（No.872） 4:ヒノキ科放射断面（No.882）
bar:1:1.0mm 2:0.4mm 3:0.2mm 4:1.0mm

図版 外堀30地点出土木製品の樹種

第5節　札状骨製品の元素マッピング分析

1．はじめに

桑名城下町外堀30地点の調査では、中世または近世と思われる札状の骨製品が出土した。この札状の骨製品の両面には、大小大きさの異なる円から構成される文様が複数箇所に彫刻されていた。このうちの片面側の文様の中央部分には白色の付着物が見られた。また、その他の文様部分ではやや赤味のある付着物が見られた。

ここでは、この札状骨製品の文様部分に見られた白色および赤色の付着物の材質を調べるために元素マッピング分析を行った。

2．試料と方法

試料は、中世または近世と思われる装飾を施した札状の骨製品である。文様は、大小大きさの異なる円から構成され、両面に施されている（図版1）。なお、材質は硬く象牙質と思われる。

測定した面は、文様部分に白色の付着物が見られる面を対象とした。試料は、洗浄は行わず試料台に固定して蛍光X線分析計で測定した。

測定は、X線分析顕微鏡（㈱堀場製作所製XGT－5000Type Ⅱ）を用いた。元素マッピングの測定条件は、X線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間15,000secである。点分析の測定条件は、X線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間500secであり、標準試料を用いないFP法（ファンダメンタルパラメータ法）で半定量分析を行った。

3．結果および考察

元素マッピング分析を行った結果、札の素材である骨を反映して全体的リン（P）およびカルシウム（Ca）の輝度（濃度）が高い。

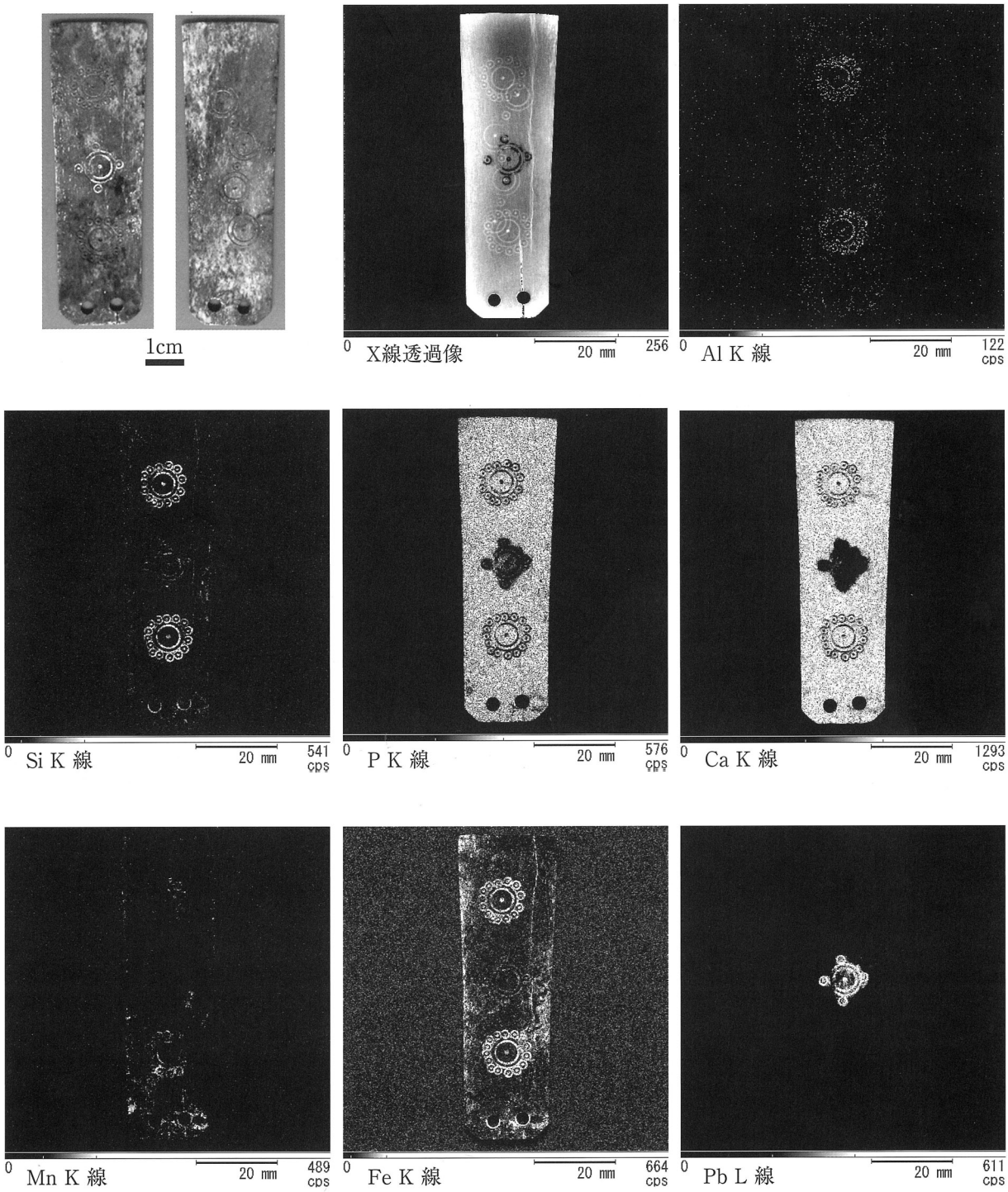
測定した面には、パターンの異なる文様が3箇所に彫刻されているが、中央に位置する文様の白色付着物のみから鉛（Pb）が明瞭に検出された。なお、この白色付着物の点分析では、鉛（PbO）が58.70%含まれていた（表1）。また、これ以外の文様部分からは、アルミニウム（Al）とケイ素（Si）および鉄（Fe）が明瞭に検出されている。

以上のことから、彫刻された3箇所の文様部分のうち、中央の文様部分には鉛が塗布されていることが判明した。

一方、その他の文様部分には鉄が検出されたことから赤色系の顔料が塗布されていると考えられる。同時に検出されたアルミニウムやケイ素は粘土に含まれる成分であることから、粘土に鉄を混ぜたペースト状の赤色顔料として塗布したことが考えられる。この部分の肉眼観察では若干の赤味が確認される。なお、もう一方の面の文様部分にも若干の赤味が確認されることから、同様の赤色系の顔料が塗布されているものと思われる。

表1　白色付着物の分析結果（単位:%）

測定位置	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	CaO	MnO_2	Fe_2O_3	ZnO	SrO	PbO	合計
白色付着物	2.84	12.47	16.03	6.90	0.13	2.81	0.04	0.08	58.70	100.00



図版1　札状骨製品の透過像および元素マッピング図

［元素記号］
Al:アルミニウム,Si:ケイ素,P:リン,Ca:カルシウム,Mn:マンガン,Fe:鉄,Pb:鉛

第6章　ま　と　め

本章では検出された各遺構面の時期や、出土遺物等について若干の検討を行い、調査のまとめとしたい。

第1節　各遺構面の時期について

各遺構面を通じて紀年銘を持つ資料は全くないうえに、遺構にともなう遺物の出土も少ないため、各遺構面の時期決定については非常に困難であった。主に生産地にて編年作業の行われている陶磁器類からおおまかな年代観を類推することとしたい。

Ⅰ面は土坑1から近代の陶磁器片等が出土しており、少なくとも昭和20年の桑名空襲まで利用されていたようである。上限の詳細は不明だが、幕末～明治にかけての遺物しか含まない遺構もあるため、幕末頃から利用されていた可能性がある。

Ⅱ面は遺構から瀬戸産の磁器や、常滑産の赤物甕が出土しており、利用の下限は19世紀代と考えられる。上限は遺物包含層の状況等から、18世紀にさかのぼる可能性もある。

Ⅲ面は遺構から18世紀代の瀬戸産陶器や肥前産磁器が出土しており、利用の下限は18世紀代であろうか。

なお、さらに下層については開発が及ばないため掘削を行っていないが、排水用に掘削した溝からは中世に属する遺物が若干検出されている。また、各遺構面の包含層等からは中世以前にさかのぼる、古代の土師器の甕や須恵器等もわずかながら出土が見られた。古代の遺物については水流によると考えられる摩耗が著しいため、上流域から流入した可能性が高いが、調査区のさらに下層には中世、もしくはそれ以前の遺構面が存在する可能性を指摘しておきたい。

桑名城下町は近世～近代にかけて多数の絵図が残されている。絵図には武家地、町家、寺社等が分類されて記載されることが多いため、縮尺の面等で問題はありながらも、発掘調査の際に参考資料として使用することが多々ある。本調査地を絵図で確認すると、用途が記載されず空欄になっているものも見受けられる。土地の形状も三角形となっており、利用しにくい土地であった可能性がある。また、城下町を東西に流れる堀に面しており、後述するが、水辺に生息する動物遺体が検出されている。本調査地は遺物の出土量こそ多いものの、近世に人的利用は薄い地域であったのかもしれない。

第2節　中世から近世初頭にかけての遺物と土地利用について

近世の遺跡として周知されている桑名城下町遺跡であるが、現在までの発掘調査において、中世に

さかのぼる遺物が出土することは少なくない。これまでの調査では断片的な資料が確認されていたのみであったが、今回の調査では相当数の遺物が検出された。また、他の地点ではあまり出土の見られない近世初頭の遺物も確認できた。

遺物の詳細については遺物一覧表を参照されたいが、ここでは遺物の年代観から調査地及び、周辺の土地利用の推移を考えてみたい。

今回の調査で確認されている最も古い遺物は古代の土師器や須恵器等である。これらは、出土量もごくわずかであり、前述のように上流域からの流入の可能性が高い。調査地で使用されたと考えられる最も古い遺物は9～10世紀にかけての灰釉陶器であろうか。しかし、出土量はごく少量である。まとまった出土が見られるのは12世紀中葉以降の山茶碗であり、この頃に集落が形成されたと考えられる。山茶碗の出土は12世紀中葉以降、徐々に増えていき、14世紀代のものが量的に最も多い。14世紀後半になると古瀬戸の出土が見られるが、さほど多くない。その後、瀬戸・美濃大窯製品が出土するが、15世紀末から16世紀にかけての遺物は極めて少ない。常滑窯製品でも同様の傾向が見られる。周辺にあったとされる西城、東城、赤須賀城等の中世城館との関連が考えられよう。17世紀に入ると再度、遺物の出土量は増加し、瀬戸・美濃産陶器、常滑窯製品のほか、肥前産陶器も出土が見られるようになる。これは本多忠勝によるいわゆる「慶長の町割り」によって、城下町が整備された結果と見ることができよう。

本調査地が立地する揖斐・長良川河口域の沖積地は、寺跡遺跡等の中世遺跡や、勢以口遺跡等の中世から近世にかけての遺跡が多数確認されている。今後は、揖斐・長良川河口域の沖積地の土地利用の推移について、これらの遺跡の遺物出土状況も合わせて考えていくべきと思われる。

第3節　動物遺体と環境について

以降埋土には動物遺体が含まれているものが多く、検出・半裁段階で確認された場合は半裁後の埋土を層位毎に持ち帰り、精査を行った。また、盛土に動物遺体が含まれている場合は定量分析を行うため、ブロックサンプリングを行っている。詳細は第5章を参照されたい。本節では動物遺体の出土を通じて、各遺構面の自然環境等について検討する。

Ⅰ面

土坑13よりタラ科の魚骨が検出された。近在で採集されるものではないため、食用として購入したものと考えられる。

遺構面直上で検出された小型の壷の中からは、モズの骨が大量に出土した。複数の個体が埋葬されたものと考えられるが、意図等の詳細は不明である。食用とは考え難いモズを、近世～近代にかけてどのように利用していたかを考えるうえで興味深い事例と思われる。

Ⅰ面からは上記の2例のみの出土であり、両者とも人為的に搬入されてものであることから自然環境を検討するのは困難であった。

Ⅱ面

主に土坑16から大量に魚骨が検出された。エイ目、ニシン科、コイ、フナ、ウグイ、サケ、タラ科、ボラ科、フグ科、スズキ科、ブリ属、アジ科、クロダイ属、タイ科、サバ属、ヒラメ科、カレイ科、フサカサゴ科であり、すべて食用として搬入されたものと思われる。またカエル類や小型鳥類、ネズミ類も出土しているが、これらは廃棄土坑として利用されていた土坑16の埋没過程で混入したものと思われる。土坑10からはクサガメ、カエル類が出土した。食用にしたとは考え難く、周辺に生息していたものが入り込んだものと思われる。

搬入された結果と考えられる魚骨を除き、クサガメ、カエル類が検出されたことから、付近に水辺が広がっていたと考えられる。

Ⅲ面

土坑18、25、57より魚骨が大量に出土している。Ⅱ面の土坑16と同様に廃棄土坑として利用されていたものと思われる。土坑18からはカエル類、土坑25からはクサガメ、スッポン等も検出されている。カエル類やクサガメについては周辺に生息していたものが入り込んだものと思われるが、スッポンについては食用にした可能性も考えられる。また、土坑25からはキジ、カモ等が検出された。食用にしたものと思われる。土坑13、17、溝1からはネズミ類が出土した。これらは周辺に生息していたものが入り込んだものと思われる。遺物包含層からはイヌ、ウマ等の骨が出土している。ウマに関しては骨を利用するために持ち込まれた可能性が考えられる。また、ヒトも4点出土している。前述のように噛み跡が認められることから、イヌ等によって墓等から持ち込まれたと考えられる。

カエル類やクサガメが検出されたことから、水辺が付近に広がることが考えられる。また、イヌ等が人骨を持ち込む、荒れ地のような空間が一部に広がっていた時期もあったようだ。

第4節　鋳型について

今回の調査では網の錘を製作したと考えられる石製の鋳型（581 ～ 583）が出土した。遺構に伴う出土ではなく、現在までに桑名城下町での出土例は鋳型、また、鋳型からつくられた製品はともにないため、使用された年代を特定するには至らなかった。

製作、使用方法については久保和士氏の研究（久保和士「網の錘」『葦火』54号　財団法人大阪市文化財協会　1995）に詳しく、現代の例では河川での投網漁に使用されているとのことである。また、製作も使用者、すなわち漁を行う漁師自らが行うとのことである。

他に鋳造関連の遺物や遺構は検出されていないため、搬入された可能性も否定できないが、調査地の土地利用や、当時の漁業等を考えるうえで貴重な資料と言える。類例の増加を待って再度検討していきたい。

本調査は建物跡等、性格の分かる遺構こそ検出されなかったものの、絵図の上での土地利用が明確でなかった地点を、考古学の立場から調査を行うことができた意義深いものであったと思われる。また、城下町の成立時期や、それ以前の集落、中世城館等を考えるうえで重要な意味をもつであろう、中世から近世前半にかけての遺物もまとまって出土した。さらに、当時の自然環境や食生活等を考えるうえで極めて重要な動物遺体等も多数確認されている。

しかし、主に時間の制約から、事実報告のみとなってしまい、これらの貴重な情報をすべて活かしきれたとは言い難い。特に第4章の遺物及び、本性であるまとめでそれは顕著である。今後、桑名城下町の他地点の調査も含めて検討していきたいと考えている。

主要参考文献

桑名市教育委員会『桑名市史　本編』1959

桑名市教育委員会『桑名市史　補編』1960

藤沢良祐　「瀬戸古窯趾群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館　研究紀要』Ⅰ　1982

齊藤孝正　「猿投窯における灰釉陶の展開」『考古学ジャーナル』211　1982

藤沢良祐　「“古瀬戸”概説」『美濃陶磁歴史館報』Ⅲ　土岐市美濃陶磁歴史館　1984

中野晴久　「近世常滑焼における甕の編年的研究ノート」1986
『常滑市民俗資料館　研究紀要』Ⅱ　常滑市教育委員会

藤沢良祐　「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅴ　1986
瀬戸市歴史民俗資料館

桑名市教育委員会『桑名市史　続編』1987

藤沢良祐　「本業焼の研究（1）」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅵ　1987
瀬戸市歴史民俗資料館

藤沢良祐　「本業焼の変遷（2）」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅶ　1988
瀬戸市歴史民俗資料館

藤沢良祐　「本業焼の変遷（3）」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅶ　1988
瀬戸市歴史民俗資料館

藤沢良祐　「本業焼の変遷（4）」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅷ　1989
瀬戸市歴史民俗資料館

藤沢良祐　「瀬戸古窯趾群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」1991
『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅹ　瀬戸市歴史民俗資料館

大橋康二　『考古学ライブラリー55肥前陶磁』ニューサイエンス社　1993

青木　修　「片口鉢の研究－中世知多古窯址群を中心として－」1993
『研究紀要』第1輯　（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

青木　修　「続片口鉢の研究－中世知多古窯趾群を中心として－」1994
『研究紀要』第2輯　（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

中野晴久　「生産地における編年について」『「中世常滑焼をおって」資料集』1994
知多半島総合研究所

藤澤良祐　「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』1994
第3号　三重県埋蔵文化財センター

久保和士　「網の錘」『葦火』54号財団法人大阪文化財協会　1995

常滑市教育委員会『常滑の赤物展～もう一つの常滑焼～』1995

藤沢良祐　「中世瀬戸窯の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界　1996
～その生産と流通～資料集』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

北村和宏　「尾張の羽釜」『鍋と甕　そのデザイン』考古学フォーラム　1996

鈴木正貴　「東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜」『鍋と甕　そのデザイン』1996
考古学フォーラム

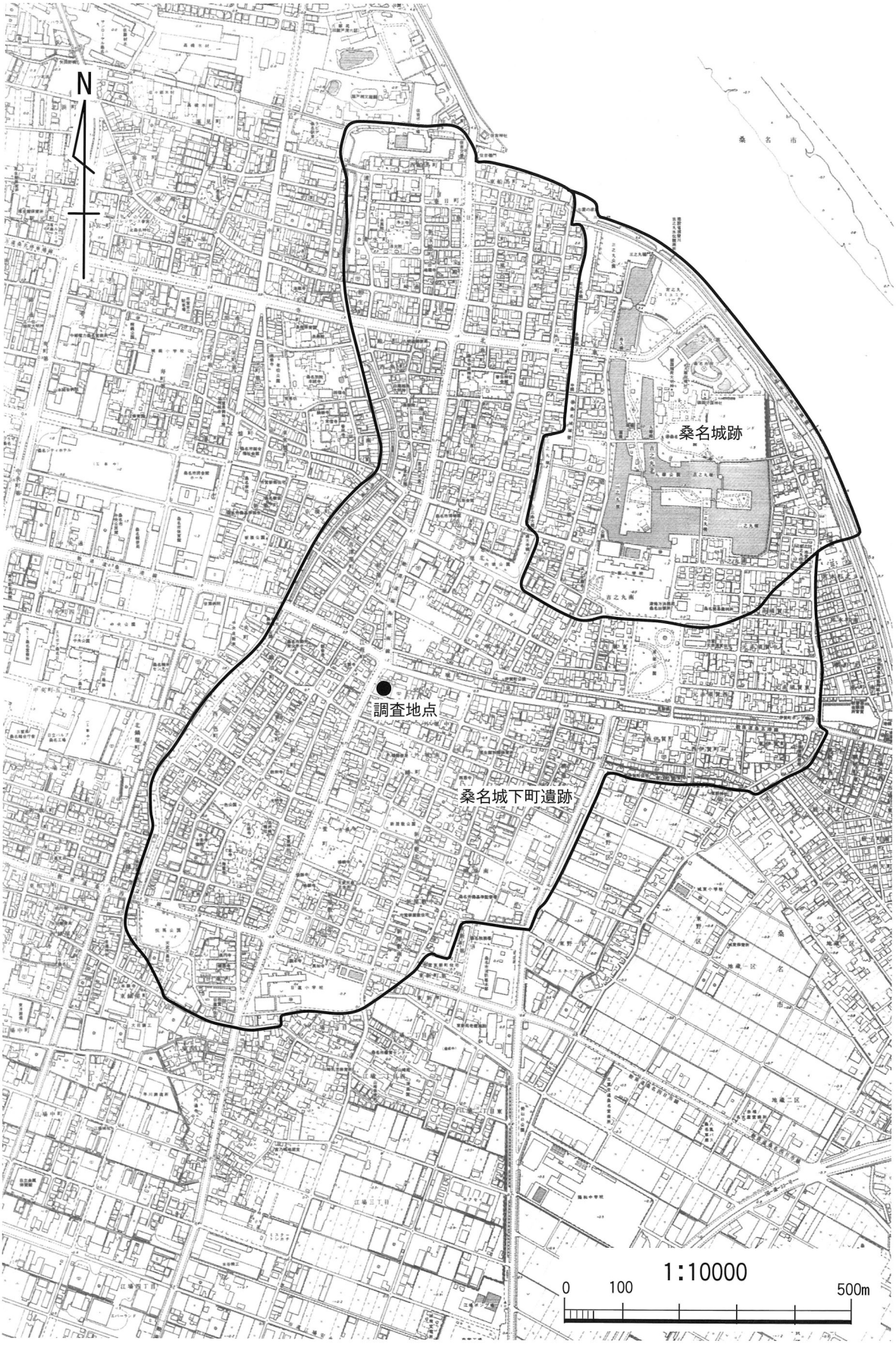
金子健一　「尾張・三河地方のホウロク」『鍋と甕　そのデザイン』1996
考古学フォーラム

永井宏幸　「尾張平野を中心とした古代煮炊具の変遷」1996
『第四回東海考古学フォーラム　鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム

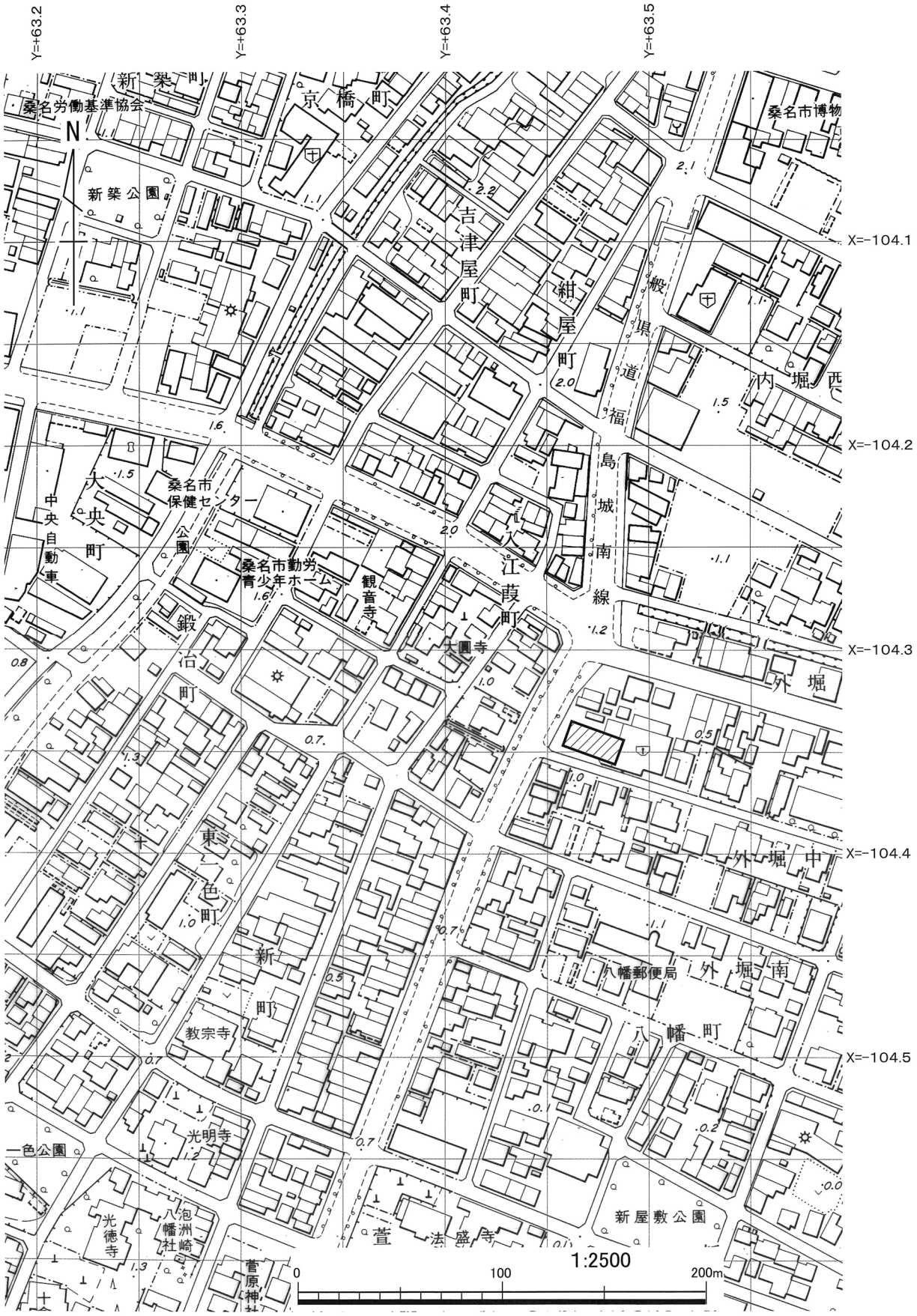
伊藤裕偉　「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」1996
『第四回東海考古学フォーラム　鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム

藤澤良祐　「中世瀬戸窯の動態」『財団法人　瀬戸市埋蔵文化財センター設立5周年記念シンポジウム「古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～」資料集』瀬戸市教育委員会・財団法人　瀬戸市埋蔵文化財センター　1996

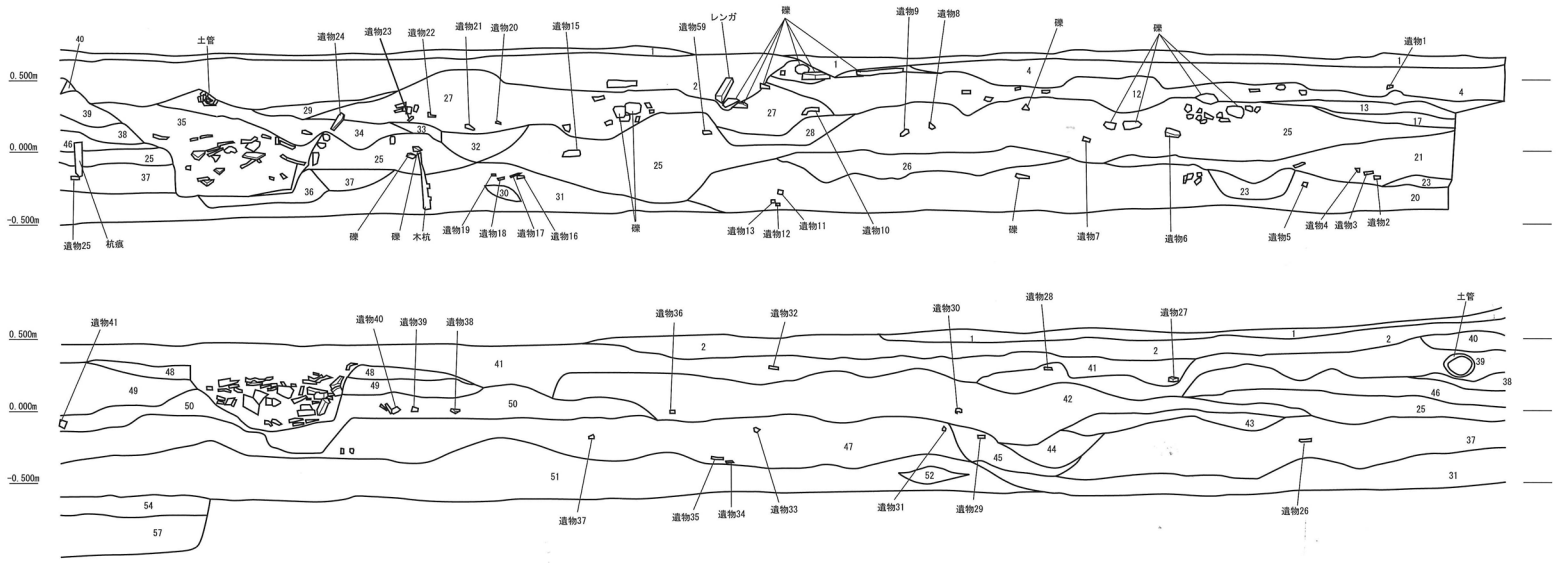
尾野善裕　「猿投窯出土須恵器の主要器種分類」『第一回東海土器研究会資料　2000
　　須恵器生産の出現から消滅－猿投窯・湖西窯編年の再構築―』東海土器研究会
九州近世陶磁学会『九州陶磁の編年　－九州近世陶磁学会10周年－』2000
桑名市教育委員会『桑名城下町遺跡発掘調査報告書～萱町93地点～』2001
桑名市教育委員会『桑名城発掘調査報告書－九華公園護岸改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－』2001
武部真木　「中世土師器皿の様相－12 ～ 16世紀の尾張平野－」2001
　　『考古学フォーラム』13考古学フォーラム
藤澤良祐　「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『研究紀要』第10輯（財）瀬戸市埋蔵文化財センター　2002
桑名市教育委員会『桑名城下町遺跡発掘調査報告書～萱町93（法盛寺）地点』2002
桑名市教育委員会『勢以口遺跡発掘調査報告書』2002

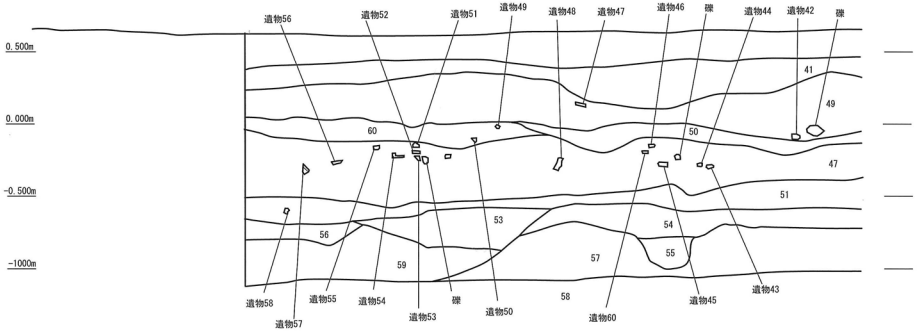


図版1　調査地点位置図（1:10000）



図版2　調査地点位置図（1:2500）

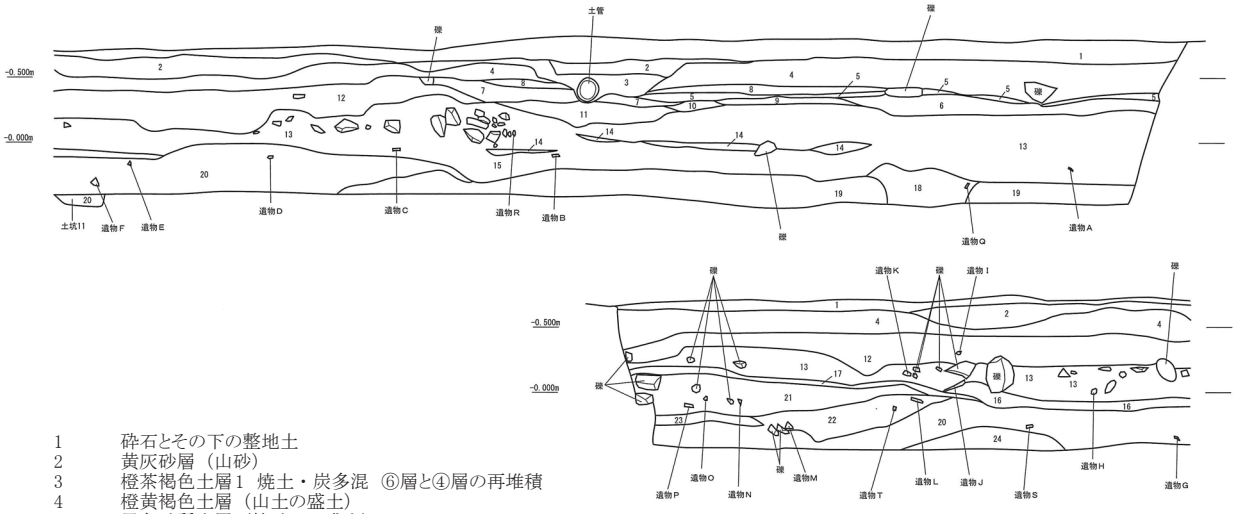




25　暗茶褐色土層
26　21層と同一　ハサイ貝やや少ない
27　橙茶褐色土層6　炭・焼土・ガラ混12層より焼土が少ない（戦災復興層）
28　橙茶褐色土層7　ガラが入らない　炭・焼土層（戦災復興層）
29　暗橙褐色土層　炭多含　27層からガラがないもの　炭が多くなったもの
30　黄茶褐色泥貝土層　ハサイ貝多
31　黄茶褐色土層　砂質　鉄分少し含む
32　暗青褐色土層
33　暗青褐色砂質土層
34　暗青灰色砂質土層
35　暗橙灰色粘質土層　ガラ・焼土多含　ホリカタに木ワク
36　暗灰白色土層　炭粒炭粒なし　ほぼ同一　炭の混じり方の違い
37　暗灰白色土層　炭粒若干含む
38　暗黄褐色砂質土層　ハサイ貝混
39　暗橙灰色土層　焼土混
40　橙茶褐色土層　焼土混
41　青褐色粘質土層（旧表土）
42　茶褐色土層　炭粒若干混じる
43　木灰色土層　ハサイ貝少・炭粒少混
44　暗黄灰色土層　炭粒少混
45　黄灰色土層　ハサイ貝少混　43とほぼ同一
46　橙黄褐色土層　砂質　有機質含む
47　暗黄茶褐色土層　炭粒少混
48　黄褐色土砂質
49　茶褐色土層　炭・焼土粒混
50　橙黄褐色土層　炭・焼土混　小砂利含
51　暗黄褐色砂質土層
52　黒褐色土層　炭多・焼土少混
53　暗褐色砂質土層　ハマグリ・アサリ・シジミ混土貝層　59層より貝少ない
54　暗褐色砂質土層
55　暗青灰粘質土層（ミゾ？埋土？）ハサイ貝少混　有機質
56　暗褐色粘質土層　ハマグリ・アサリ混貝土層　貝は完形も含むがハサイ多い
57　暗灰色砂質　無遺物？ほぼ同一ベース面
58　灰白色砂層　無遺物層
59　混土貝層　ハマグリ・アサリ定形　暗褐色砂質土層
60　橙褐色土層　焼土・炭混

0　1：50　2m

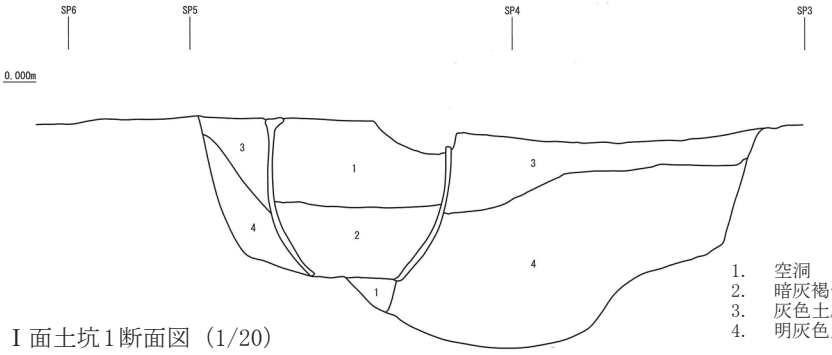
調査区南壁断面図（1/50）



1　砕石とその下の整地土
2　黄灰砂層（山砂）
3　橙茶褐色土層1 焼土・炭多混 ⑥層と④層の再堆積
4　橙黄褐色土層（山土の盛土）
5　黒色砂質土層（鋳砂での盛土）
6　橙茶褐色土層（戦後の火災？ないしは
戦災復興層⑫層の再堆積）炭・焼土多混
7　黄灰色粘質土（整地土）
8　橙茶褐色土層3 炭・焼土多混（火災ないしは⑥層の再堆積）
9　黄灰砂質土層
10　暗灰褐色土層 炭粒少量混
11　橙茶褐色土層4 炭 焼土多混（戦災復興層）
12　橙茶褐色土層5 炭 焼土多混（戦災復興層）
13　暗茶褐色土層 炭粒混
14　黄灰色粘質土ブロック
15　黄灰白色砂層ブロック
16　黒灰色土層 炭・有機物混
17　黄灰色土層
18　暗褐色土層 炭・有機物混
19　明茶褐色土層 炭粒少混
20　茶褐色土層 炭粒混 焼土粒混
21　茶褐色土層 黄灰色土ブロック少混 混ハサイ貝少混
22　黄灰色土層 茶褐色土ブロック少
23　暗黄灰色土層 茶褐色土ブロック少混 有機物・炭少混
24　灰褐色土層 炭多混 有機物多混

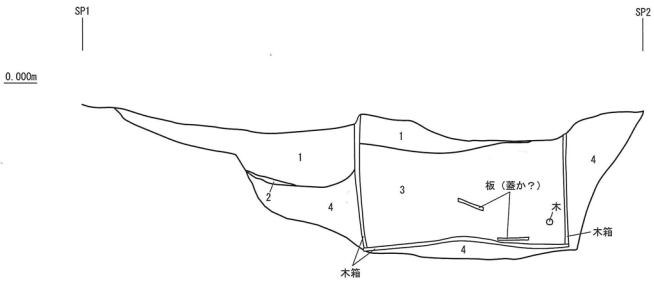
0　1：50　2m

調査区西壁断面図（1/50）



1. 空洞
2. 暗灰褐色土層
3. 灰色土層 炭少混
4. 明灰色土層 木片遺物多混、破砕貝少混

Ⅰ面土坑1断面図（1/20）

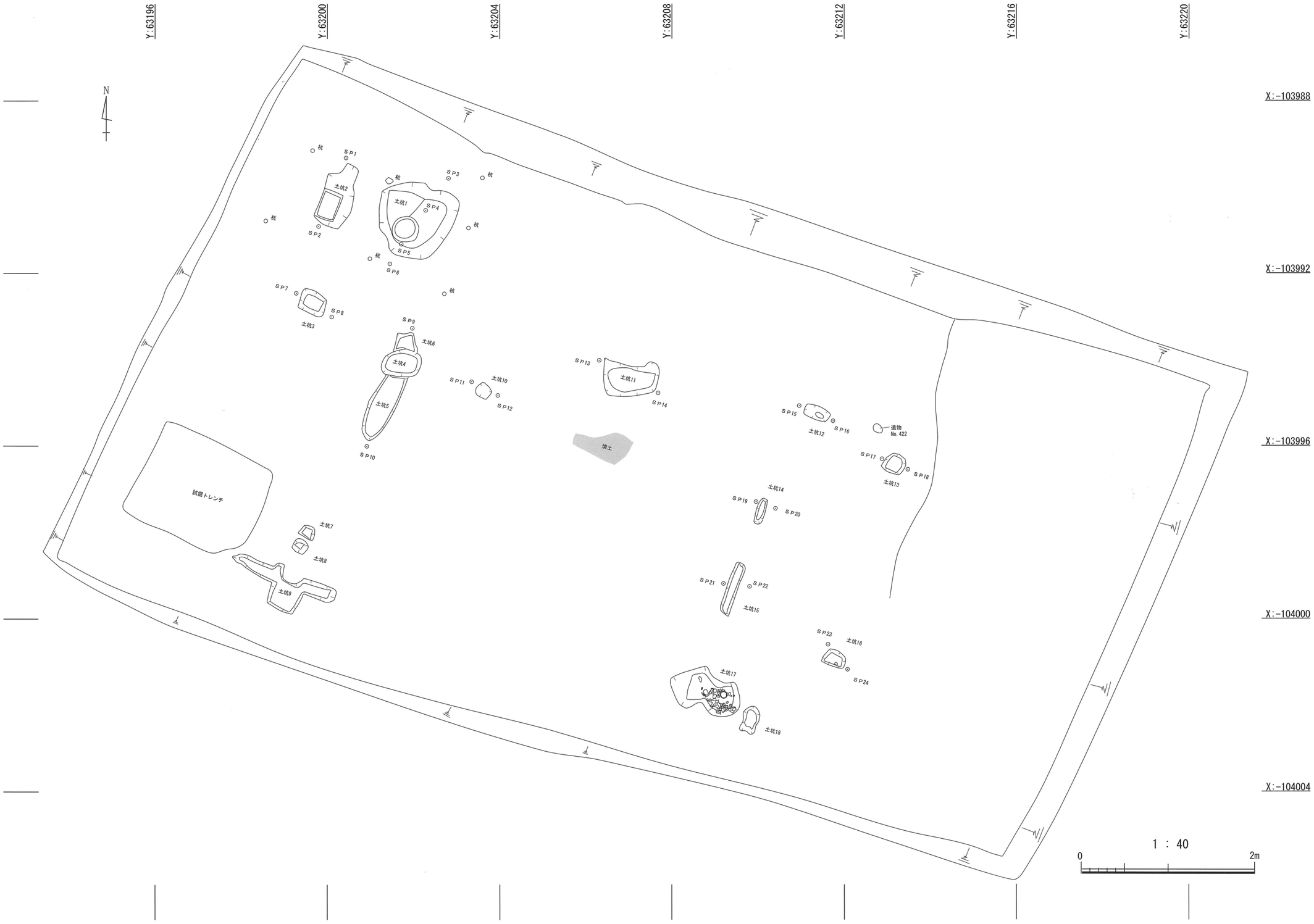


1. 戦災ガラ
2. 暗褐色土層 有機質
3. 灰褐色土層 破砕貝（2枚貝）少・炭少混
4. 黄灰色砂質土層

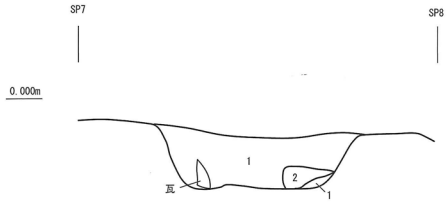
Ⅰ面土坑2断面図（1/20）

0　1：20　1m

図版4 調査区西壁断面図、Ⅰ面断面図

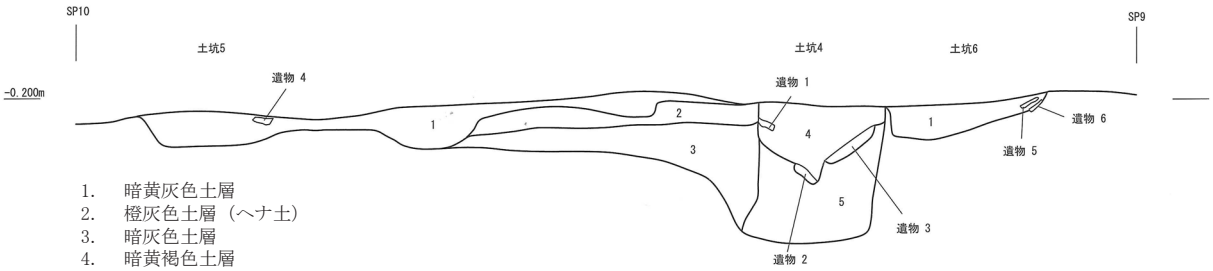


図版5　Ⅰ面平面図（1:40）



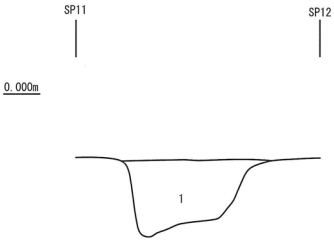
1. 黒褐色土層（炭・黒灰・焼土大量含）被熱はしていない。
2. 黄灰色土層

土坑3断面図（1/20）



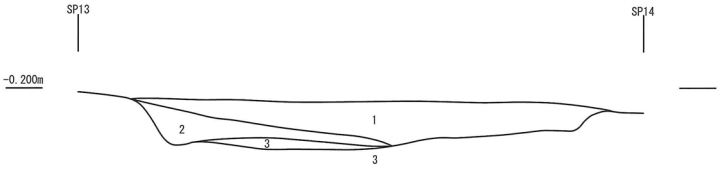
1. 暗黄灰色土層
2. 橙灰色土層（ヘナ土）
3. 暗灰色土層
4. 暗黄褐色土層
5. 黒褐色土層

土坑4・5・6断面図（1/20）



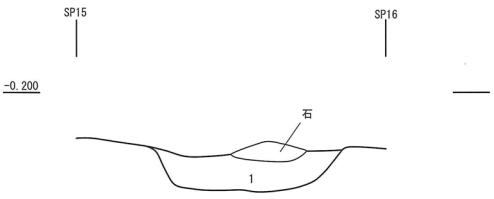
1. 褐色土層 焼土・炭混

土坑10断面図（1/20）



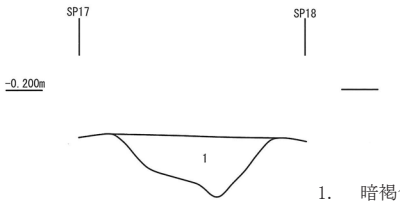
1. 明灰褐色土層 焼土・炭混
2. 黄灰砂質土層
3. 褐色土層 破砕貝少混（Ⅱ面包含層）

土坑11断面図（1/20）



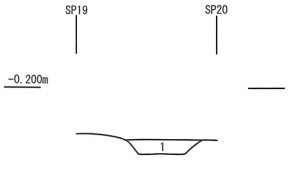
1. 暗灰褐色土層 炭・破砕貝少混

土坑12断面図（1/20）



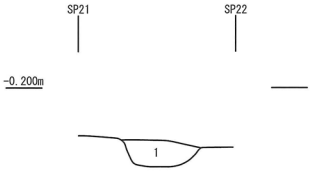
1. 暗褐色土層 炭混

土坑13断面図（1/20）



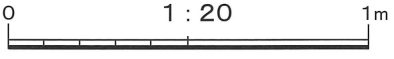
1. 灰褐色土層 破砕貝混

土坑14断面図（1/20）

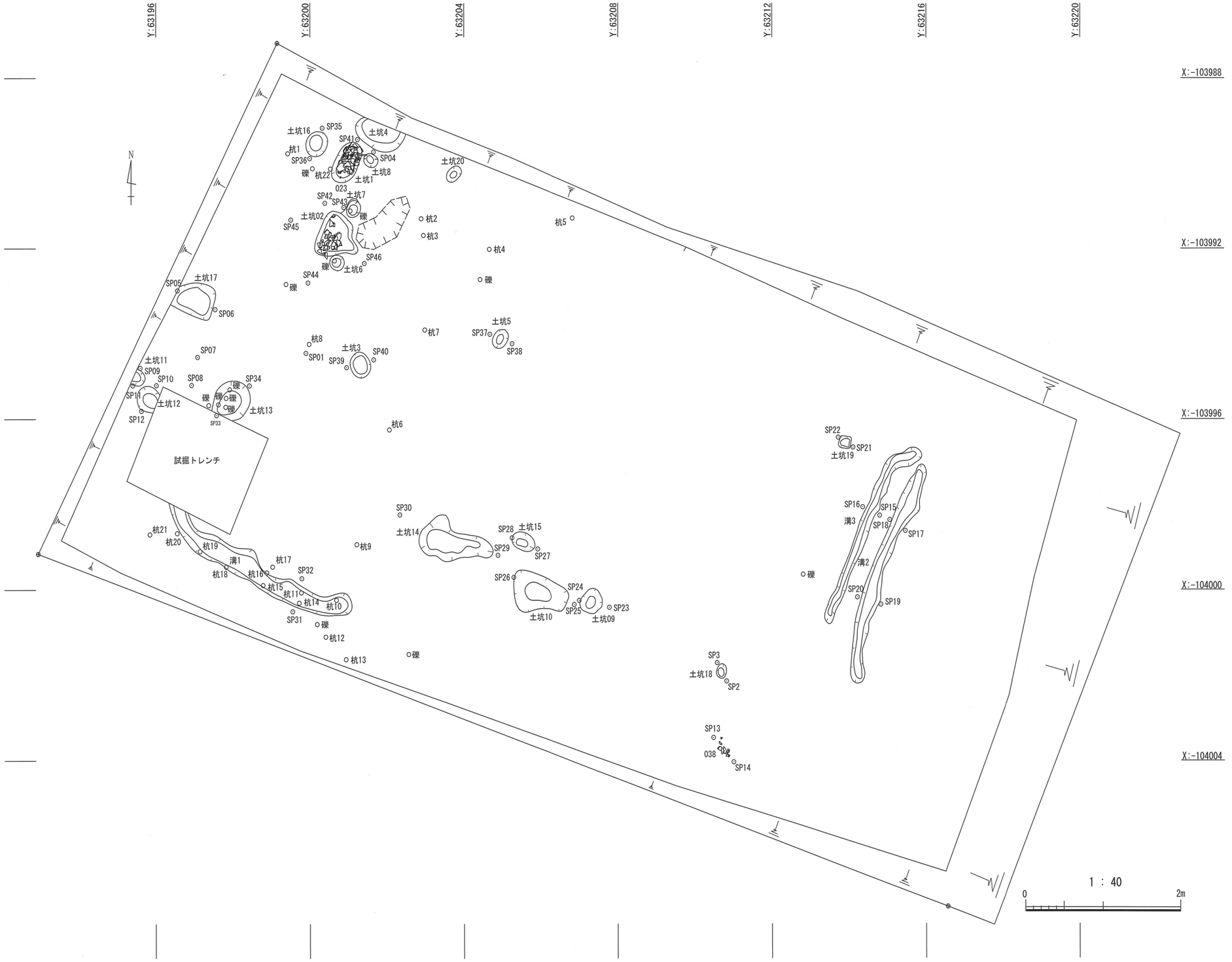


1. 灰褐色土層 破砕貝混

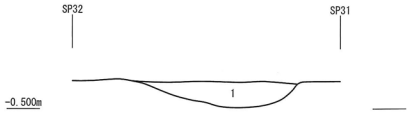
土坑15断面図（1/20）



図版6 Ⅰ面断面図

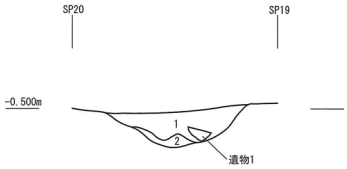


図版7　Ⅱ面平面図（1:40）



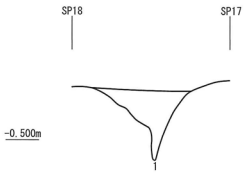
1.　暗灰色粘質土層

溝1断面図（1/20）



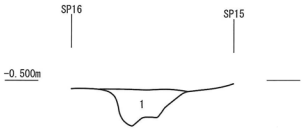
1.　暗灰色粘質土層
2.　暗黄褐色土層

溝2断面図（1/20）



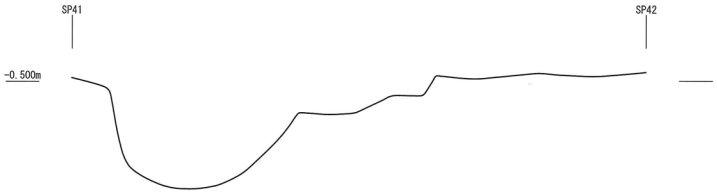
1.　暗灰色粘質土層

溝2断面図（1/20）

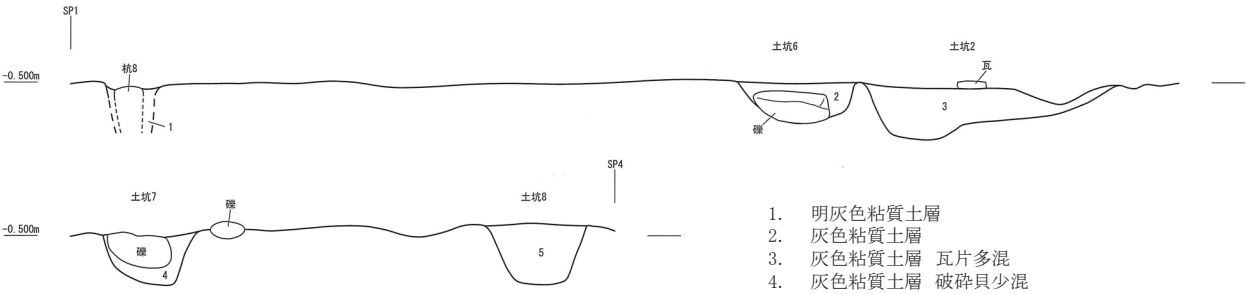


1.　暗黄褐色土層

溝3断面図（1/20）

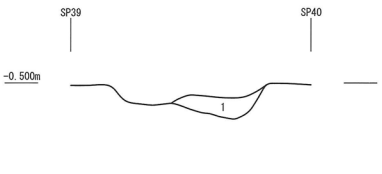


土坑1断面図（1/20）



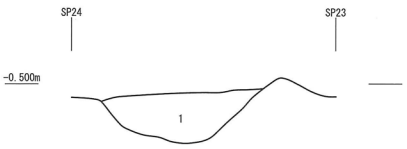
1.　明灰色粘質土層
2.　灰色粘質土層
3.　灰色粘質土層　瓦片多混
4.　灰色粘質土層　破砕貝少混
5.　灰色粘土層

土坑2・6・7・8、杭8断面図（1/20）



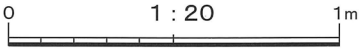
1.　赤褐色砂質土層

土坑3断面図（1/20）

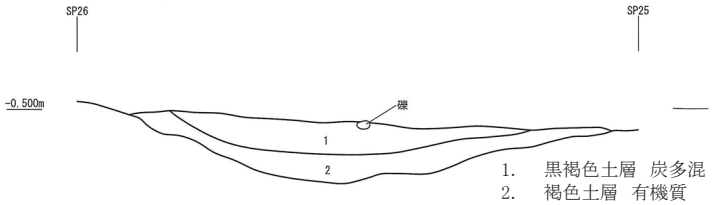


1.　灰褐色土層　炭多混

土坑9断面図（1/20）

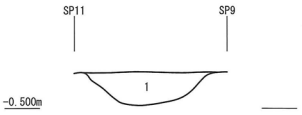


図版8　Ⅱ面断面図



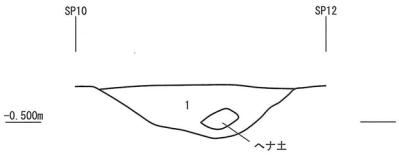
1. 黒褐色土層 炭多混
2. 褐色土層 有機質

土坑10断面図（1/20）



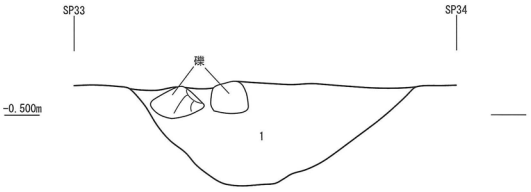
1. 灰褐色土層 やや粘質 炭粒少混

土坑11断面図（1/20）



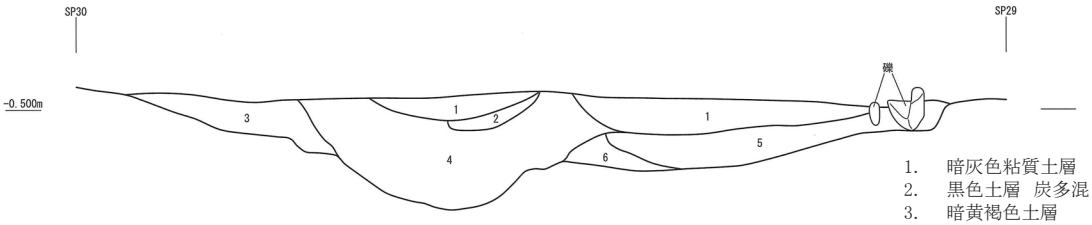
1. 灰褐色土層 炭混

土坑12断面図（1/20）



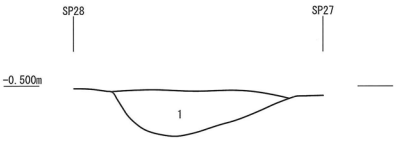
1. 灰褐色砂質土層 やや粘質 貝（ハマグリ・完形）・炭少混

土坑13断面図（1/20）



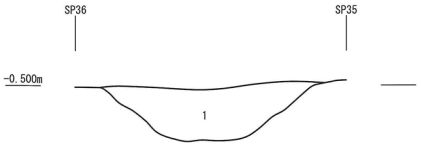
1. 暗灰色粘質土層
2. 黒色土層 炭多混
3. 暗黄褐色土層
4. 黄褐色土層
5. 暗灰褐色土層
6. 暗黄褐色土層 炭混

土坑14断面図（1/20）



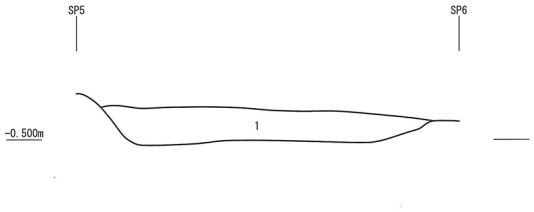
1. 灰褐色土層 やや粘質

土坑15断面図（1/20）



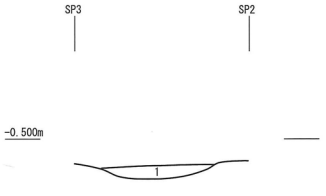
1. 茶灰色砂質土層 炭粒多混

土坑16断面図（1/20）



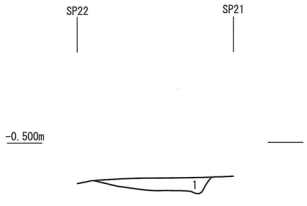
1. 茶灰色砂質土層 炭粒混

土坑17断面図（1/20）



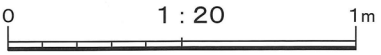
1. 灰褐色土層 炭多混

土坑18断面図（1/20）

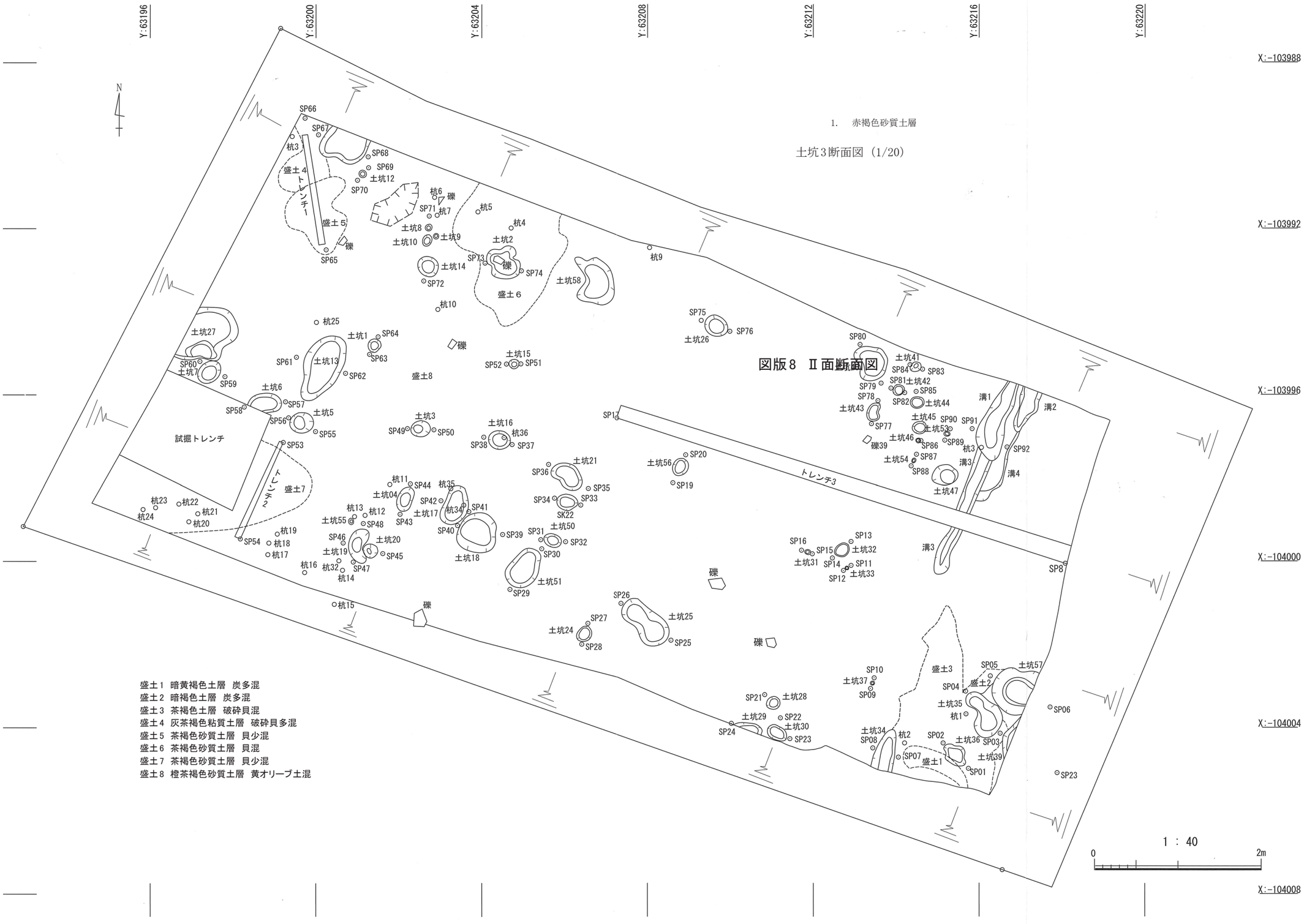


1. 破砕貝層 暗灰色土混

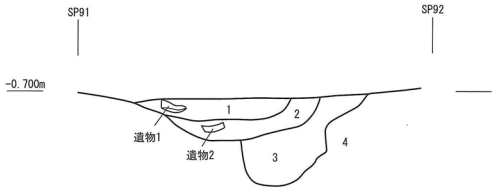
土坑19断面図（1/20）



図版9 Ⅱ面断面図

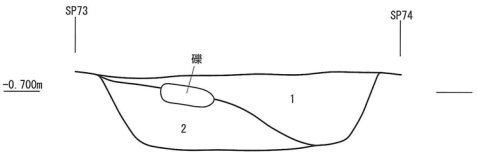


図版10 Ⅲ面平面図（1:40）



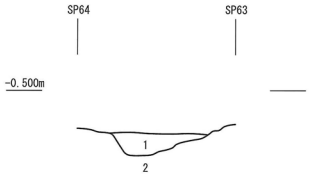
1. 暗灰褐色砂質土層（溝1埋土）
2. 茶褐色砂質土層（溝1埋土）
3. 黄褐色砂質土層（溝4埋土）
4. 橙茶褐色砂質土層 黄オリーブ土混

溝1・4断面図（1/20）



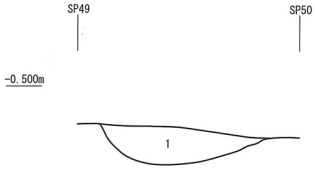
1. 暗灰褐色土層やや粘質 炭多・焼土粒・破砕貝微量混
2. 暗茶褐色土層 炭粒混

土坑2断面図（1/20）



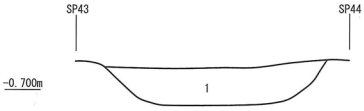
1. 暗灰褐色砂質土層 木片・炭粒混
2. 橙オリーブ色砂質土層

土坑1断面図（1/20）



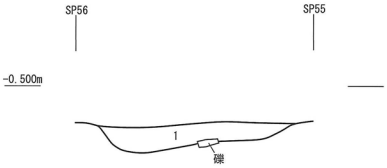
1. 暗灰褐色砂質土層

土坑3断面図（1/20）



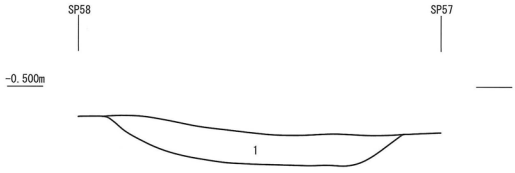
1. 暗灰褐色砂質土層

土坑4断面図（1/20）



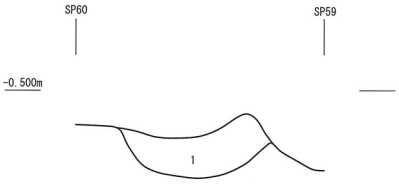
1. 暗灰褐色砂質土層

土坑5断面図（1/20）



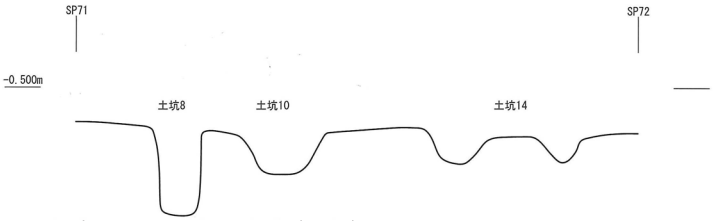
1. 暗茶褐色土層 炭粒・破砕貝少混

土坑6断面図（1/20）

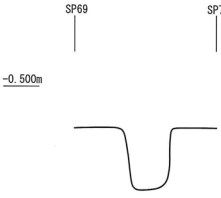


1. 暗橙褐色土層 炭粒・焼土混

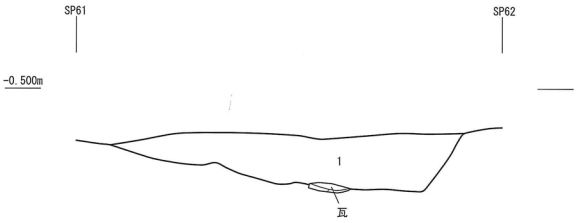
土坑7断面図（1/20）



土坑8・10・14断面図（1/20）

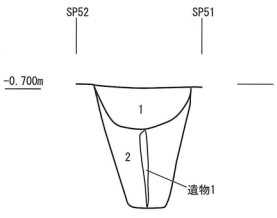


土坑12断面図（1/20）



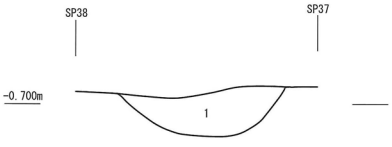
1. 茶褐色砂質土層 破砕貝多混

土坑13断面図（1/20）



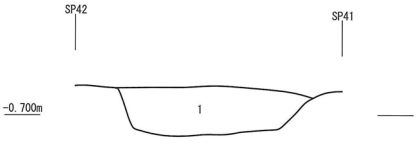
1. 暗灰褐色砂質土層
2. 暗茶褐色土層 炭粒混

土坑15断面図（1/20）



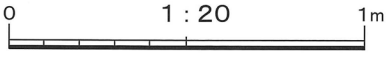
1. 暗灰褐色砂質土層

土坑16断面図（1/20）

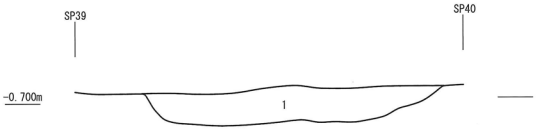


1. 暗灰褐色土層 炭多・破砕貝少混

土坑17断面図（1/20）



図版11 Ⅲ面断面図

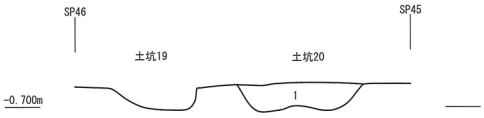


1.　暗灰褐色土層やや粘質　炭多・破砕貝少・魚骨混

土坑18断面図（1/20）

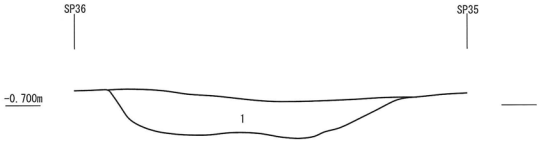
1.　暗茶褐色砂質土層　炭・破砕貝少混

土坑19断面図（1/20）



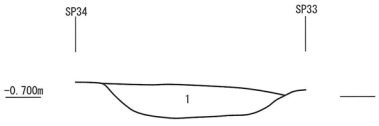
1.　暗茶褐色砂質土層　炭・破砕貝少混

土坑19･20断面図（1/20）



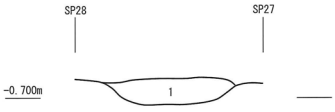
1.　暗灰褐色砂質土層

土坑21断面図（1/20）



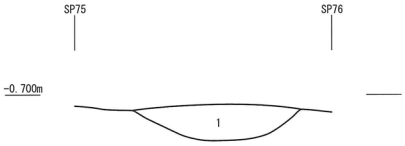
1.　暗灰褐色砂質土層

土坑22断面図（1/20）



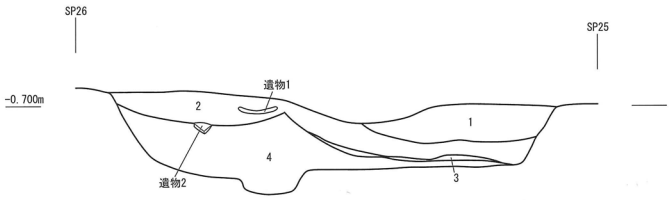
1.　暗灰褐色砂質土層

土坑24断面図（1/20）



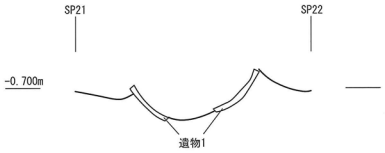
1.　暗茶褐色砂質土層　破砕貝（カキ）多混

土坑26断面図（1/20）

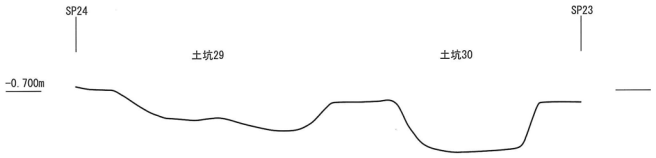


1.　暗灰褐色砂質土層
2.　暗灰褐色粘質土層　炭多・破砕貝少混
3.　炭層
4.　暗青褐色砂質土層　破砕貝多混

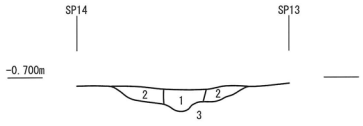
土坑25断面図（1/20）



土坑28断面図（1/20）

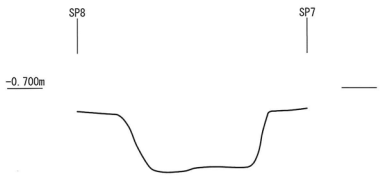


土坑29･30断面図（1/20）

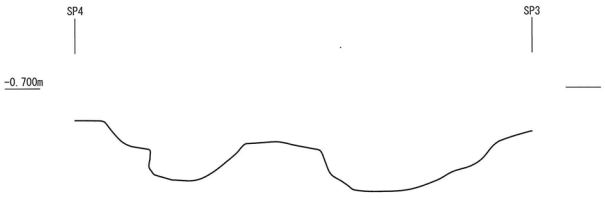


1.　杭跡。灰褐色土層　有機質、炭粒混
2.　茶褐色砂質土層
3.　橙茶褐色砂質土層

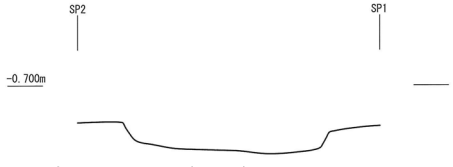
土坑32断面図（1/20）



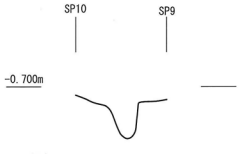
土坑34断面図（1/20）



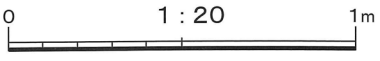
土坑35断面図（1/20）



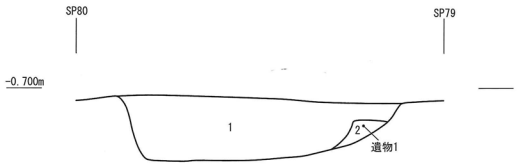
土坑36断面図（1/20）



土坑37断面図（1/20）

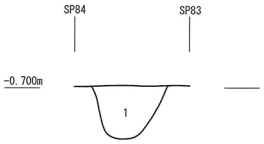


図版12　Ⅲ面断面図



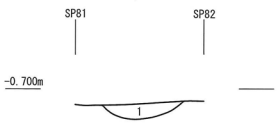
1. 暗茶褐色土層 小破砕貝多・炭粒混
2. 暗茶褐色砂質土層

土坑40断面図（1/20）



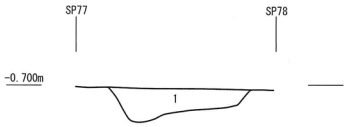
1. 暗灰褐色土層 砂質・有機質

土坑41断面図（1/20）



1. 暗灰褐色土層 砂質・有機質

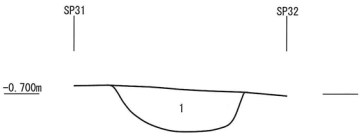
土坑42断面図（1/20）



1. 暗灰褐色土層 砂質

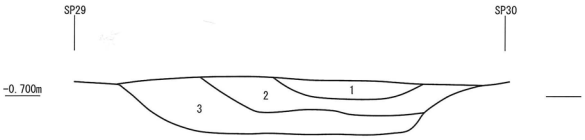
土坑43断面図（1/20）

土坑44・45断面図（1/20）



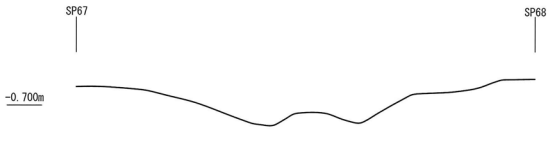
1. 暗茶褐色砂質土層

土坑50断面図（1/20）

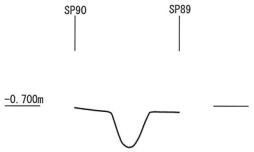


1. 黄褐色粘質土層
2. 暗茶褐色砂質土層 貝・炭少混
3. 暗茶褐色粘質土層 炭少混

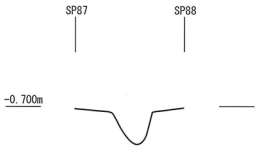
土坑51断面図（1/20）



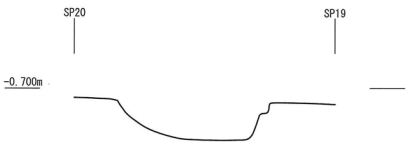
土坑52断面図（1/20）



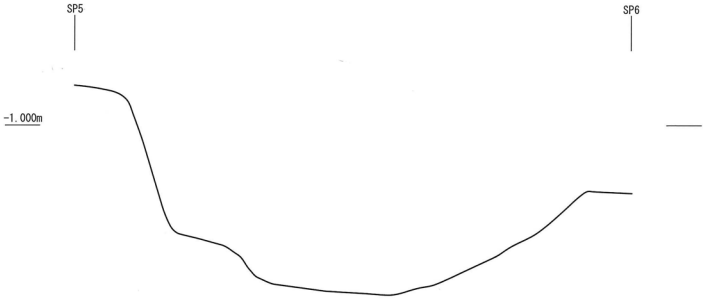
土坑53断面図（1/20）



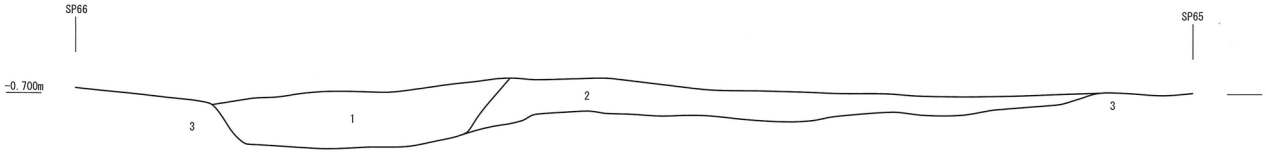
土坑54断面図（1/20）



土坑56断面図（1/20）

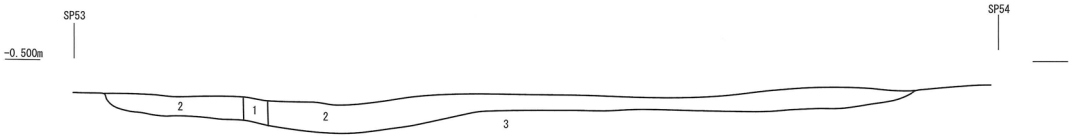


土坑57断面図（1/20）



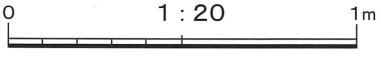
1. 灰茶褐色粘質土層 破砕貝多混
2. 茶褐色砂質土層 貝少混
3. 橙茶褐色砂質土層 黄オリーブ土混

トレンチ1断面図（1/20）

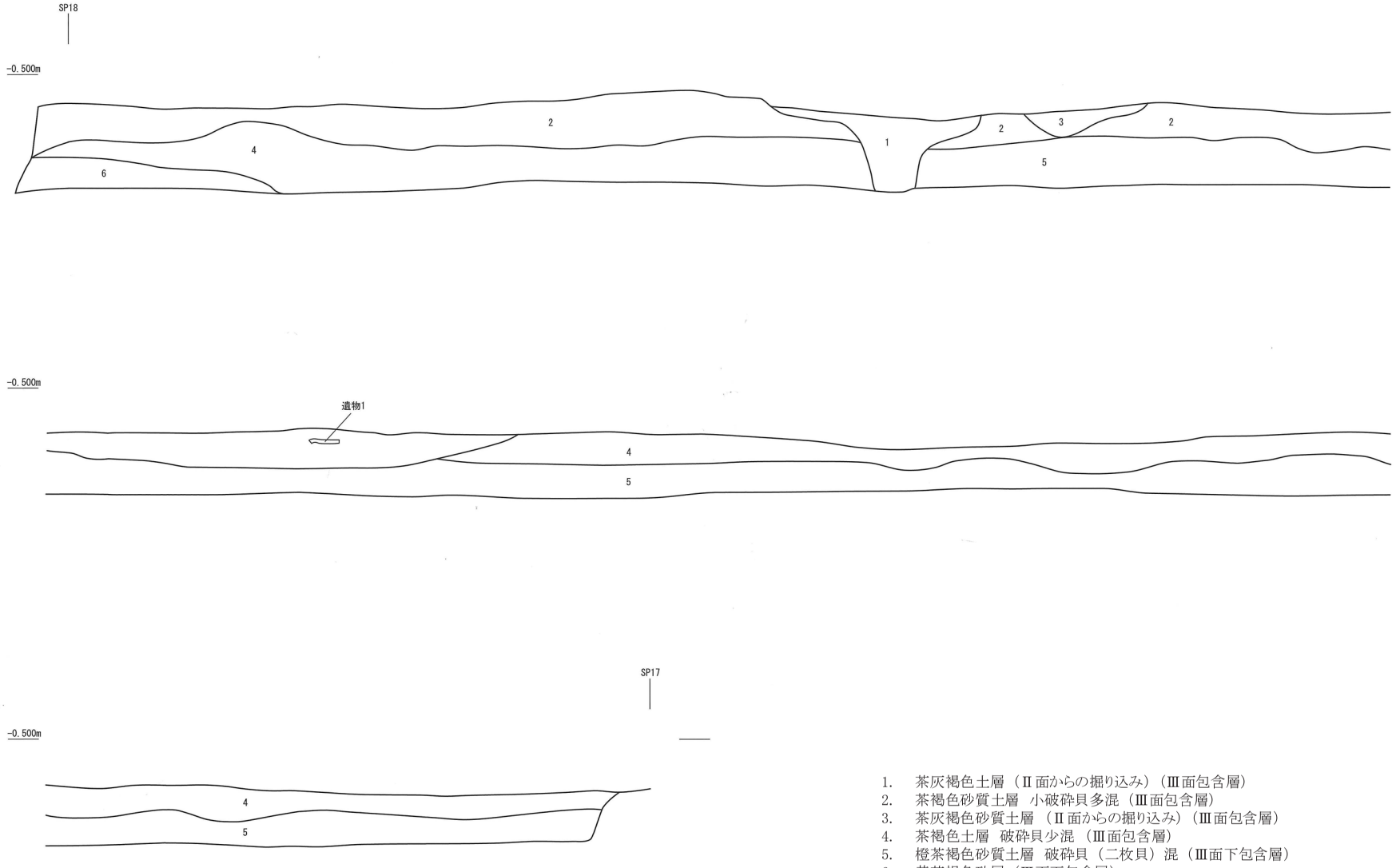


1. 茶褐色砂質土層 貝多混
2. 茶褐色砂質土層 貝少混
3. 橙茶褐色砂質土層 黄オリーブ土混

トレンチ2断面図（1/20）



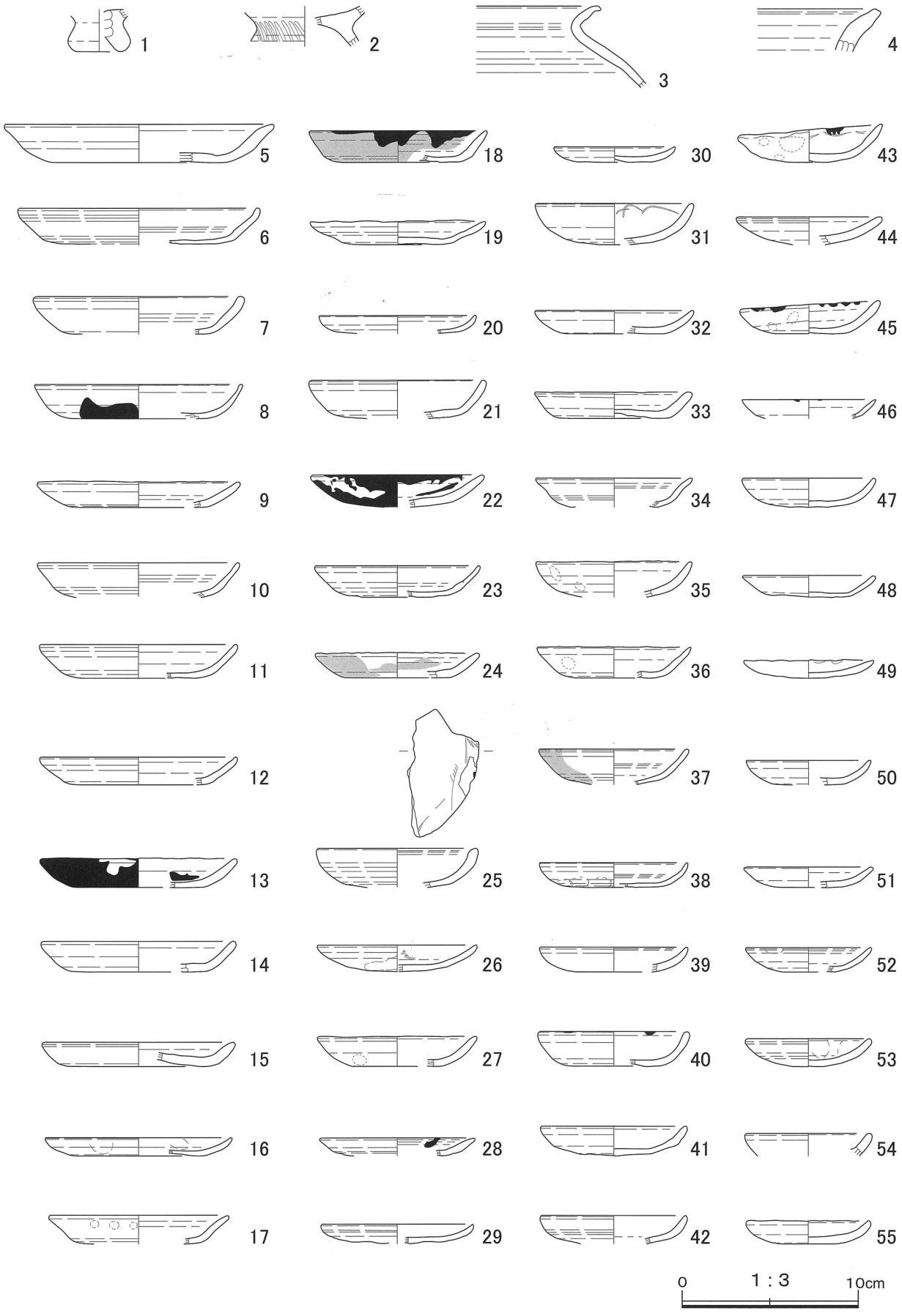
図版13 Ⅲ面断面図



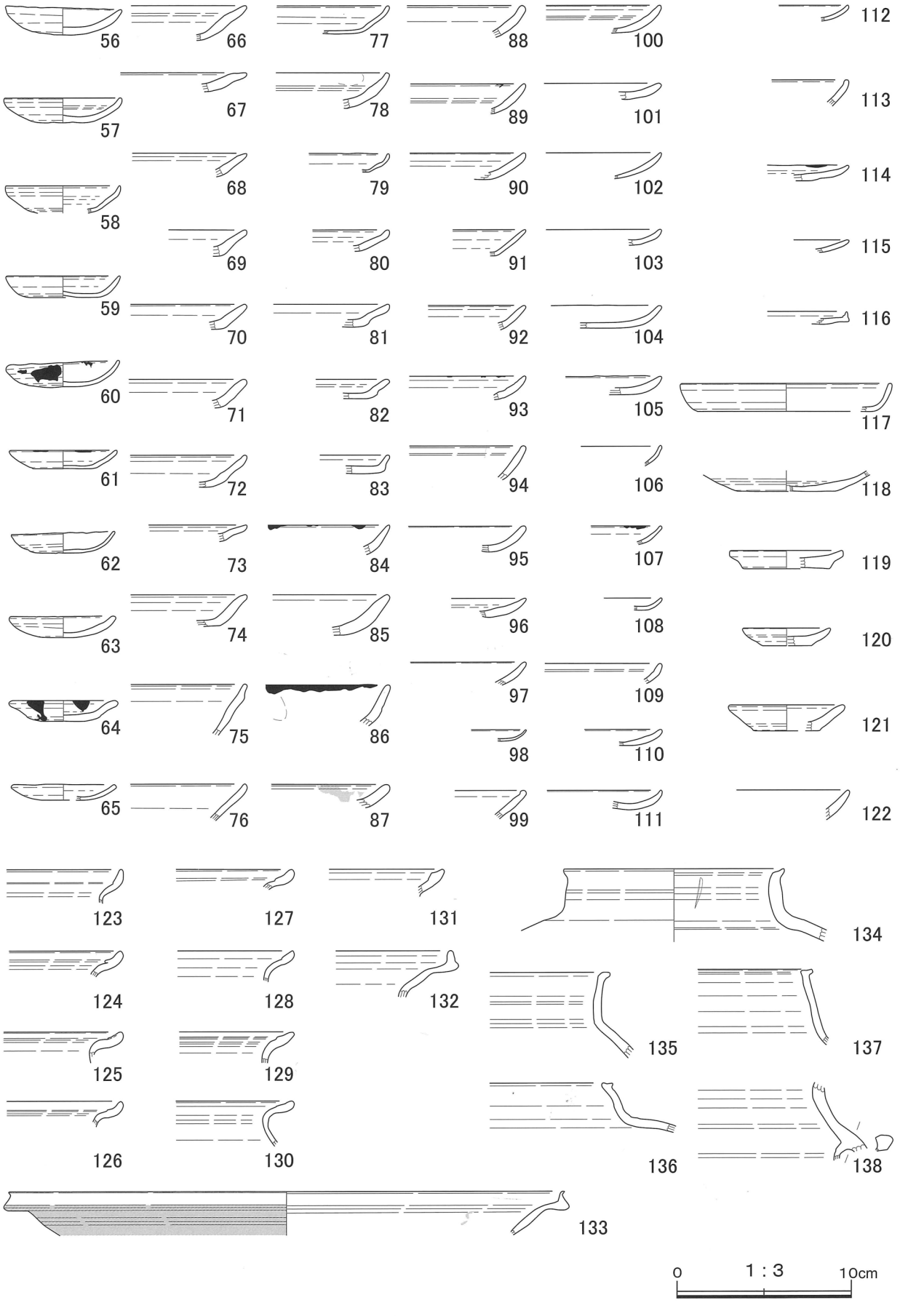
1. 茶灰褐色土層（Ⅱ面からの掘り込み）（Ⅲ面包含層）
2. 茶褐色砂質土層　小破砕貝多混（Ⅲ面包含層）
3. 茶灰褐色砂質土層（Ⅱ面からの掘り込み）（Ⅲ面包含層）
4. 茶褐色土層　破砕貝少混（Ⅲ面包含層）
5. 橙茶褐色砂質土層　破砕貝（二枚貝）混（Ⅲ面下包含層）
6. 黄茶褐色砂層（Ⅲ面下包含層）

0　1：20　1m

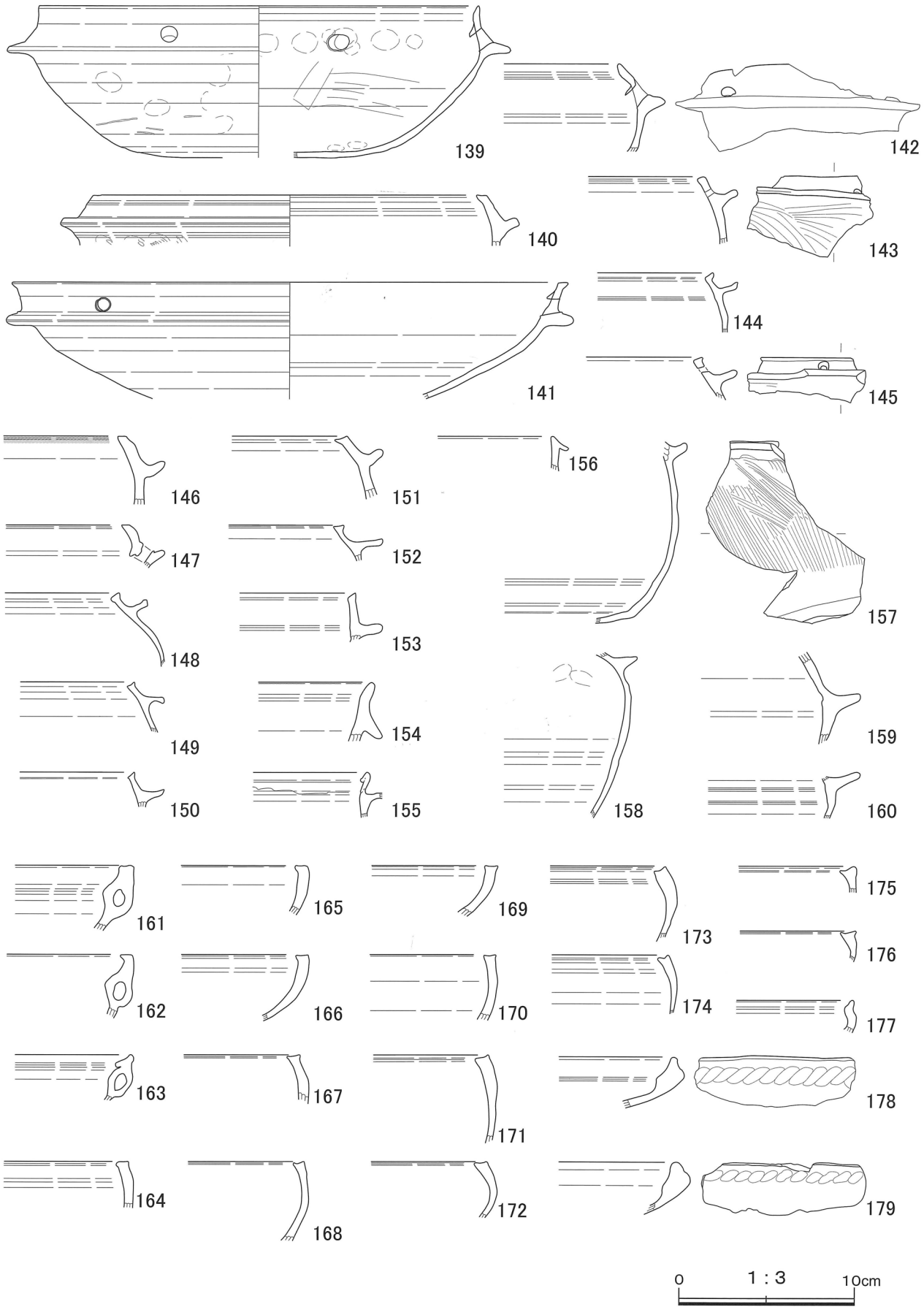
トレンチ3断面図（1/20）



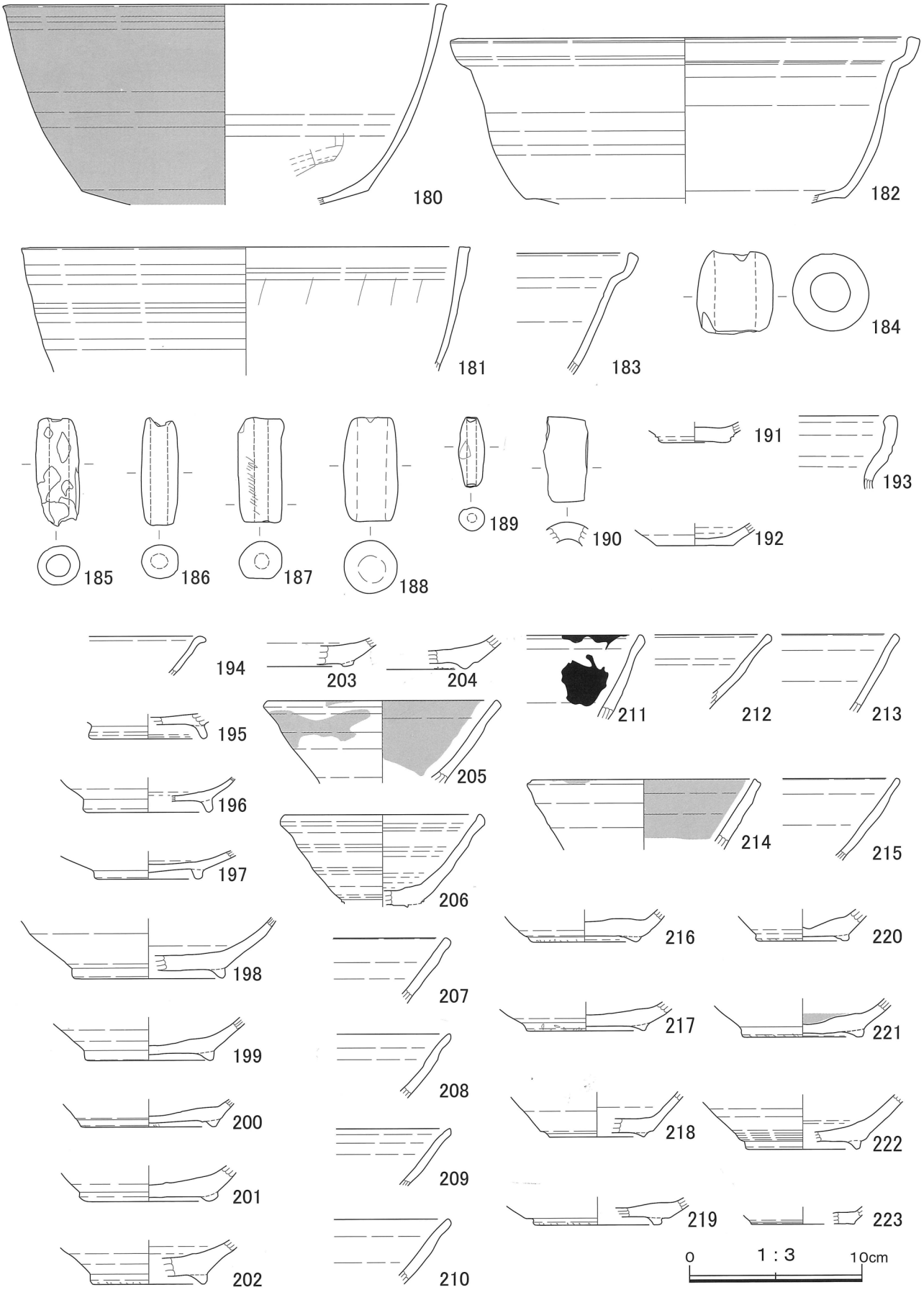
図版15　遺物実測図（1:3）



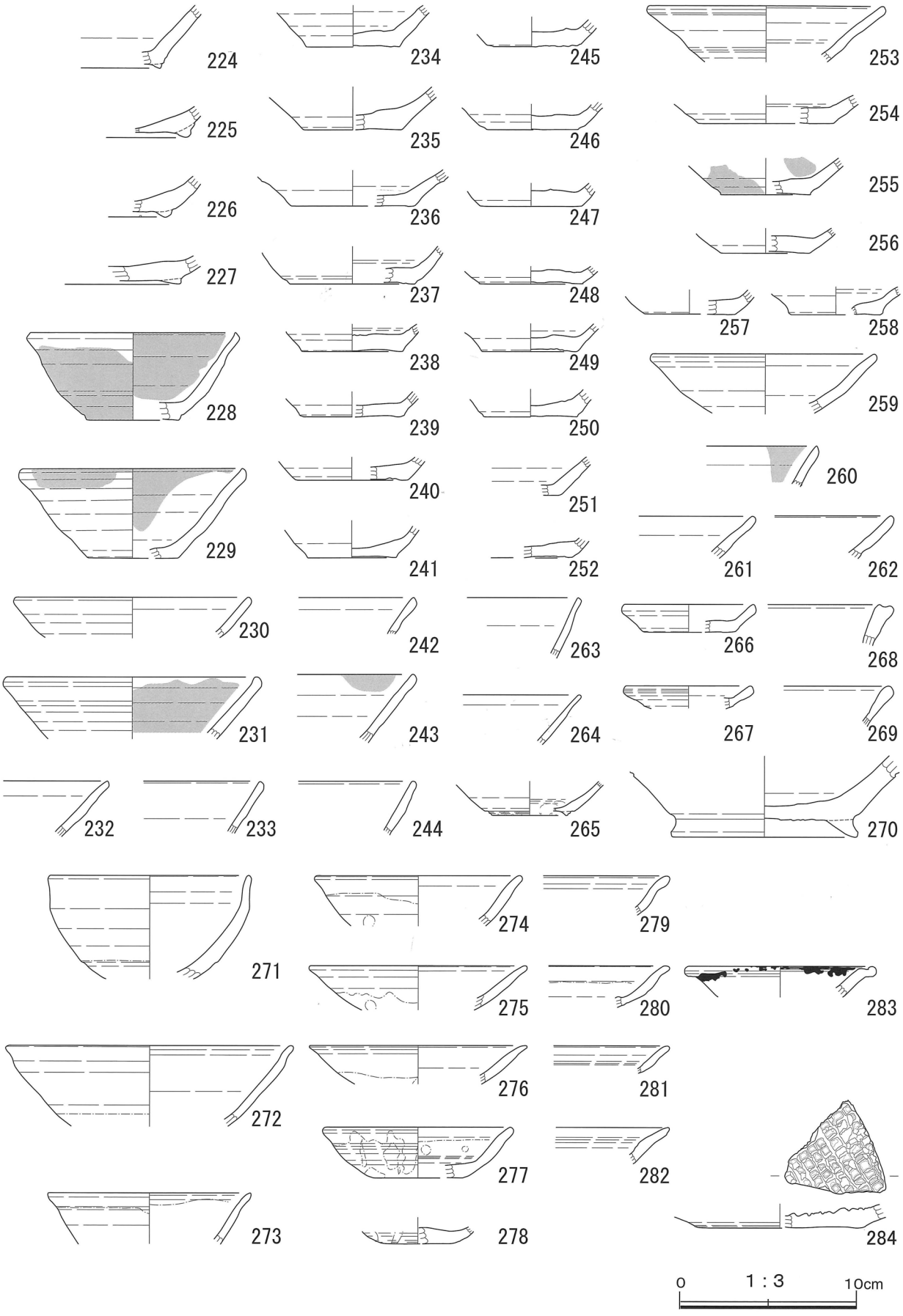
図版16　遺物実測図（1:3）



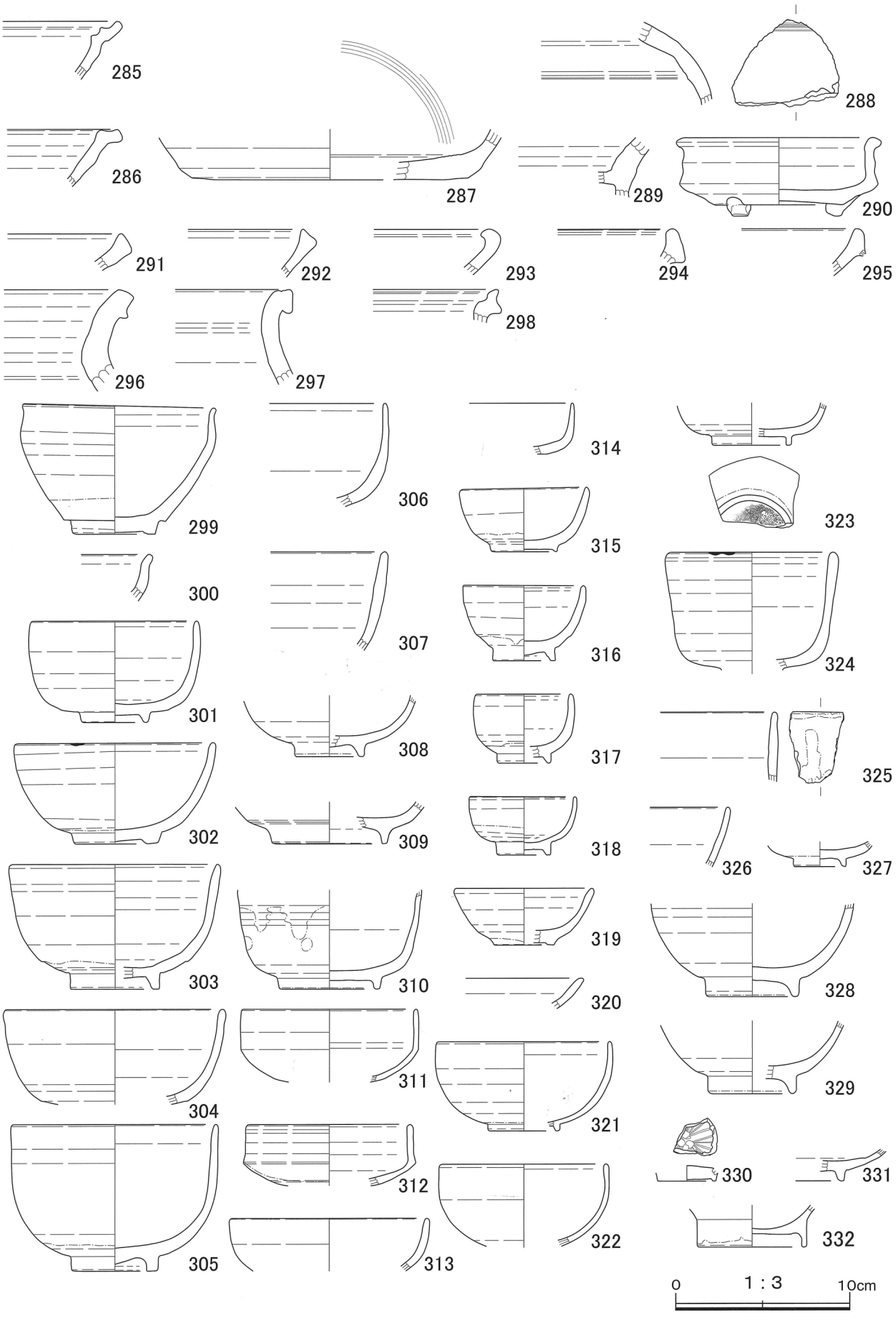
図版17　遺物実測図（1:3）



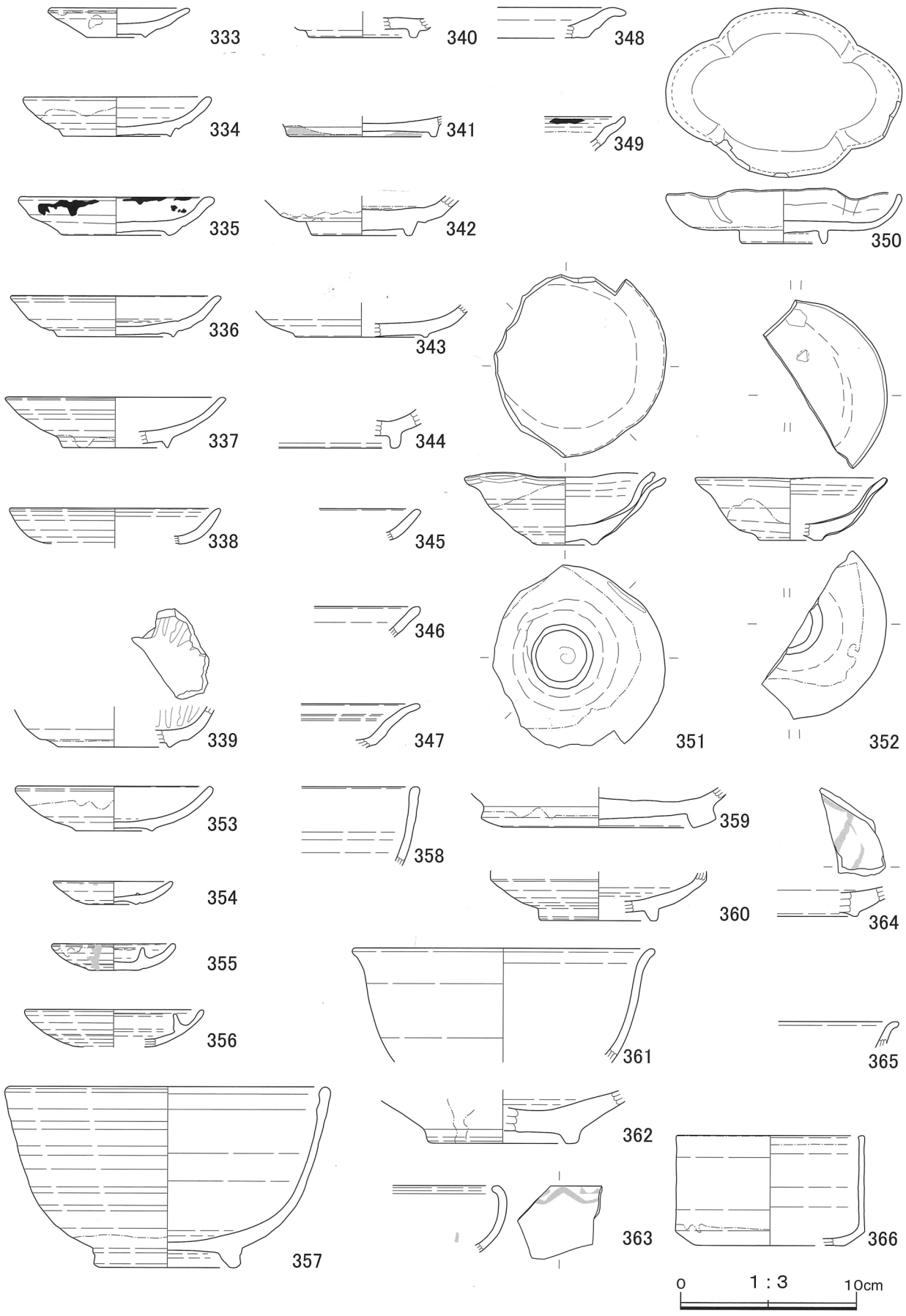
図版18　遺物実測図（1:3）



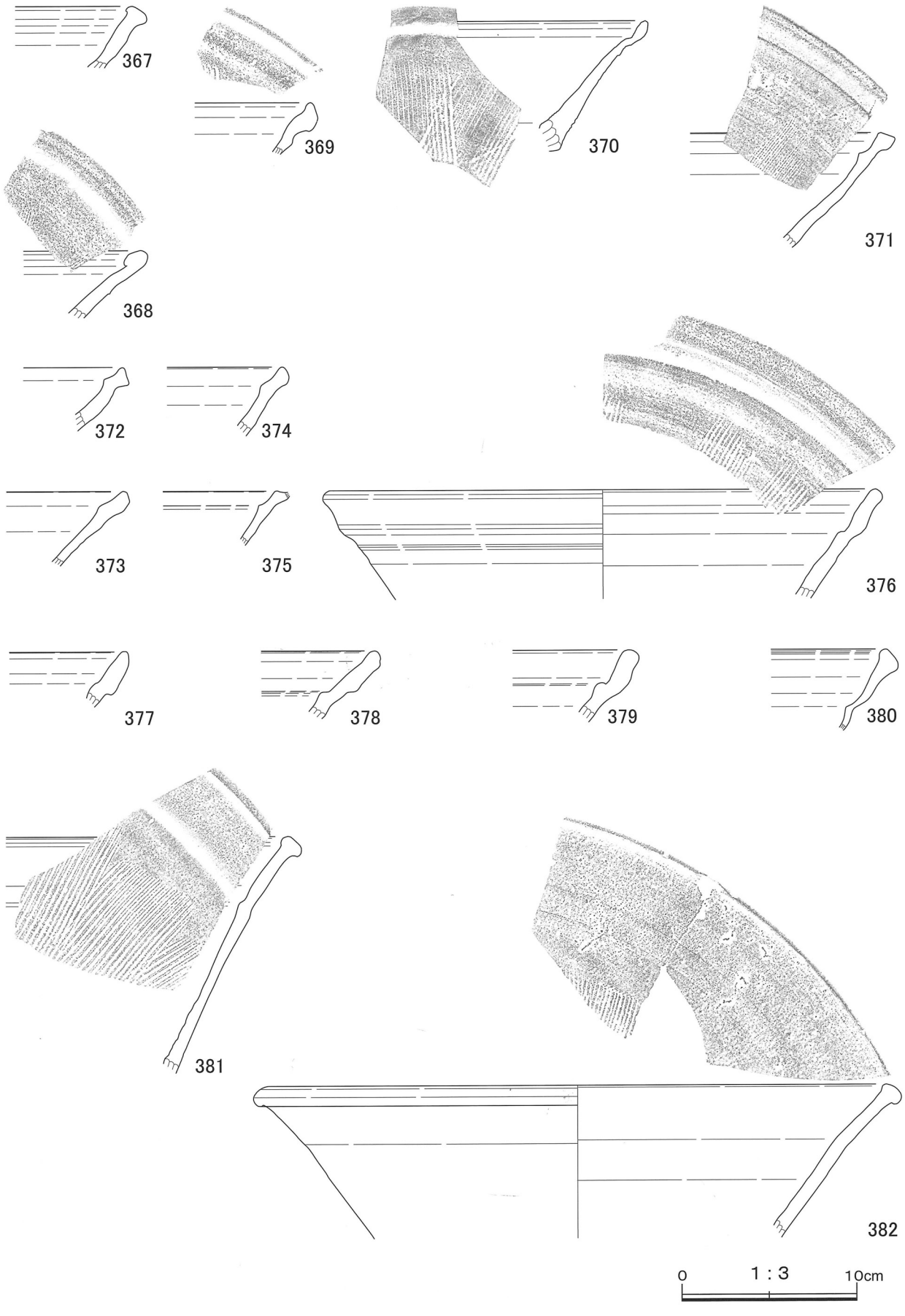
図版19　遺物実測図（1:3）



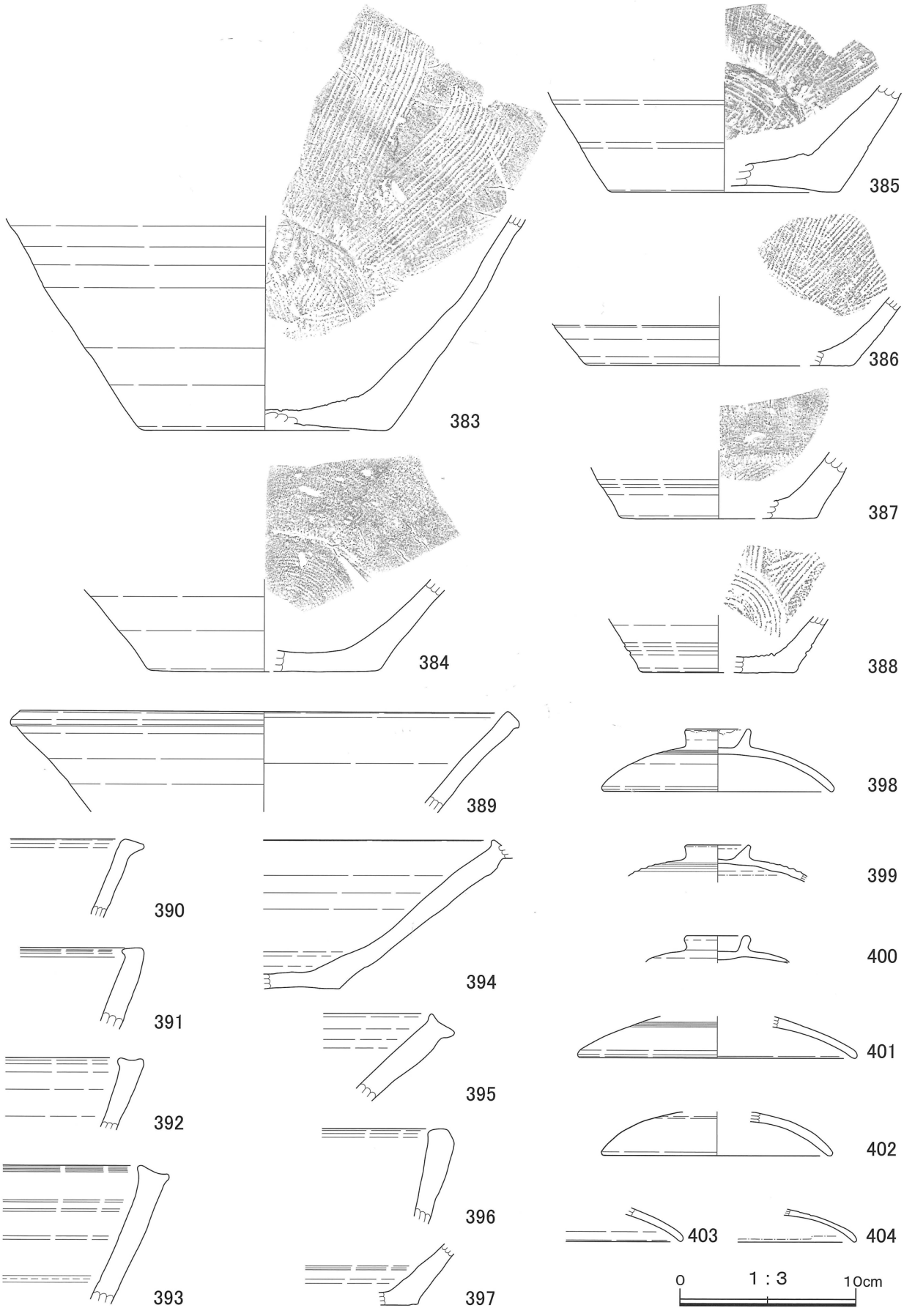
図版20　遺物実測図（1:3）



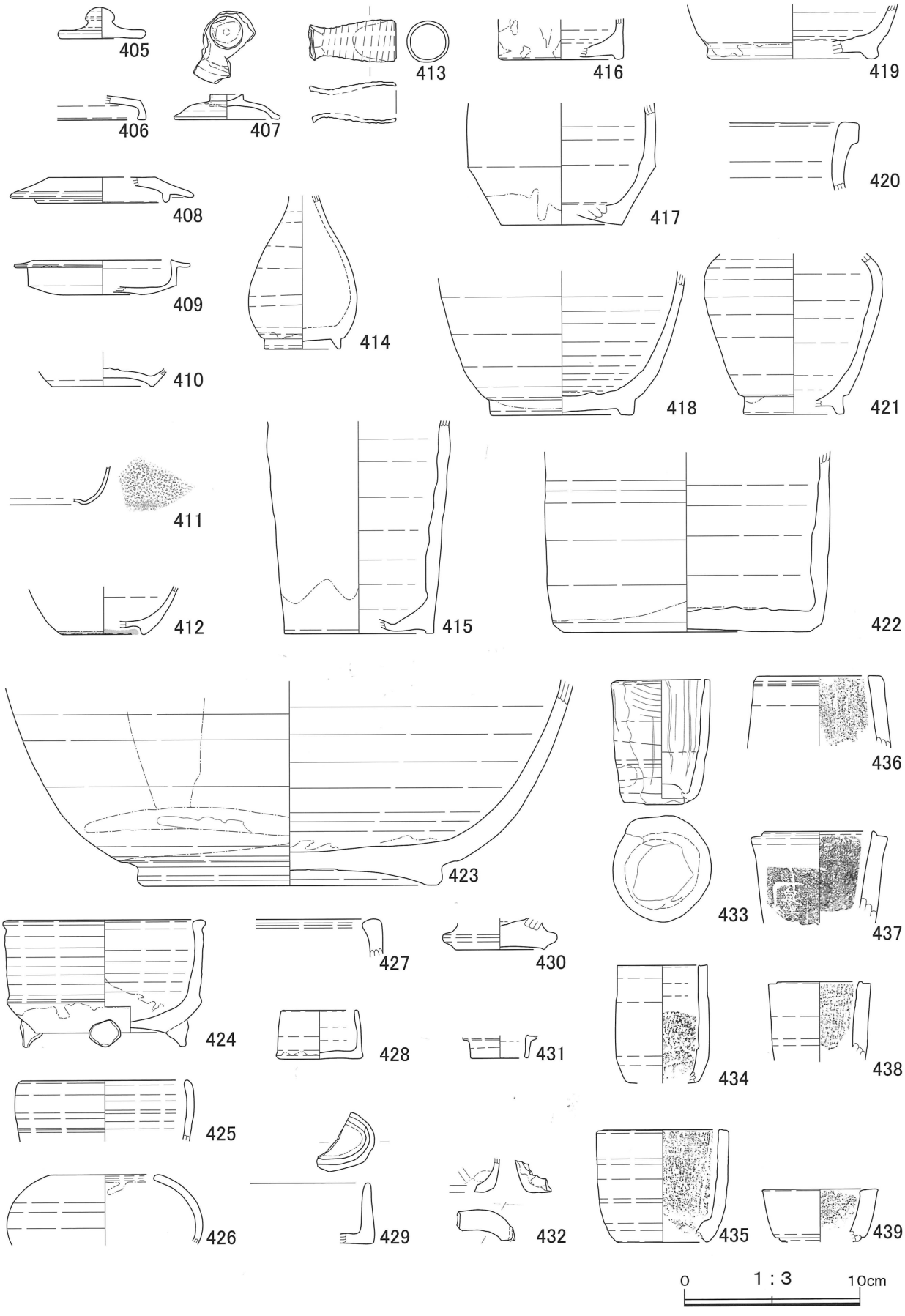
図版21　遺物実測図（1:3）



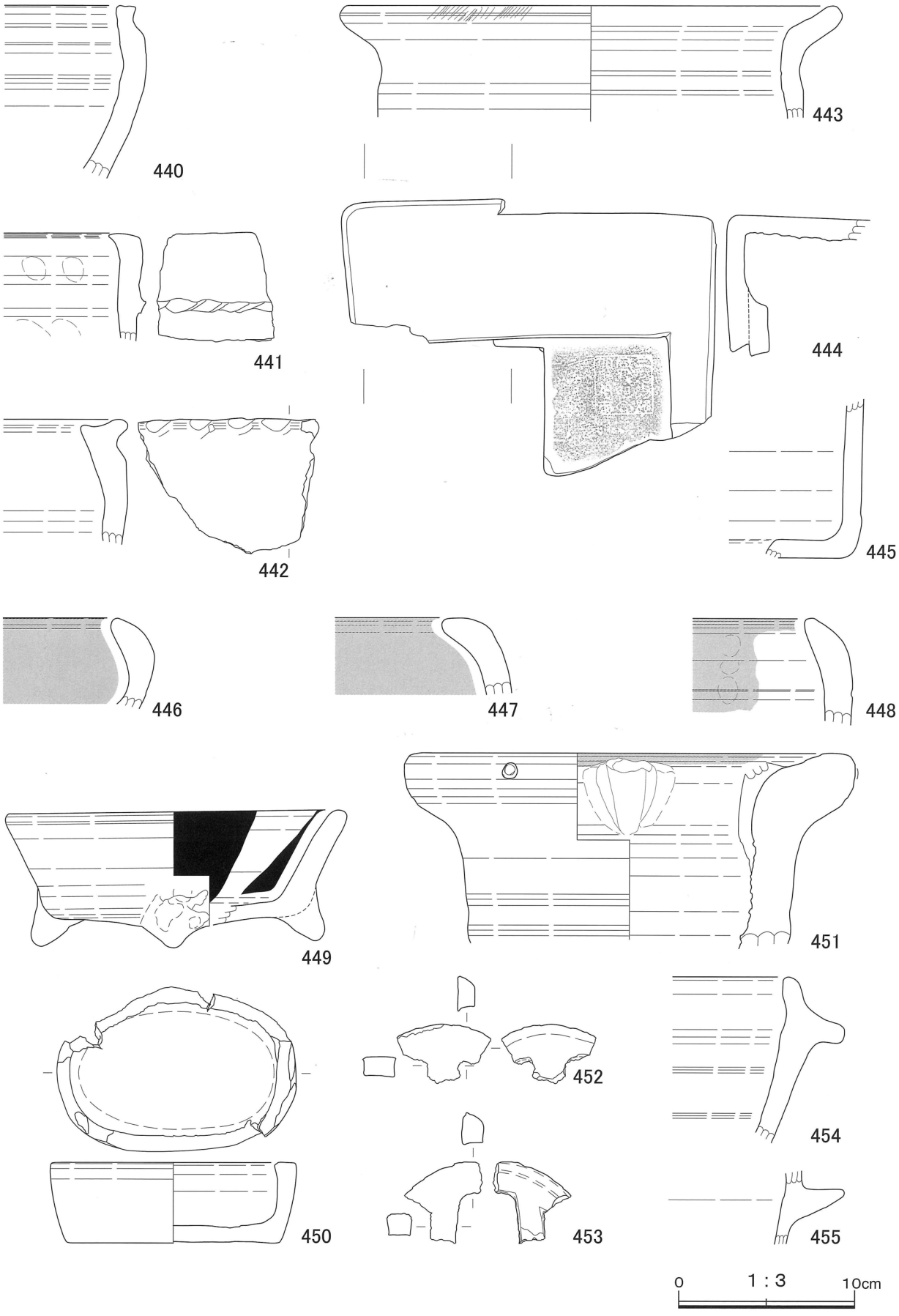
図版22　遺物実測図（1:3）



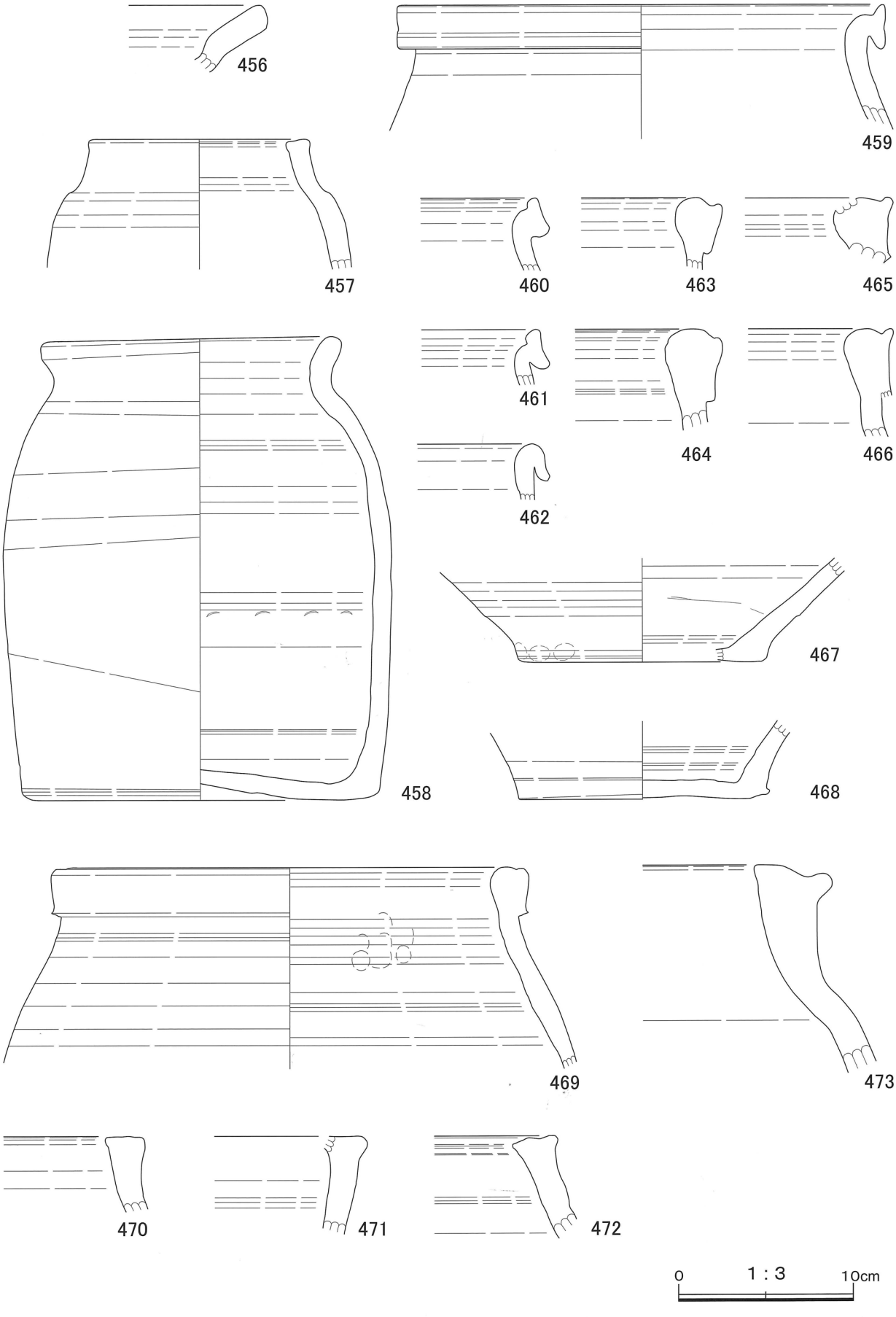
図版23　遺物実測図（1:3）



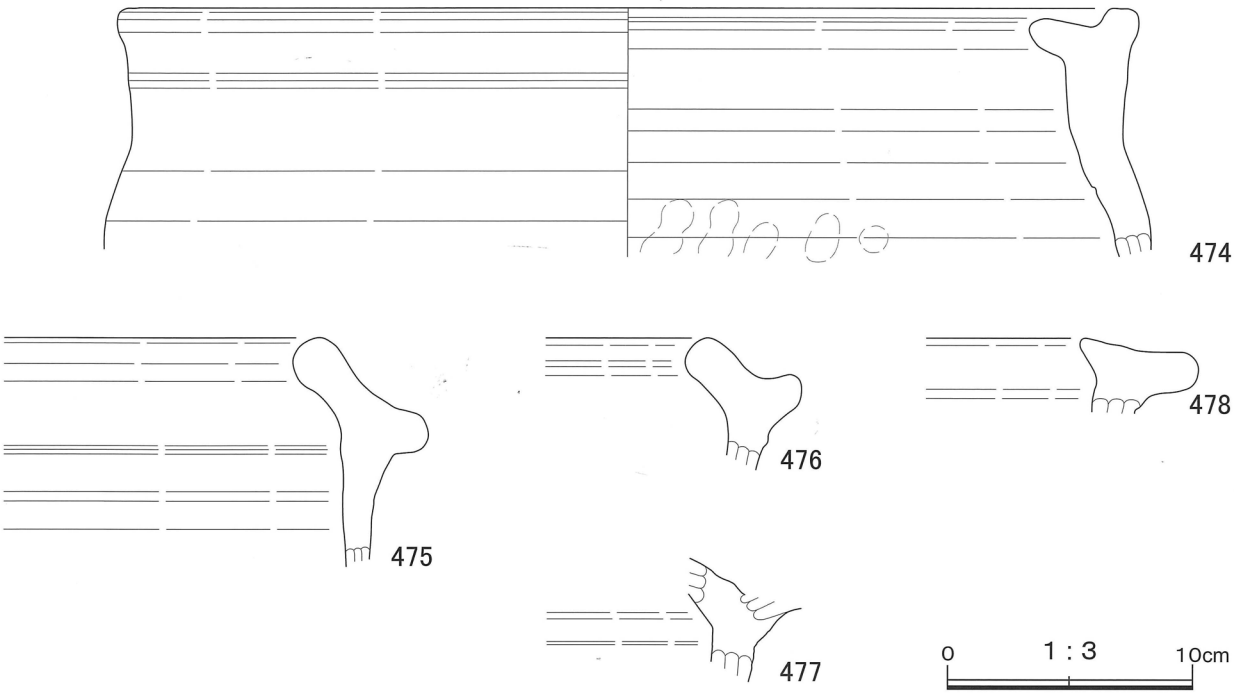
図版24　遺物実測図（1:3）

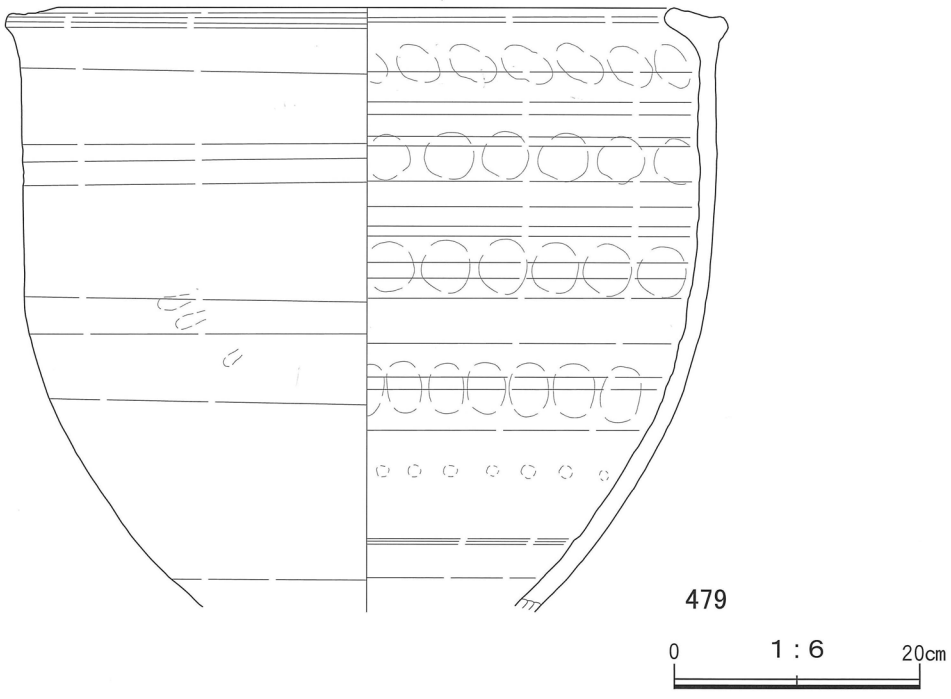


図版25　遺物実測図（1:3）

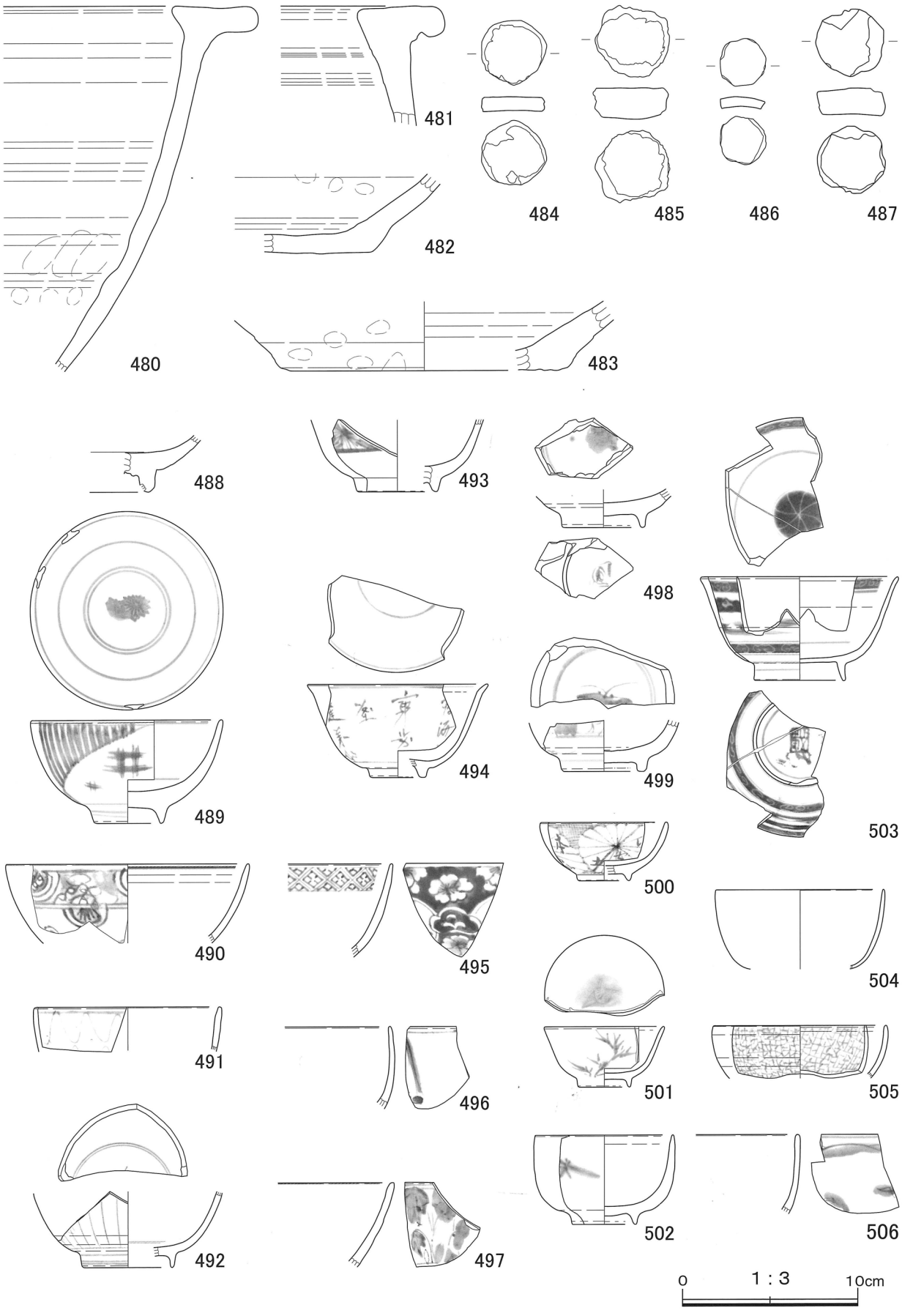


図版26　遺物実測図（1:3）

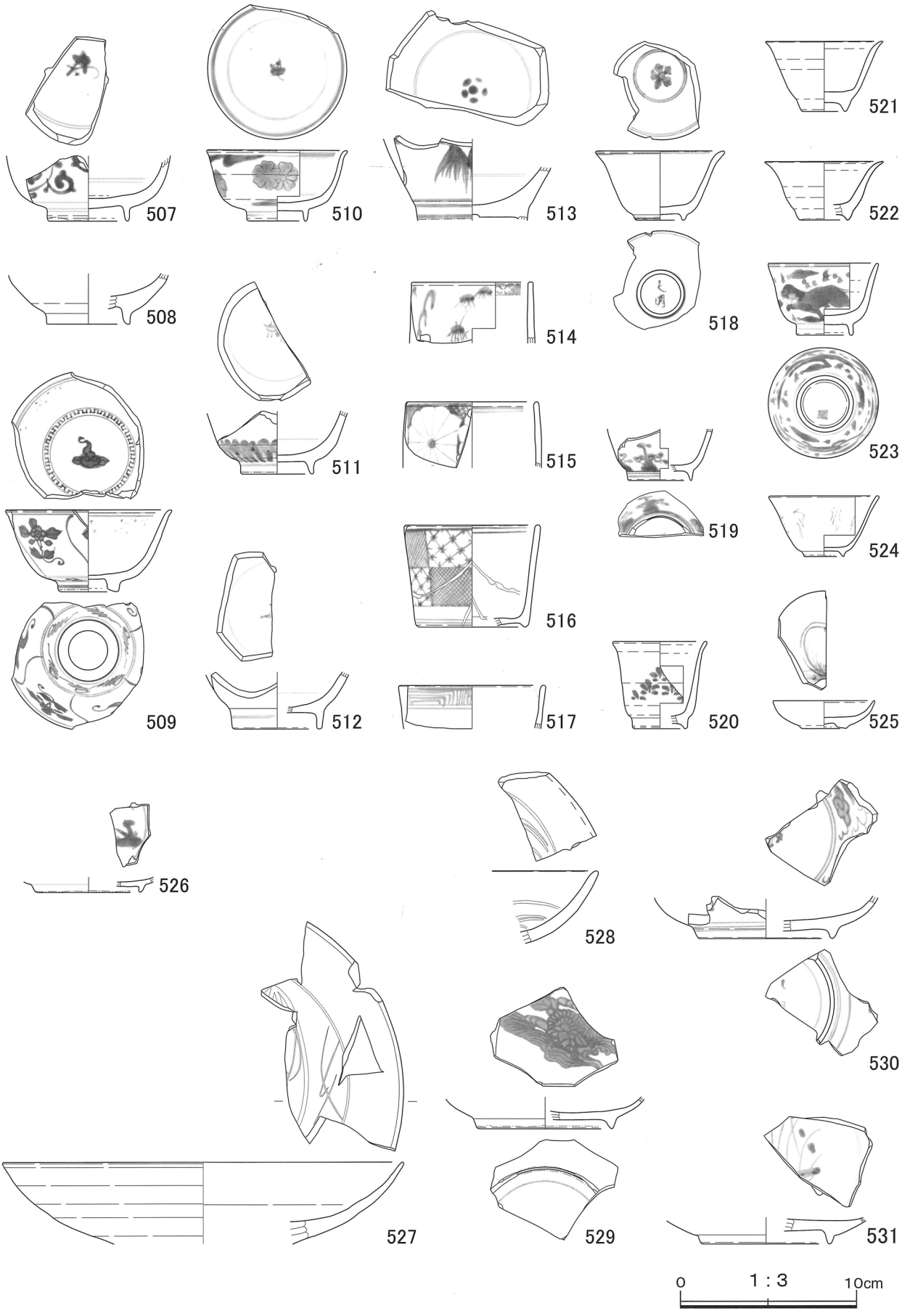




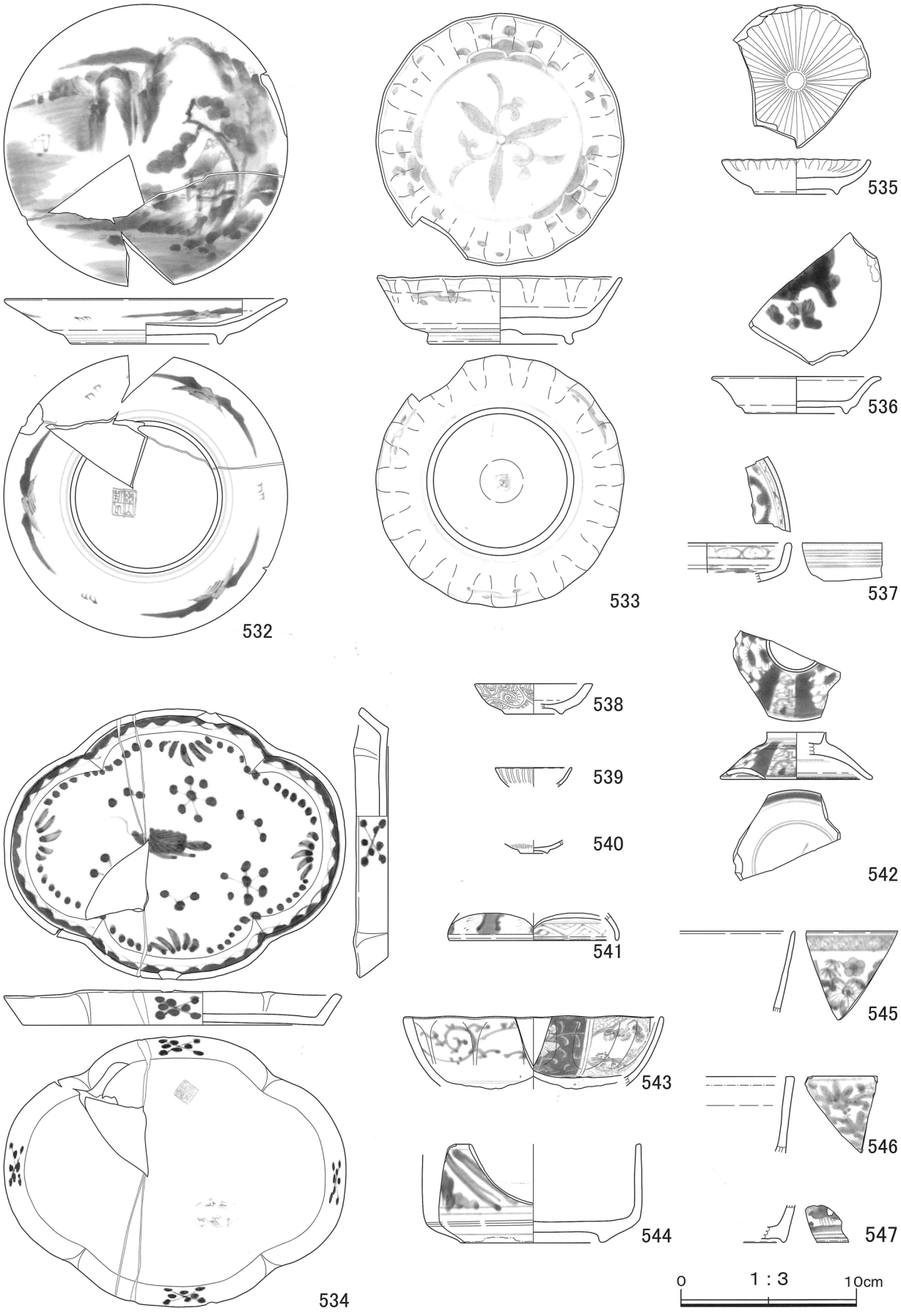
図版27　遺物実測図（1:3）



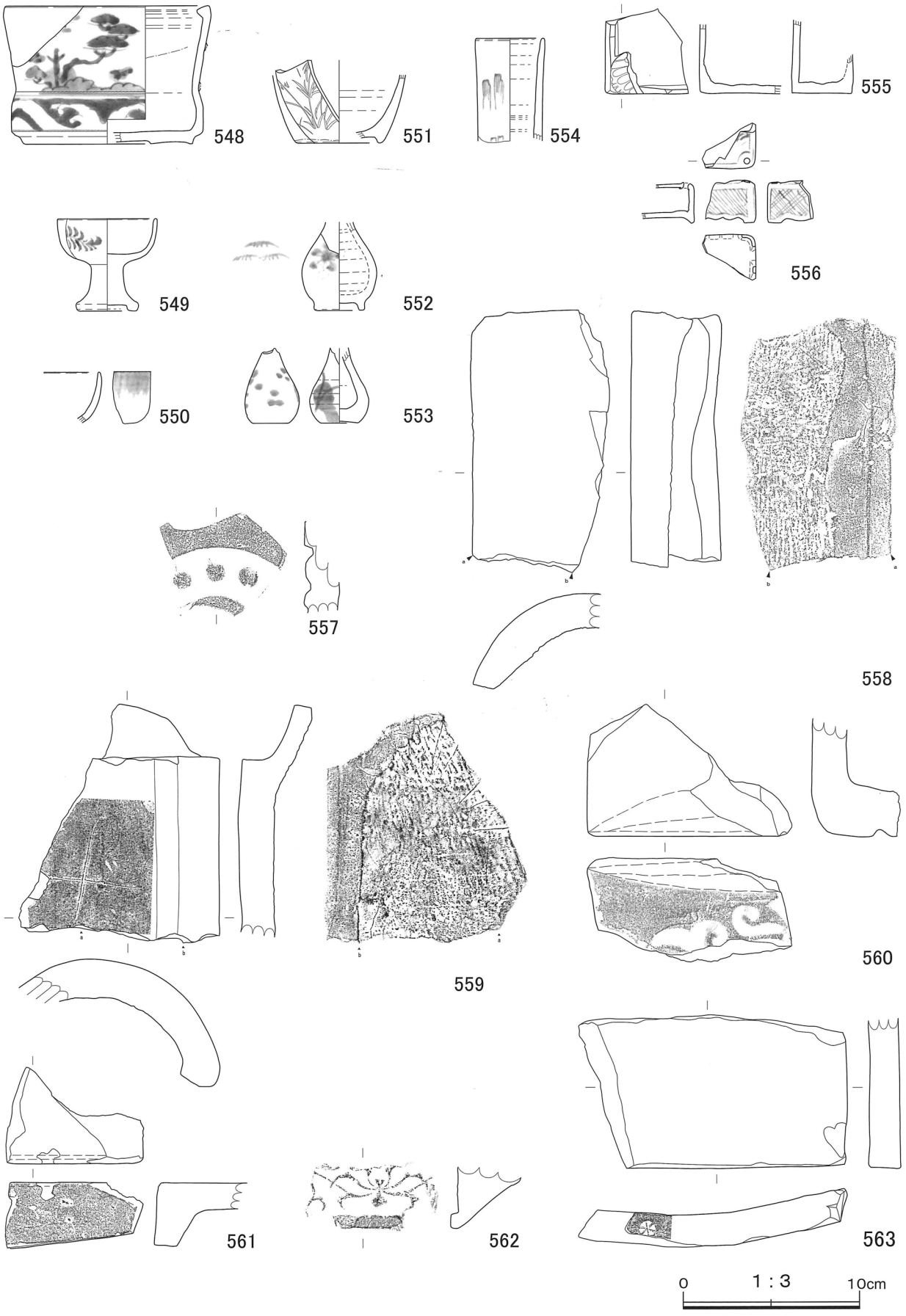
図版28　遺物実測図（1:3）



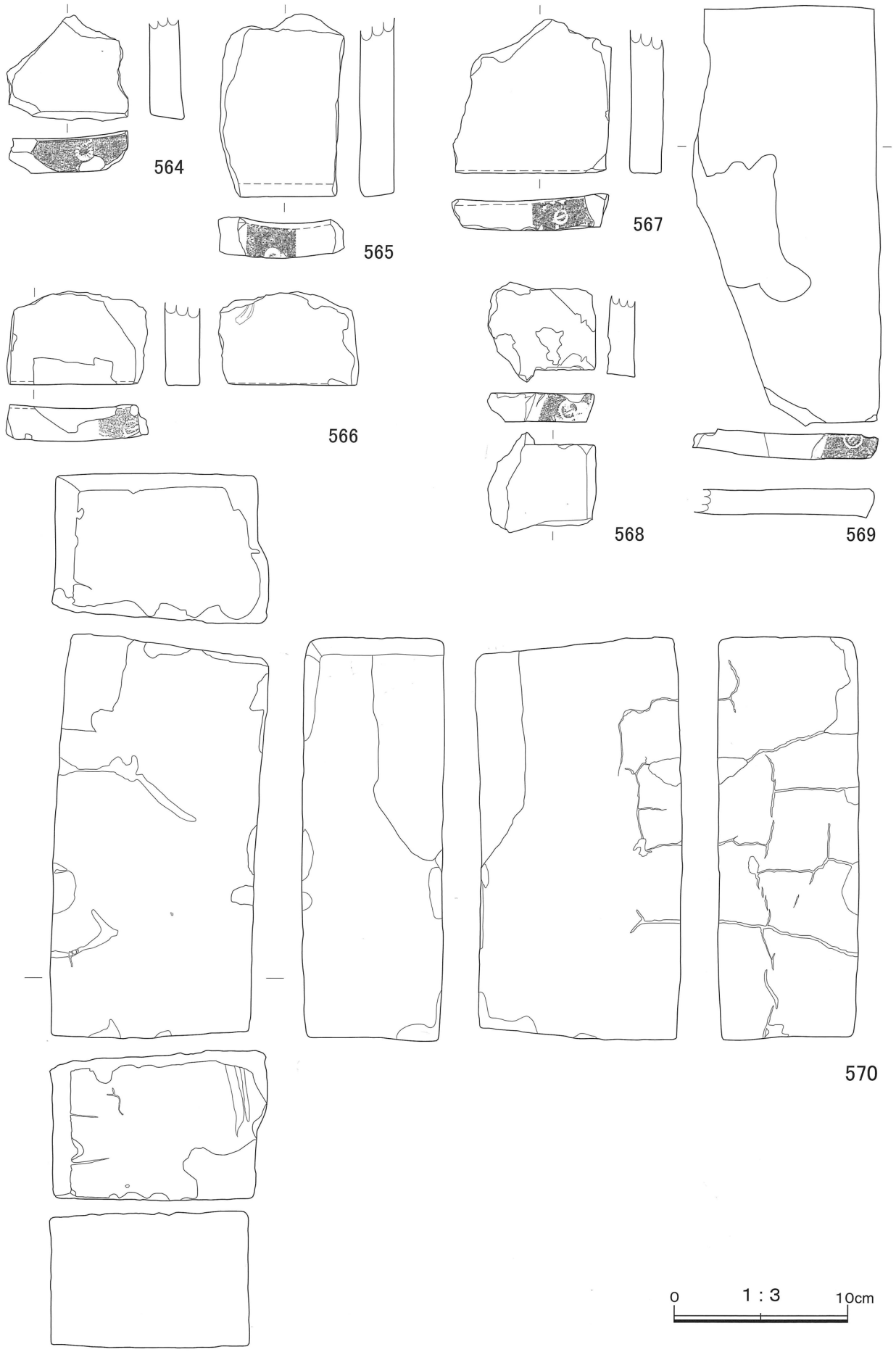
図版29　遺物実測図（1:3）



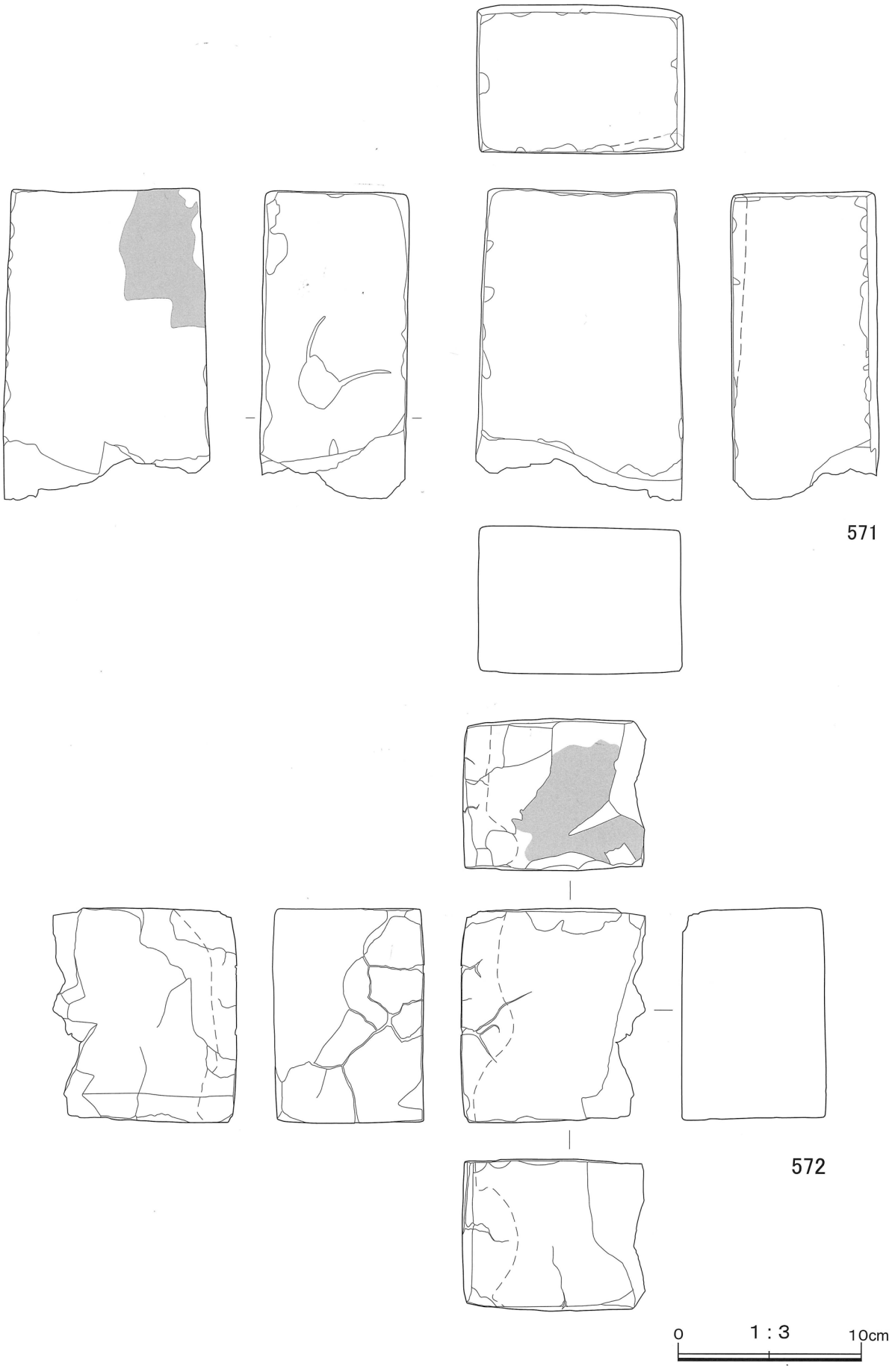
図版30　遺物実測図（1:3）



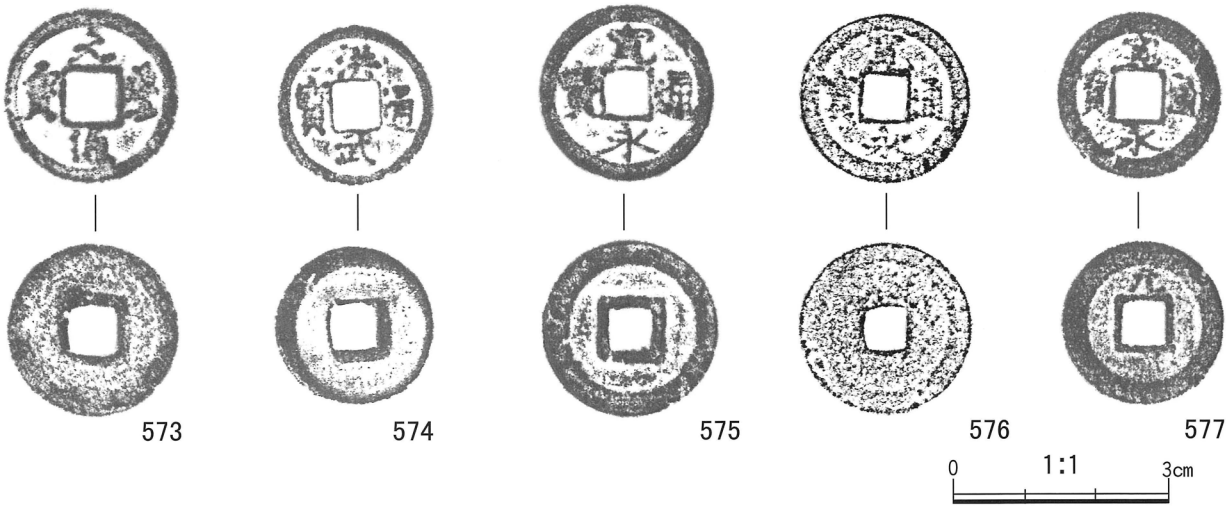
図版31　遺物実測図（1:3）

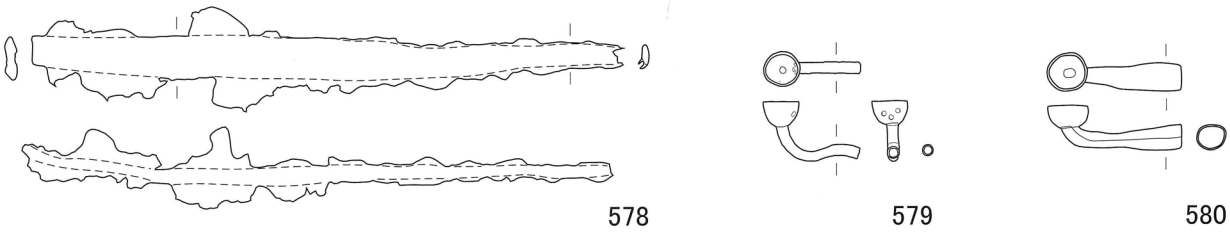


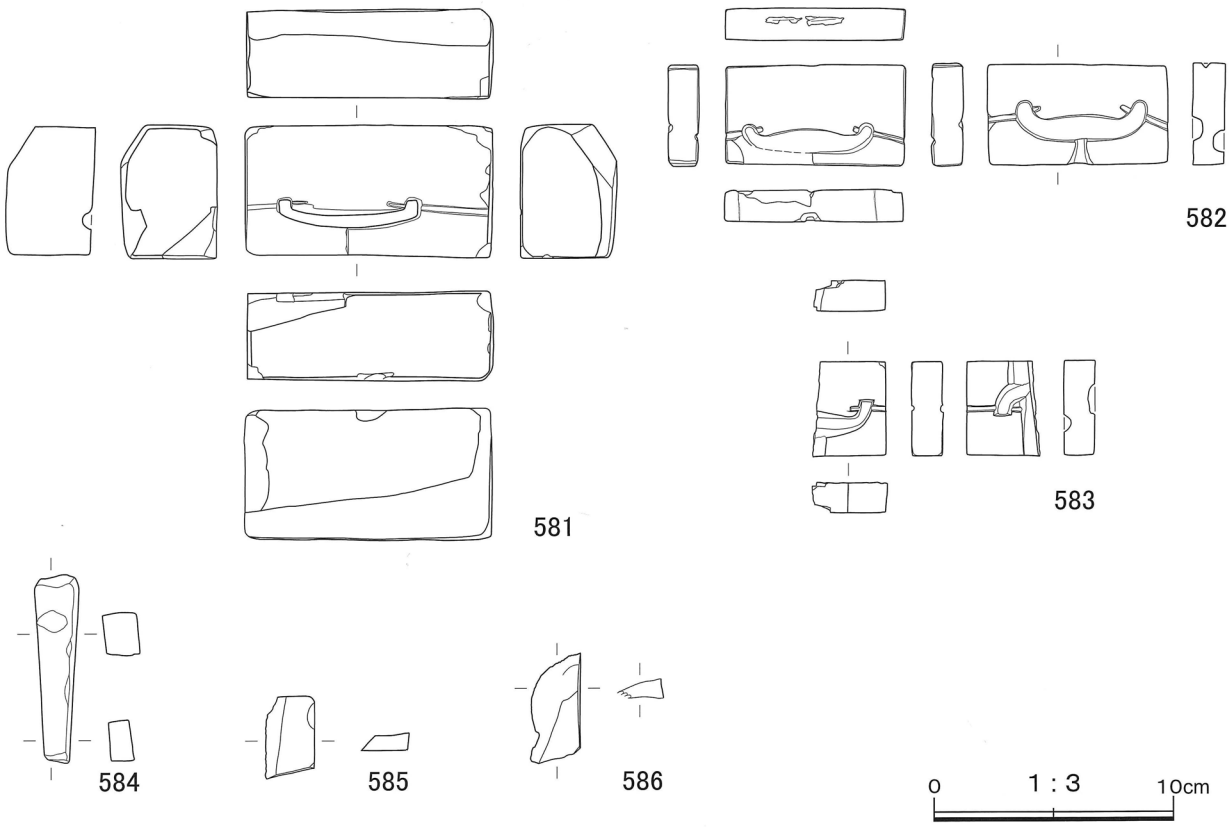
図版32　遺物実測図（1:3）



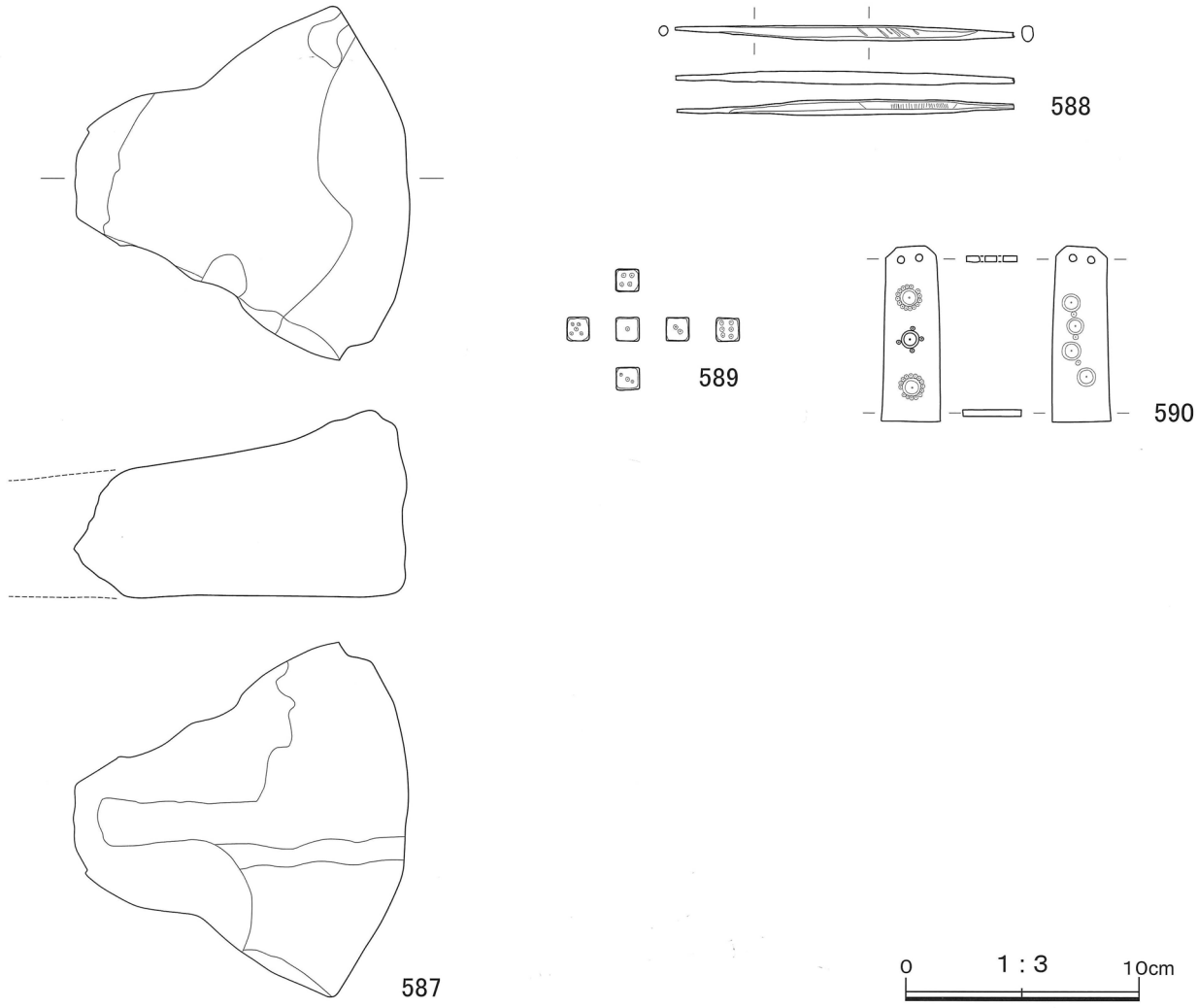
図版33　遺物実測図（1:3）





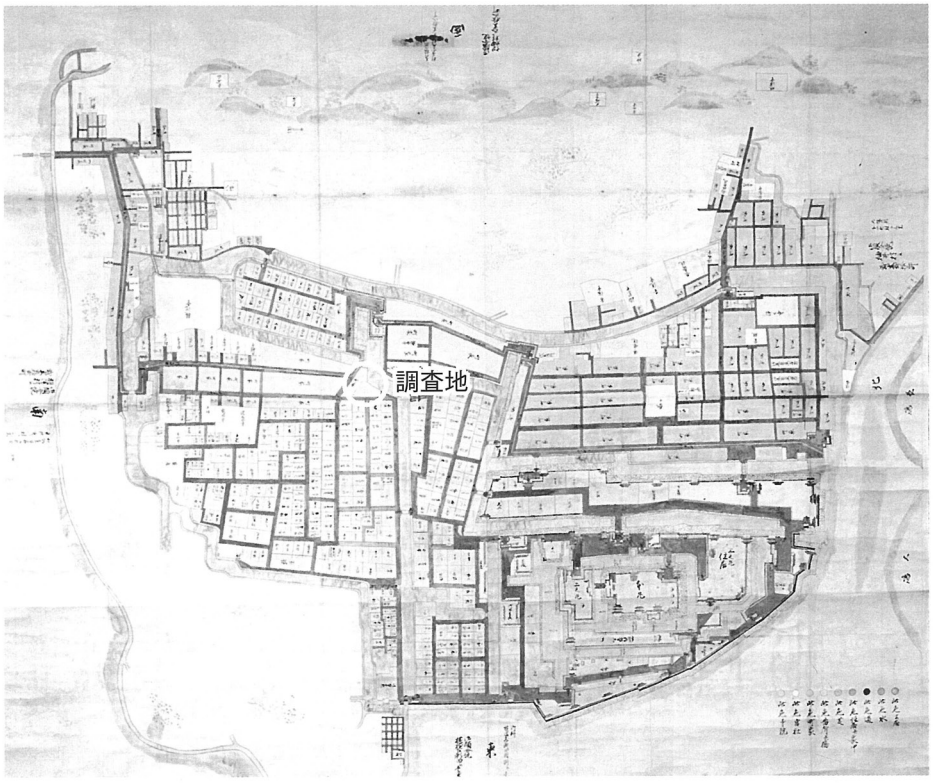


図版34　遺物実測図（1:3）



図版35　遺物実測図（1:3）

調査地点航空写真



桑名城下町絵図（文政年間）

写真図版1　航空写真　桑名城下町絵図

Ⅰ面全景（南東より）

Ⅱ面全景

Ⅲ面全景

写真図版2　遺構

発掘区西壁

発掘区南壁

発掘区南壁（部分）

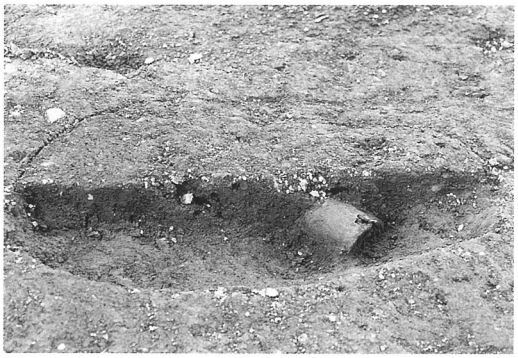
写真図版3

Ⅰ面土坑1半裁状況

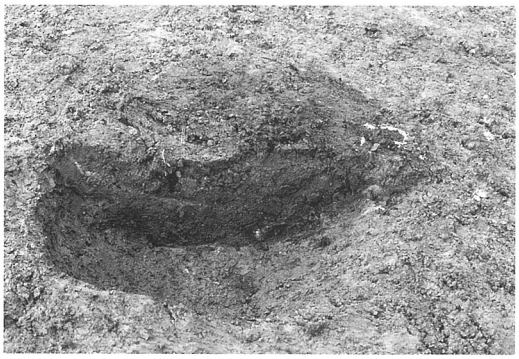
Ⅰ面遺物（422）出土状況

Ⅰ面土坑2半裁状況

Ⅱ面土坑1、2周辺



Ⅰ面土坑14半裁状況



Ⅱ面土坑5半裁状況

Ⅰ面土坑17

Ⅱ面土坑19半裁状況

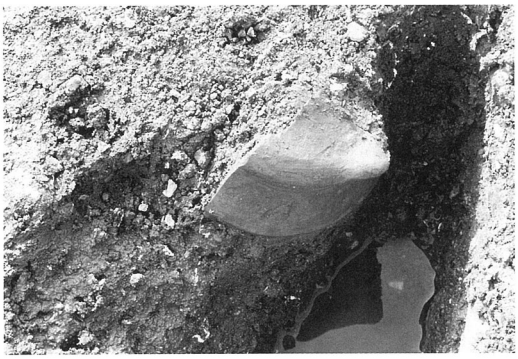
写真図版4　遺構

Ⅱ面溝1

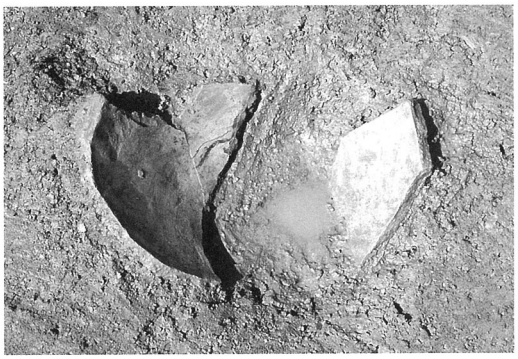
Ⅲ面土坑5半裁状況

Ⅱ面溝2、3

Ⅲ面土坑25断面（部分）



Ⅲ面土坑2遺物（449）出土状況

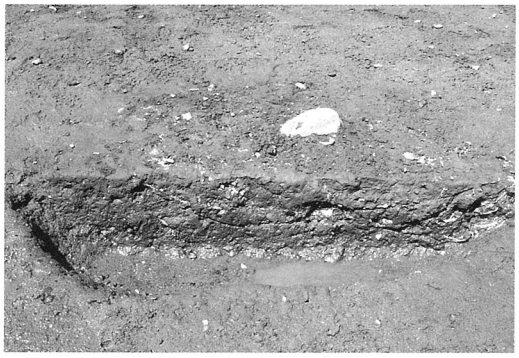


Ⅲ面土坑28

Ⅲ面土坑2

Ⅱ面土坑35半裁状況

写真図版5　遺構



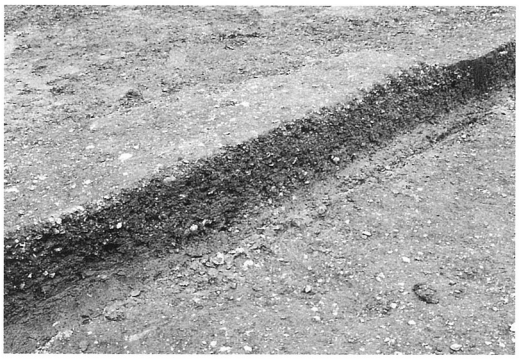
Ⅲ面土坑51半裁状況

Ⅲ面トレンチ1（部分）

Ⅲ面土坑57半裁状況

Ⅲ面トレンチ2

Ⅲ面溝1～4



Ⅲ面トレンチ3

Ⅲ面溝1、4断面

作業状況

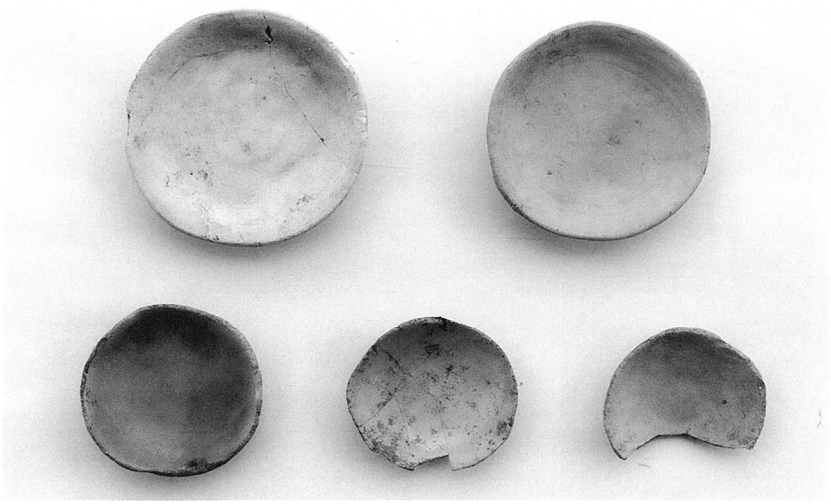
写真図版6　遺構

352　351

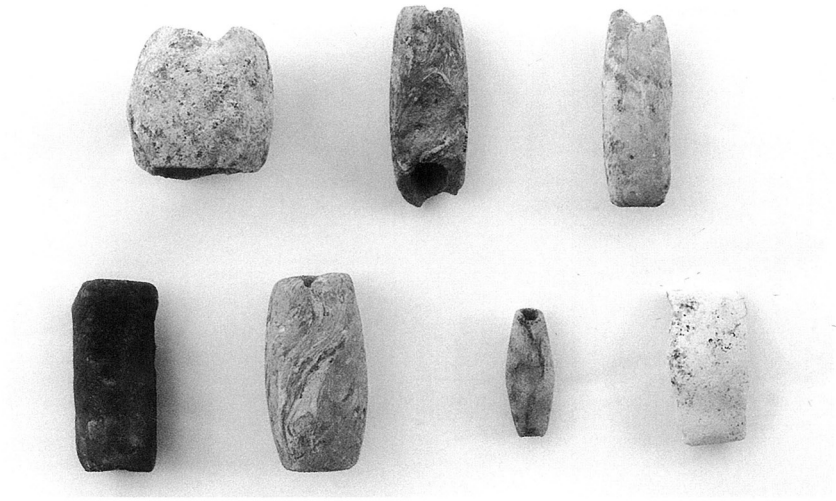
581
583　582

右　590 表
左　590 裏

写真図版 7　遺物



33　41
60　62　63



184　185　186
187　188　189　190

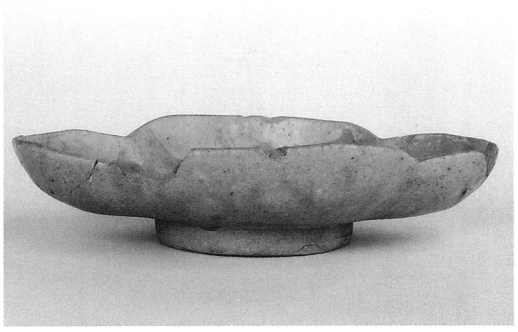
139　130
148　157

写真図版8　遺物

299

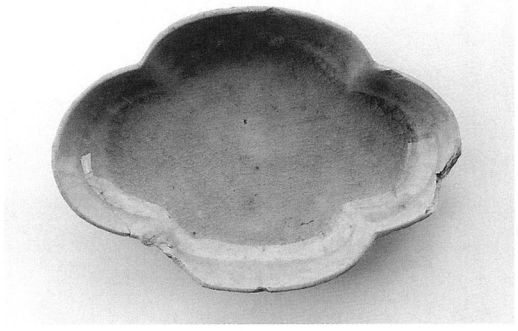
334

302



350 側面

305

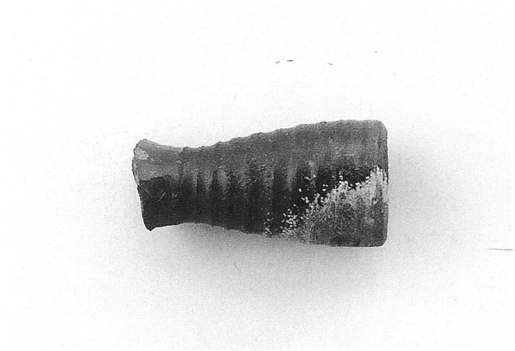


350 上面

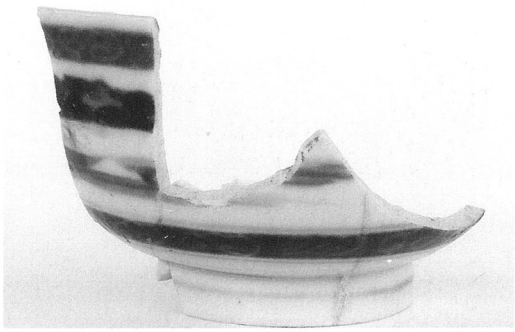
318

361

写真図版9　遺物

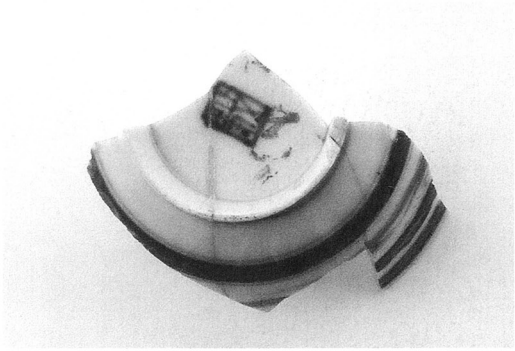


413



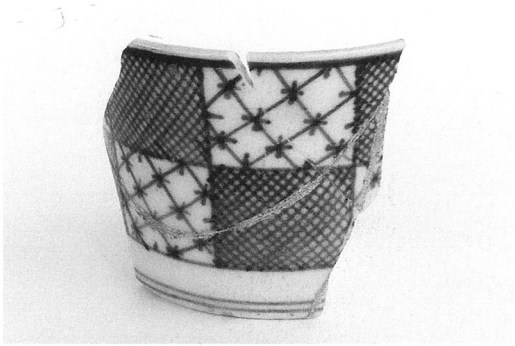
503 側面

433



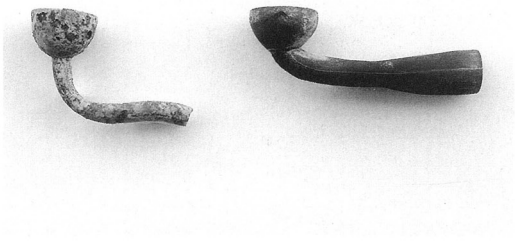
503 裏面

458



516

500



左　579　右　580

写真図版10　遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	くわなじょうかまちいせきはっくつちょうさほうこくしょそとぼりさんじゅうちてん
書名	桑名城下町遺跡発掘調査報告書 外堀30地点
編著者名	斎藤理、水谷芳春、黒澤一男、新山雅広、植田弥生、藤根久
編集機関	桑名市教育委員会
所在地	511－8016 三重県桑名市中央町二丁目37番地 TEL 0594－24－1361
発行年月日	西暦2004年3月31日

所有遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村遺跡番号	北緯	東経	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
桑名城下町遺跡（くわなじょうかまちいせき）	外堀30地点（そとぼり ちてん）	№.99	35°3′25″	136°41′50″	20030120～20040331	540㎡	マンション建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桑名城下町遺跡	集落跡	近世 中世	土坑 溝	近世陶磁器 中世時期	

三重県桑名市

桑名城下町遺跡発掘調査報告書

外堀30地点

2004年３月31日

編集・発行　桑名市教育委員会